

宮城県芸術年鑑

令和2年度

宮城県

はしがき

文化芸術は私たちに潤いのある豊かな生活をもたらすとともに、人と人との結びつきを強め、人々の心を癒し励ます大きな力を持つております。昨年は、新型コロナウイルス感染症の影響で、公演や展示といった多くの文化芸術活動が休止・延期を余儀なくされ、その後も様々な制約の中で活動せざるを得ない状況が続いておりますが、このような時にこそ、文化芸術の果たす役割は大変重要なものであると感じております。

本年鑑は、宮城県の文化芸術活動のより一層の活性化を図るため、一年間の活動内容等の記録をまとめ刊行しているもので、今回で五十巻目となります。

令和二年度は、県において、新型コロナウイルス感染症の影響により文化芸術活動を自粛せざるを得ないプロの芸術家が制作した動画作品をWeb上で配信する「トモシビ・プロジェクト」を実施したほか、「みやぎ県民文化創造の祭典」において、コロナ禍における公演活動の新しい収益確保の手段や鑑賞スタイルを確立するため「新型コロナウイルス対策事業」として「芸術銀河・動画配信スタートアップ支援事業『トモシビ+（プラス）』」を実施いたしました。

このほか、宮城県美術館では「ウィリアム・モリス原風景でたどるデザインの軌跡」や「東日本大震災復興祈念 東山魁夷 唐招提寺御影堂障壁画展」など、東北歴史博物館では「みやぎの復興と発掘調査」や「GIGA・MANGA 江戸戯画から近代漫画へ」などを開催し、多くの皆様に足を運んでいただくことができました。

本年は、東日本大震災から十年が経過し、新たな県政運営の指針である「新・宮城の将来ビジョン」の初年度となります。県といたしましても、県民の皆様がより一層芸術や文化に親しむことができる環境づくりに取り組んでまいります。

結びに、本書の刊行に当たりまして御執筆いただきました諸先生をはじめ、貴重な写真や資料を提供いただきました関係者の皆様に対しまして、心から感謝申し上げます。

令和三年四月

宮城県知事 村 井 嘉 浩

芸術年鑑

もくじ

各ジャンルの動向

● 総論	古関 良行	7
● 日本画	庄子 幸一	14
● 洋画	大嶋 貴明	25
● 彫刻	佐藤 淳一	33
● 工芸	川北 京子	39
● 書	渋谷 青龍	49
● 写真	清水 有	56
● 文芸	玉田 尊英	68
● 洋楽	小山 和彦	74
● 邦楽・芸能		

● 古典芸能	小塩さとみ	79
● 民俗芸能	小塩さとみ	82
● 三曲	宮澤 寒山	85
● 長唄	杵家弥登鈴	89
● 民謡	二代目 藤本 和夫	91
● 演劇	鈴鴨 久善	93
● 洋舞	高橋 厚子	101
● 日舞	大須賀 豊	105
● 茶道	児玉 宗睦	110
● 華道	西村 一観	115
● メディア芸術	清水 建人	125

広域文化団体の文化活動記録

宮城県における文化行政の概要

（おことわり）本文に掲載されている方の敬称は原則として省略しています。

各ジャンルの動向

総論

【総論】

新型コロナウイルスの国内での感染拡大を受け、全国でイベントや催しの中止、延期が相次ぐ中で、宮城県内でも展示会や演奏会、各種の公演など文化活動が制限され、大きな影響が出た。一方で、ライブのオンライン発信や「三密」を避けた展示会、公演が模索されるなど新たな試みも出てきた。アフターコロナを見据え、芸術・文化活動の在り方をいま一度考え直す時期にきている。

コロナ禍による活動の抑制は半面、芸術や文化がいかに国民の生活に潤いを与え、豊かさをもたらすかを改めて再認識させた面もある。ただ、芸術・文化活動に携わる団体や個人の多くは、経済的に厳しく、支援に頼らざるを得ないのが実情だ。コロナ禍で追い打ちをかけられた団体、個人への公的な支援はどうあるべきか。将来の創作の担い手をどう育成するのか。多様な文化をどのように守っていくのか。行政の役割についても考え直さなくてはならない。

宮城県の文化行政、文化施設の在り方を巡っては、歴史的な一年ともなった。宮城県美術館（仙台市青葉区）を仙台医

療センター跡地（宮城野区）に移転新築する構想を掲げた村井嘉浩知事は十一月十六日、移転を断念し、現地存続させると表明した。芸術関係者や学者、住民の反発をはじめ、各方面に波紋を広げた計画は公表から一年、撤回という形で幕を下ろした。

県は当初、移転新築すれば国の有利な起債制度を活用でき、建設費などの面で有利と理解を求めた。これに対し県民の多くは、日本を代表する近代建築家の故前川國男氏が設計した建物の文化的価値や、県美術館の立地環境などを評価する声に共感した。そもそも、唐突な移転新築計画には当初から、「政策形成過程の軽視、不透明」という批判が多かった。

「コストの損得勘定とは別問題」とする市民らの運動に押され、村井知事は計画を見直した格好で「行政経営的視点に文化の視点を取り入れ、最終判断した」と総括した。県の重点施策を見直させ、文化施設を守った市民運動は、多くの県民から共感を得た。

一連の問題は、県民が文化行政を見つめる契機にもなった。運動に携った関係者からは「文化行政は住民や関係団体の声

を聞き、市民参加型で計画を作ってほしい」との声が出た。県美術館のような文化的な価値を施策にどう生かすのか、行政の在り方も問われる。われわれ一人一人も芸術・文化活動がますます高まるよう、文化行政に関心を持ち続け、対話を重ねることが大事になるだろう。

【美術】

多方面に波紋を広げた宮城県美術館の移転構想が十一月、村井嘉浩知事の断念表明で幕を閉じた。近代建築の巨匠、故前川國男氏による設計や周辺環境といった文化的価値を軽視し、経済合理性を優先して議論を進めているとして、県の姿勢に多くの県民が反発し、疑問を投げ掛けた。

村井知事は構想見直しに至った理由として「美術館の文化的価値を再評価した。当初、私には文化的価値が見えていなかった」と説明した。美術家のみならず、建築家や東北大学の学者、市民ら幅広い人々を巻き込んだ反対運動が県の方針を覆した。

美術館の改修計画について、県は現在の講堂部分を県民ギャラリーなど多目的スペースに整備し、増築せずに令和七年度にリニューアルオープンする予定だ。県と県民が一体となって、現代にふさわしい美術館をつくり上げていくことが求められる。

新型コロナウイルス感染症の流行で、県内の美術界は企画展の中止や日程変更など対応を強いられた。四、五月に開催予定だった東北最大の公募展、河北美術展は東日本大震災発生の平成二十三年以来の中止となった。せんだいメディアテーク（青葉区）など県内の美術館やギャラリーは軒並み臨時休業に追い込まれ、発表の機会を失った作家たちは大きな打撃を受けた。

閉そく感が漂う中で、現代アート系作家たちは表現を模索した。ギャラリー「SARP」（青葉区）は六、八月、会場を無人状態で開放し、作品を毎日ツイッターで発信した。コロナ禍を逆手に取り、ギャラリーを継続させ、作品を記録、発表する革新的な取り組みだった。

仙台市内で開かれた無審査の公募展「せんだい21 アンデパンダン展2020」（十月）では、防護服に身を包んだ女性の彫刻など新型コロナウイルスを連想させる意欲作が目立った。言葉にならない怒りや不条理が昇華した作品は時代を象徴し、胸を打った。

新設された第一回杜のみやこ工芸展（十一月、TFUギャラリーミニモリ）では、陶磁、染織など十二部門で二百三十点が選ばれた。平成四年から二十八回続いた河北工芸展を継承し、河北新報社が県芸術協会と共催した新たな工芸展だ。杜のみやこ工芸展大賞には仙台市の小林寛子さんの染織「こ

ぎん刺しタペストリー『明日へ』、河北新報社賞には仙台市の田中泰雄さんの漆「かまきり」、宮城県文化振興財団賞には秋田県大仙市の倉橋正伸さんの木竹「青葉の舞」がそれぞれ選ばれた。コロナ禍にあって、多くの作家が力強い作品を出品した。

県美術館では、特別展「ヨーロッパの宝石箱 リヒテンシュタイン侯爵家の至宝展」（七～九月）が開催された。ペーテル・パウル・ルーベンスなどの華麗な名画が来場者を魅了した。特別展「東日本大震災復興祈念 東山魁夷 唐招提寺御影堂障壁画展」（九～十一月）では迫力ある全六十八枚のふすま絵が並び、自然を情感豊かに描いた東山芸術が人気を博した。東北歴史博物館（多賀城市）の特別展「G I G A ・ M A N G A 江戸戯画から近代漫画へ」（七～九月）は、葛飾北斎の浮世絵や「のらくろ」などの人気キャラクターを通し、漫画の歴史と魅力を紹介した。

訃報では、河北文化賞受賞者で県芸術協会理事長を平成四年から三期六年務めた洋画家の成瀬忠行さん（仙台市）が令和三年三月に九十六歳で亡くなった。

【音楽】

音楽界も新型コロナウイルスに直撃された。全国に感染が拡大するにつれ、県内各地のホールも閉館や催しの開催自粛

を余儀なくされた。演奏会を訪れる人は目に見えて減少した。年度替わりの頃には、ほぼ全ての公共ホールが閉じられ、演奏会は中止となった。そうした状況は六月頃まで続いた。閉鎖や休業を強いられた民間ライブハウスなどは経営的に深刻な影響を受けた。

「楽都」を掲げる仙台恒例の「とっておきの音楽祭」（六月）、「定禅寺ストリートジャズフェスティバル」（九月）、「仙台クラシックフェスティバル」（十月）も、中止せざるを得なかった。仙台オペラ協会の第四十五回記念公演「魔笛」（九月）は翌年に延期された。

困難な状況に直面した音楽関係者は、クラシックやポピュラーを問わず、決して手をこまねいていたばかりではない。仙台市郊外のホテルでは、広い駐車場を生かしてドライブイン型のクラシック演奏会シリーズが開かれるなど、音楽家たちは難局を乗り越えるため知恵を絞った。

仙台市中心部に四月オープンした小規模ホールは、対策に工夫を重ねた。記念演奏会が全て中止となり、スタートが六月中旬にずれ込んだが、従来の会場設営や出演者の身支度を全面的に見直し、コロナ後の演奏会の在り方を模索した。入場者の消毒を徹底し、連絡先を把握。百人収容のところを半数にとどめ、客席と向き合う位置の出演者はマスクを着用し、仕切り板を活用するなどした。

大規模な演奏会開催は、六年ぶりとなる仙台フィルハーモニー管弦楽団と山形交響楽団の合同演奏会（七月）まで待たされた。舞台上の密集を避けるため、当初予定していた曲目を編成が比較的小さい作品に変更。観客も前後左右を空ける配置にするなど感染対策に注意を払った。

仙台フィルは定期演奏会を七月に再開。編成縮小によるプログラムに変更したり、入場者数を制限したりするなど対応を練った。年末の風物詩である特別演奏会のベートーベン「交響曲第九番」は、別プログラムに差し替えた。令和三年一、三月の定期は、没後二十五年に当たる作曲家、武満徹さん作品を連続して取り上げた。

一方で、コロナ禍によりオンライン演奏会が隆盛するなど、新型コロナウイルスは思いがけない効用ももたらした。音楽家たちは過去の映像・音源を公開したり、新たに録音・録画したりした。市民を元気づけるため無料で公開する作品もあれば、音楽家の収入の柱となる有料配信も活発に行われた。苦境にあるライブハウスを支援しようと、若いアーティストたちがオンラインライブや楽曲配信の収益をライブハウスに贈る活動なども出現した。

クラシックを地域に根付かせようとする試みも出てきた。仙台市泉区のイズミティ21を会場に、仙台フィル首席チェロ奏者の吉岡知広さんが中心となり企画する演奏会シリーズ

「イズミノオト」がスタートした。毎回一人の作曲家に光を当てるのが特徴で、音楽ファンに徐々に浸透している。

仙台フィルのソロ首席チェロ奏者、三宅進さんが音楽監修し、仙台市宮城野区文化センター・パトナホールで開催する室内楽シリーズ「ミュージック・フロム・パトナ」は七年目となり、意欲的なプログラムに多くのファンが定着した。

仙台市が進める新音楽ホール建設計画は、青葉区のせんだい青葉山交流広場が設置場所として最有力視されている。現在の市民会館と市戦災復興記念館の機能も集約する方向だ。

【文芸】

コロナ禍で不要不急の外出がはばかられる異例の一年だったが、見方を変えれば、いつも以上に自宅で文学に親しむ時間が増えられたとも言える。出版時期がずれ込むなど一部影響はあったが、引き続き県内作家による活発な創作活動が見られた。

第三回仙台短編文学賞で大賞に選ばれたのは、仙台市の書店員佐藤厚志さんの「境界の円居」。気仙沼で新聞配達をする高校生の視点で、東日本大震災の記憶と被災地に生きる人々の思いをすくい取った。選考委員を務めた柳美里さんは講評の冒頭で「躊躇なく言い切る。傑作である」と賛辞を贈った。三回目にして初めての県出身者の大賞受賞となり、佐藤

さんは県芸術選奨新人賞（文芸）も受けた。平成二十九年に新潮新人賞の「蛇沼」でデビューした文壇注目の書き手である。

仙台市の伊坂幸太郎さんはデビュー二十年の節目を迎えた。自ら「自信作」と称して送り出した「逆ソクラテス」は柴田錬三郎賞に輝く。小学生を主人公に、不本意な日常を鮮やかに反転させる、したたかであつすぐなメッセージを放つた。

熊谷達也さんは河北新報に小説「明日へのペダル」を連載、コロナ禍で自転車生活に目覚めた中年サラリーマンを生き生きと描きだした。渡辺優さんの「悪い姉」は、毒姉に翻弄される妹の内面を切実に、だが小気味よく描き出した快作だった。

怪談作家の活躍も続く。涌谷町の郷内心瞳さんは「拝み屋異聞 弔い百物語」などを、気仙沼市の小田イ輔さんも「怪談奇聞 噛ミ狂イ」をリリースした。

「真田啓介ミステリ論集 古典探偵小説の愉しみ」は、全二巻で計千ページ近くある異色の評論集。仙台在住の知る人ぞ知る探偵小説研究家によるこれまでの原稿を地元の出版社「荒蝦夷」がまとめた。緻密な作品分析は、各地の愛好家の支持を集め、第七十四回日本推理作家協会賞（評論・研究部門）に輝いた。

仙台文学館の企画展「作家・編集者佐左木俊郎―農村と都市 昭和モダンの中で―」は、大正から昭和初期にかけて活躍した大崎市出身の佐左木に光を当て、東北文学の知られざる一面を開く意義深い展示だった。

小中学生対象の詩のコンクール、第六十一回晩翠わかば賞は加茂小三年田中基君の「米とき」、同あおば賞には宮城野中三年菅野一彩さんの「いのり」に決まった。

宮城にゆかりの深い俳句結社「駒草」のベテラン、蓬田紀枝子さんと若手の浅川芳直さんは「俳句四季大賞」「同新人賞」を受賞。師弟そろっての快拳は話題を呼んだ。若手の短歌グループ「短歌部カブカブ」を率いる石巻市の近江瞬さんは第一歌集「飛び散れ、水たち」を出版、好評を博している。

「みやぎ民話の会」顧問の小野和子さんの五十年にわたる民話採訪の活動を記録した「あいたくて ききたくて 旅にでる」は「鉄犬ヘテロトピア文学賞」を受けた。

地域誌「石巻学」第五号は文学がテーマで、詩人の吉増剛造さん、作家のドリアン助川さんらが寄稿した。震災で姉を亡くした石巻の中学一年佐藤珠莉さんの胸打つ短編「真つ白な花のように」にも内外の注目が集まった。

震災十年という節目に、言葉の力を信じるさまざまな試みが動きだしている。「みちのく妖怪ツアー」シリーズが好評の県内の児童文学作家らでつくる実行委員会は「みちのく童

話賞」を立ち上げ、詩誌「ココア共和国」は詩の公募賞を創設した。

宮城を拠点に七十三年の歴史を持つ結社誌「川柳杜人」が十二月発行の通巻二百六十八号で惜しまれながら終刊した。

【演劇】

新型コロナウイルス感染拡大により、演劇・舞踊界も公演の中止・延期が相次ぎ、大きな打撃を受けた。その一方で、動画配信を中心に活路を模索する動きが各地であった。

コロナ禍さなかの五月、仙台市の俳優渡部ギユウさんの個人事務所「ヨネザワ・ギユウ・オフィス」が、市内の飲食店やカフェで朗読劇を行う「仙台まちなかシアター」のインターネット配信を始め、存在感を示した。活動休止状態の仙台市の老舗劇団「I・Q150」や、佐取純子モダンバレエスタジオなども動画の配信を試みた。

県内最大の被災地とされる石巻市を演劇で活性化する「いしのまき演劇祭」はコロナ禍のため中止になったが、実行委員会の関係有志がプレイベントの位置づけで芝居を企画した。石巻市内の演劇団体が個別に取り組んだ舞台も目立った。石巻劇場芸術協会は六〇七月、「三密」の回避を逆手に取り、観客一人が穴から短時間の芝居を鑑賞する「のぞき穴演劇ピーピングトム」を敢行した。プレイング・ユニットの戯は

バーチャルリアリティー（VR）技術を活用して動画配信を試みた。「いしのまき演劇祭を契機に、石巻に生まれた演劇の灯を消さないように」との思いが共有されていた。

仙台市のシニア劇団まんざらは結成十周年を迎え、十一月に記念公演を行った。平成十九年に旗揚げし、実力派劇団と評価された「SEND AI座☆プロジェクト」は三月に解散した。

訃報では、仙台演劇界のベテランで、後進に大きな影響を与えた俳優小畑次郎さんが四月、六十三歳で亡くなった。

【宮城県芸術祭賞・芸術選奨】

第五十七回宮城県芸術祭（県芸術協会、県、仙台市、河北新報社など主催）の最高賞・県芸術祭賞は、日本画が山本政彰さんの「宵の音」、洋画は佐藤結さん「掌中の珠」、工芸は横田美和さん「手緞八寸帯『夏河原』」、彫刻はしようじこずえさん「こころね」、書道は菅原紫雲さん「劉滄詩」、文芸は水戸一志さんの「コロンブスの卵」（川柳）、写真は白旗成典さんの「十二神将 冬の候」がそれぞれ受賞した。

令和二年度の県芸術選奨は、美術が日本画の安住英之さんと洋画の森敏美さん、工芸の小川和子さん、音楽は佐藤寿一さん、メディア芸術は仙台短篇映画祭実行委員会が選ばれた。新人賞は、美術が洋画の山本泰士さん、書の千葉四帆さん、

写真の伊東卓さん、文芸は佐藤厚志さん、演劇は芝原弘さんが受賞した。

古

関

良

行

(河北新報社生活文化部長)

日本画

振り返れば新型コロナウイルス感染予防の一年だった。風邪とインフルエンザの違い程度の知識しか持たず当初「新型コロナウイルス」と言われてもピンとこなかった。スペイン風邪に喩えられ感染情報が連日報じられるようになる。「マスクの着用」「ホームステイ」等々の自粛生活。二月から秋口までの約半年間の開催予定の展覧会は軒並み中止となった。「ロックダウン」の言葉から「メルトダウン」へと東日本大震災をも想起させ、「命を守る行動を」の政府広報の声掛けの中、何をすべきで何をすべきではない、を自問自答しながらの慎重な行動とその取り組みが問われるようになった。「見えないものを形にする」創作の世界に「見えないウイルスとの闘い」が新たに加わった。やっとワクチン接種の声が聞かれるようになったが緊急事態宣言解除後の感染リバンドの懸念など未だ先は見えず、長丁場になるのは必至。そんな制約の多い状況下にあっても「発表」までこぎ着けた展覧会は少なくなかった。発表の目的を「自作を世に問うこと」だとすれば、その発表の場がいかに大切かを改めて考えさせられたコロナ禍の一年でもあった。

郷里が広島の変光は東京に基盤を置きながらも産業奨励館（原爆ドーム）等を会場に個展、グループ展を開催。当時の画家はその立ち位置によって大きな開きがあった。変光は一兵士として出征され「絵筆が銃に替わるのですから一寸まごつきましようが頑張ります」「此でどうにか戦時下の男になれそうです」と書き残している。最後の発表は第三回新人画会展（銀座・資生堂画廊）への自画像「白衣の自画像」を友人に託しての出品であった。変光がアメイバー赤痢など併発せず無事復員していたならどこでどのような作品を発表しただろうかと、宮城県美術館所蔵「洲之内コレクション」の「鳥」を観てはそんな事に想いを巡らせる。エゴン・シーレは師のグスタフ・クリムトの後を追うようにスペイン風邪で亡くなっている。二人が病に倒れていなかったら：と、ついあり得ない「もしも」を考えてしまう。作品から見えてくる、作者との勝手に根拠の無い会話「仮想鑑賞」が出来るのも異空間にも似た美術館が存在すればこそである。画廊も含め本物の作品に接することの出来る場、そして建物、世界遺産に成らずとも鑑賞者だけで無く、作家にとっても、この上なく

大切な場所である。「いつ」の制作年「どこで」の発表場所は画中のサイン同様しっかりと書き記しておきたいものである。どのような作品を発表したのか、の「どこで」を是非、維持存続させてほしいと願っている。

「佐藤朱希 日本画展」(三月二十五日～三十一日 せんだい三越 本館七階 アートギャラリー)

日展等で活躍中の県を代表する作家の一人。ことさら取り上げ私が云々書くべき作家ではない。すでに独自の世界を確立し「次はどんな作品を」と期待される作家でもある。私小説的なテーマと色使いから一見雰囲気流されそうな小品の中にも概念的なこれまでの日本画では収まらない斬新な試みが感じられた。巧みにしっかりと組み立てられた画面構成に女子美卒がうなずける。小品には小品故の難しさもあるが楽しげに絵筆を奮う氏の姿が伝わってくる。しかしなんと言っても会員として日展に毎年出品している大作こそが氏の真骨頂であろう。大画面にあっても緻密。銀箔の下地に置かれた岩彩、またはその逆に下地の岩彩に箔を置き、洗い取っては又彩色を繰り返して生まれる独特の色合いは岩絵の具の透過性を巧みに利用した何とも言えぬ絵肌を作っている。いつになるかわからないが、これまでの作品が一同に会した個展の開催を望むのは私だけだろうか。

「第八十三回河北美術展」中止

今回の開催で八十三回を迎える予定であったが新型コロナウイルス感染症は急拡大、審査時の安全確保と作品の搬入出時における関係者の健康と安全面を最優先とし中止に踏み切ったようだ。年明け早々新聞紙上での募集要項はじめ例年同様の対応で臨んできた河北新報社にとっては苦渋の決断だったに違いない。絵画展ばかりではない感染状況によつてこのような対応を強いられた展覧会は数え切れない。

土屋 薫 日本画展 ― 絵皿から生まれる色 ― (九月一日～六日 晩翠画廊)

「描く」から「塗る」絵に変わりつつある中で、ある面、氏の作品は「正統派」日本画と呼べるかも知れない。小下図を起こし、原寸大の下絵を作る。モチーフはより明確さを増し、本画へと移る。膠の分量にも細心の注意を払っているに違いない。デッサン力、岩絵の具の性質と使い方も熟知。近年は、モデルの特徴を見事に捉えた人物画の衣服の描写に「辻が花染め」や浮世絵版画のベロ藍を想させる「ぼかし」が画面を引き立てている。

水を媒体にした「にじみ・ぼかし」、岩絵の具の良さを損なうことなくしっかりと定着しているのは画面を「寝かせて」彩色する日本画ならではの手法からだ。書家の建部恭子氏主

宰の翔雲会に所属し墨の世界でも研鑽を重ねている。骨描きの墨に留まらず、いずれは水墨画に、と考えているのかも知れない。絵皿の中が墨に変わったとき、どんな五彩を放つか楽しみである。

〔第二十八回宮城シニア美術展 日本画の部〕（九月三日）
六日 宮城県美術館 県民ギャラリー）

今回も力作が寄せられた。本展から受ける温か味と安心感
は独特である。気負わず伸び伸びと描いている。水墨画の多
いのも特徴だ。大きさなどの応募規定からも、ないないづく
しのシニア層出品者にとってはありがたい。もっと多くの人
に知って欲しい観て欲しい、公募展である。最優秀賞「短冊
竹」高橋哲子 優秀賞「水仙」樋口富子 奨励賞「晴天白日」
桑橋千代子 奨励賞「満開なれど」佐々木幸一 奨励賞「杉
木立」坂口 智

〔第五十六回宮城県芸術祭絵画展〕公募の部（九月二十七
日）十月二日 せんだいメディアアテーク 六階ギャラリー）
洋画・日本画・水彩の区別無く審査展示の公募の部の受賞
作は次のとおり。その中から日本画の素材・材料で描かれた
作品を取り上げてみた。県芸術祭賞「初夏」渋谷いく子 優
秀賞「初秋の思い出」高橋大策 「黒いテーブル」松本俊隆

奨励賞「記憶（仲良しマネキン）」赤塚 昭 「真昼」小野寺
さゆり 「追憶の部屋」小山まり 「望郷」中島信也 「企て」
成田太郎 「石橋屋の枝垂れ桜」堀 英敏 「咲いたよ」三村
敦子 「追憶の部屋」「咲いたよ」そして賞候補の「響秋」大
槻勝美、同じく賞候補の「初めての友だち」小泉百合子はと
もに和紙に岩絵の具。どの作品も確かな技法と自己主張のあ
る仕上がりだ。どの作者もキャリア充分で今後会員の部での
活躍が期待される。

〔第五十六回宮城県芸術祭絵画展〕会員の部（十月四日）
九日 仙台メディアアテーク五階・六階）

ここ数年、日本画の部の閉塞感、は否めない。多くの部員
が感じているに違いない。「時間があれば」「お金があれば」
「体力があれば」描く、では仮に「なければ」に置き換える
と「描けない」ことになる。そもそも果たすノルマのない自
主規制だけの制作は責任を問われることはない。しかし会員
ともなれば話は別である。そんな中、公募の部の受賞者が
新会員となり今度は最高賞を受賞。しかも日本画、洋画の両
部門である。この大きな波紋、世代交代、新世代誕生への
兆しなのか、どのような広がりを見せるのか今後の推移を見
守りたい。会員として「なぜ描くのか」「発表するのはなぜ
か」を再度考えなければならぬ時期だと思う。私がまだ若

い頃、県ギャラリーで「〇〇日本画展」を開いたとき、突然、高山登氏がみえられ、開口一番「日本画という文字なんて使わんじやない」と怒った口調で言われたことがあった。それ以来日本画とは何かを考え、今も「日本画」と言われるものを描き発表し続けている。宮城県芸術祭賞「宵の音」山本政彰 宮城県知事賞「遠雷」遠州千秋 仙台市長賞「ある日の庭」中邨圭子 宮城県教育委員会教育長特別賞「ひとりの夏」阿部淑子 河北新報社賞「叢生」土屋 薫（公財）仙台市市民文化事業団賞「感激の輝き」菊地禮蔵（公財）カメイ社会教育振興財団賞「伊太利回想」武地美枝子 賞候補「勁草」柴田慶夫

〔第七十三回塩竈市美術展〕（十一月十日～十五日）ふれあいエスプ塩竈）

日本画の応募点数は十七点、招待四点。大作は少なくなつたものの力作が寄せられた。招待の四名は指導的立場で、日本画の裾野拡大に尽力されている方々でもある。公募展なので何を伝えたいのが明確で観る者にある種の強さを備えストリートに伝わるものが何よりも望ましいと考える。技法は二の次である。しかし二の次とは言つても意欲に低下を来す、剥落やひび割れはなんとしても避けたい。気候風土に合った日本画の技法もまた生活環境の変化に即し、臨機応変でなけ

ればならない。支持体が木製パネルに紙（麻紙）であり絶えず収縮している。岩絵の具のほとんどは新岩か合成である。天然と違い筆にまつわり「降り」が悪い。更には夏と冬場とでは差が出てしまう膠の濃度。「自分の表現に合った技法」以前の段階で、言わば守るべき約束事だ。喩えるなら「高いビルにはそれを支えるだけの目には見えないしっかりした基礎がある」と。塩竈市美術展賞「想」斉藤文子 塩竈市教育委員会教育長賞「望郷」丹野あき子 塩竈市芸術文化協会賞「COLORS」勅使河原和貴 塩竈市生涯学習センター審議会委員長賞「夏風に揺れて」伊藤和子 塩竈市議会議長賞「彼方より」酒井美雪 NHK仙台放送局長賞「利府菅谷不動尊」桂儀一光 杜の都信用金庫理事賞「北山崎の朝」畑山美佐 日本画奨励賞「彩り月」高橋哲子 日本画奨励賞「桜色香る」前浩理恵 招待「あじさいの詩」阿部淑子「牡丹園」鈴木理平「一本の花への想い」橋本道代「春宵」新藤圭一

「塩竈市美術展 杉村惇賞受賞者 小泉百合子 人物展」
（十一月十日～十五日）塩竈市杉村惇美術館）

県芸術協会彫刻部の会員で受賞歴多数の氏が平面の日本画を発表し、ここ数年めきめき頭角を現している。会場の中央に「クロス」「芽生え」の彫刻、それを囲むように日本画と

水彩が配置されハイレベルな三人展の様だ。いとも簡単にやり遂げるのだからその技量には驚く。「試着室にて」は着想の新しさ、彫刻で培った確かな目とデッサン力が見て取れる。鏡に囲まれた密室感も出てはいるが、複雑な構成からか空間に立つ彫像のような存在感と伸びやかさは感じられない。しかしこの作品はこれで良いのかも知れない。小賢しい絵解きを必要としないほど人物は「魅力的で」「強い」。アルベルト・ジャコメッティの絵画では粹取りにも似た線やかすかな陰影で、限られた空間を意識したかのような背景になっている。彫刻家の平面における空間処理の一つか、とも思う。どちらもジャコメッティなのだから、どうでも良いのだが、なぜか気になる。はつきりした粹取りの作品と言えば香月泰男氏を思い起こす。ブリキを使ったおもちゃ（立体・オブジェ）を数多く残しているのも何か関係がありそうだ。粘土でエスキースを造る日本画家の小嶋悠司氏等々と、例はつきないが平面における画面上の「空間と余白」は立体の無限の空間と違い形と色と同義語のように重要だ。上村惇之は「余白」ではなく「与白」と語っている。

毛利洋子 日本画展（十一月二十四日～二十九日 晩翠画廊）

春、秋の院展にも出品してこられた在仙作家の実力者の一

人。海外の風景や動物（犬）などを得意とし受賞も多数。近年は秋保の自然環境から想を得たモチーフと独特な色調で活躍。カモシカとの一瞬の「出会い」は、山に分け入って遭遇した者のみぞ知る妙なりアリティがあった。

第五十七回宮城県芸術祭絵画展 受賞者作品展

（十二月十五日～二十一日 東京エレクトロンホール宮城五階展示室）

会員の部では山本政彰の受賞作「宵の音」のとなりには新作「中国清代刺繍「頭峰十丈」模写」が並べられた。阿部淑子 菊地禮蔵 武地美枝子 土屋 薫 仲邨圭子 公募の部では三村敦子「咲いたよ」新作の「ラクダと旅人」は重厚なマチエールが目を引いた。

山口裕子 日本画展―呼吸の景―（十二月二十二日～二十七日 ギャラリー専）

氏が今年で閉じるギャラリー「専」で個展を開き画家人生のスタートを切ったのは九年前とか。そして最後の企画展が本展である。「オーナー夫妻には家族のように応援していただき言葉では言い表せないくらい感謝の気持ちでいっぱいです。」と開催の挨拶で述べている。ここに、作家の「発表」と「場」を提供するギャラリーとの密接な関係に気づかされ

る。会場は山口ワールド全開で、どんなモチーフも見事にまとめ上げる技量は天晴れ。装飾性にグラフィカルでポップ的要素の加わった作風は他分野からの注文、依頼にも応え、更なる領域拡大へとつなげている。何のてらいも無くさらりと仕上げている。やはり「画家」である。

令和二年度宮城県芸術選奨 受賞者作品展（令和三年一月十八日～二十四日 東京エレクトロンホール宮城 五階展示室）

四名と一団体の選奨受賞者と新人賞受賞の五名の作品が並んだ。副題の「みやぎ芸術銀河作品展」とおり、その活動は文化芸術に触れる機会提供ばかりでなく、多岐に渡ってのこれまでの取り組みに対し一県民としてまずは感謝したい。各ジャンルごと、時間をかけ、じっくり鑑賞することが出来た。日本画の安住英之のブース正面には四曲一隻の屏風「閑」が置かれ、個展会場のような雰囲気。本展への意気込みが感じられた。高校で教鞭を執りながらも個展はじめ河北展、院展での発表、芸協役員、日本画研究グループ主宰と、本県日本画の牽引役としても活躍。また、今年度の文化の日表彰での教育文化功労と合わせ、ダブル表彰となった。これからの画業の一通過点に過ぎないものの充分励みになったことが窺える。これから先どのような展開を見せてくれるのか更なる

活躍に期待したい。小野恬氏の個展・画集出版記念以来お会いする機会のないまま今日に至っているが「閑」の前に立ったとき、院展の小野氏から荏苒氏へと繋がる共通点を感じた。左二曲の大半を占める幹、振り分けるように枝が流れ落ちる。背景の黒ばかりでなく普通なら描き込むであろう桜の花びら枝の数、あえて描かずに、大きくとった「間合い」の感じは両氏に通じる空間の捉え方だ。ただ違うのは仕上りの黒の発色を考えた下塗りの朱、番数違いの岩黒を巧みに使った幹のマチエール等、能島和明氏のそれを感じさせる。言わば宮城の日本画の申し子的な作品に仕上がっており、日本画の基礎基本に留まらず、置かれた環境、交流のある作家から多くを学んでいることが読みとれる。加山又造氏の描く裸婦クロッキーを側で見て驚いたことがある。足から描くのだ。「閑」もまた下から上に、地から天に向けて描いたに違いないと推測。背景の黒の下地に黒箔を押ししている。奥行きと黒に深みを出さんがための効果を狙ったの事と思うが「箔端を見せれば日本画か」と揶揄されそうな工芸性に陥るパラドックスが潜んでいないこともない。全体に「技法の過剰さ」が気になった。技法が先に目につきすぎるとテーマの本質に迫ることが難しくなる。順序が逆だからである。「厳冬」の基底材は「揉み紙」サギ草の背景には「野毛」と、超絶技法のオンパレード。これら日本画独特の装飾的技法をいかに自分の画題に取り入

れるかの、果敢さには共感するものの、石膏デッサンから出
発した絵画観とこれらの技法を取り入れた日本画としての調
和にはまだ至ってはいない。加山氏のプリューゲルからヒン
トを得たと言われる「冬」の揉み紙に迫る気迫が欲しい。ち
なみに、氏は「箔を一つの絵の具として使う」とも語っている。
また私的な事になるが、かつて「山は描くものではなく登る
もの」と授業そっちのけで山行三昧だった頃、合評会出品に
窮して遂に山を描いた。結果「山の稜線をなぞっただけで山
になっていない」「絵面だけを追うのは止めなさい」と言わ
れてしまった。この師の言葉を思い起こしながら時々、私も
山を描いている。

第五回 日本画・緑彩会展（令和三年二月二十三日～
二十八日 東北電力グリーンプラザ・プラザギャラリーSO
UTE）

新藤圭一氏をはじめ故高倉勝子氏を含む六名による二年に
一度のグループ展。高橋敏子 佐藤順子 吉岡洋子 井上雅
子 新藤圭一 一年では早すぎるし二年というサイクルが
ちょうど良いのかも知れない。前回と比べメンバーの力量
アップが見てとれた。「時間」と「続ける」ことの大切さを
実感させる充実した内容となった。

震災十年 東北復興祈願企画 能島和明 日本画展（令
和三年三月三日～九日 仙台三越本展7F アートギャラ
リー）

今年度の最後を飾るにふさわしい展覧会となった。モチー
フを愛で、画材を慈しむ、その筆触は限りなく重厚で緻密。
東日本大震災から十年その間、野に咲く花々に囲まれた仏像
を描いてこられた。時には津波を思わせる墨一色の渦巻く波
頭を背景に。絵は決して無力ではない、どうしても伝え残さ
なければならぬと鎮魂と安寧とを筆に込め、祈るように描
き上げられた作品の根底に流れているのは、自然に対する畏
敬の念と「郷土愛」だ。これから先「郷土」はどのような形
で私達の前に現れるのだろうか。

庄 子 幸 一

（宮城県芸術協会絵画部部长）



土屋 薫 日本画展

- 絵皿から生まれる色 -
2020年9月1日(火) - 9月6日(日)

咲草画廊



第75回春の院展 (2020)
「図書館の精」土屋 薫



佐藤朱希 日本画展 「花音 かのん」



第28回宮城シニア美術展 最優秀賞
「短冊竹」高橋哲子



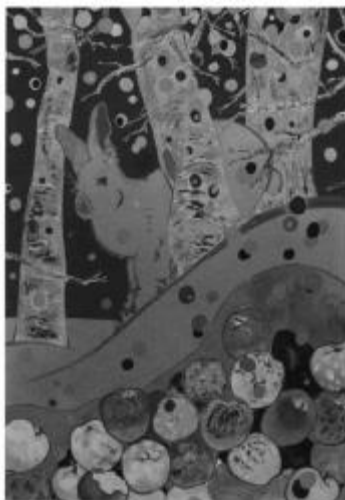
優秀賞 「水仙」樋口富子



「想」 齊藤文子
第73回塩竈市美術展 塩竈市美術展賞



「試着室にて」
塩竈市美術展 杉村惇賞受賞者
小泉百合子 人物展

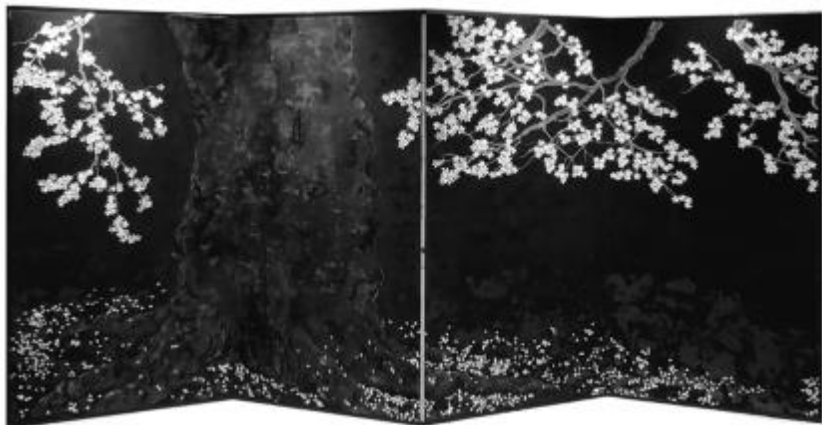


Yuko Yamaguchi Solo Exhibition - *View of breath* -
from 12.22 (Fri) to 13.17 (Sun)
at Gallery Box

山口裕子 日本画展



「出会い」
毛利洋子 日本画展



「閑」安住英之



「巖冬」安住英之



「閑」部分



令和2年度 宮城県芸術選奨受賞者作品展

「閑」部分

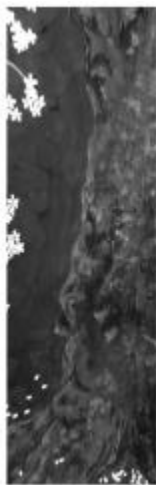


「山荘の初夏」

震災10年 東北復興祈願企画 能島和明 日本画展



「バカラの花瓶とバタースコッチ」





宮城県芸術祭賞 「宵の音」 山本政彰



宮城県知事賞 「遠雷」 遠州千秋

[会員の部]



宮城県教育委員会教育長特別賞
「ひとりの夏」 阿部淑子



仙台市長賞
「或る日の庭」 中邨圭子



河北新報社賞
「叢生」 土屋 薫



(公財)カメイ社会教育振興財団賞 「伊太利回想」 武地美枝子



(公財)仙台市民文化事業団賞
「感激の輝き」 菊地禮蔵



奨励賞
「咲いたよ」 三村敦子



奨励賞
「追憶の部屋」 小山まり

[公募の部]

洋画

令和二年は、ぼくには、画家、美術家としての人生の大部分は五十年間で、実際の作品を見た数が一番少ない一年間として記憶された。それは、あと最低二年はそういう状況を覚悟するしかないかもしれない。しかしその限られた機会を反芻してみると、記録すべき二つのことがはつきりしたように思う。

第一点は、ネガティブなこと。あえていうならば、ウェブ上の体験は多くの場合、リアルな体験を代替できない、ということである。作品の存在形式が、ウェブを主に構成されている場合を除くと、特に絵画のような形式の場合、ウェブ上では透過光で見る複製画体験でしかなく、それが、動画になっていたとしても、カメラ目線というか、その画像を成立させる主体の視点に無頓着になる。したがって、こと美術作品体験というならば、概ね、スペクタクルな見世物、娯楽に終わるように思われる。ただし、美術作品体験ということを外せば、このことは必ずしも悪いことではなくなるのかもしれないが。

一方で、ぼくにとって、本年際立った第二点はポジティブ

な出来事である。もちろん、絵画芸術にとってはささやかな事ではないかもしれないし、当事者や気づいていた方々にとってはなにをいまさらだが、おそらく、世界的に見れば、ほぼ四十年前からおこってきたことなのだろうけれど、ぼくが直接体験できる場では、人を多数集めるIIイベントが有害になったこの状況下でこそ明確化して来たように思う。

それは、美術作品の存在形式がメディアウム形式から、より自由になり、特に、「発表」つまり公共圏への投入方法が、その姿勢において従来のものとは変わったことにある。これまでは、公共圏へは闘技場的に投入され、そこでの成功が、自己と自己の表現スタイルの共同体的承認となった。したがって、どんな表現内容でも、形式・スタイルの確立というマッチョイズムに支配された。対して、大型の公募展や団体展の意味が消えた社会で絵画の発表形式として成立したのは小規模な個展である。ここでは、制度的な形式に則ったたかだか一点から二点のいわゆる大作が他との比較や対比で見るとではない。個展では自律した形式であることを示しうる最小限度のまとまりで作品が公共圏に投入され、成立するのは、

作者の自己表現の牢獄ではなく、時代や状況に敏感に反応する気分や感性を「シエア」するという、作品に媒介された感覚の共同体である。

確認すべきは、その場性や小規模性、最小限度での成立であって、作品の物的な自律性や制度へのマッチング、いわんや巨大さや作品の読みを単純化するスペクタクル性、ではない。

「小山 維子 個展 キッチン／カウンター」（一月二十一日～二月二日 Gallery TURNAROUND）

会期を見ると、まだ、ぎりぎり状況が切迫せずに余裕のある時期の展示だったというべきなのか、ある種の過去感を感じながら書いているのだが、まず特筆すべきは、個展のタイトルや付けられている小テキストである。ここでは、「関係」というものを問う場であることが「／」記号によって明示され、キーワードとして「距離感」があげられている。この予感・予兆的な方針の個展があったことは、コロナ禍の状況にとってなんと象徴的かつ予言的なことだろう。別に状況の予言のためにこの個展の作品群があるわけではないが、一般的・普遍的問いとしてこれらの作品群とキーワードは存在している。だが、その作品は少なくとも表面的には説明的な表現内容が見えないことによって、予感する感性を許容していく。

小山の過去の作品をあたってみると、絵画形式に対する様々な試みが行われている。それは、自律した作品が、時間的に空間的に、より複雑な世界と接続していけるかという、「関係」や「距離感」の問いといえるのかもしれない。その中で、今回の個展では、一見、形式の逸脱によるというよりは、形式の中の豊かさが際立っているが、画面上に現れている色彩も線、形も、具象的な表現は抑えられ、しかし、色と形の決定については、安易な決定ではなく、絵画的な試行の重層的決定であることを示している。そのことが、「なに何を見た」的な見ることの終了ではなく、終わらなき認識という感性のためたいへん開いているのではないか。

「シエア」という場の提示では、感性の方向を制限する単純な表象性は避けられねばならない。ここでは、縮約されな認識の動き、ある種の時間の積み重なりがある。

THE6 GALLERY PROJECT — 8 — 門眞 妙（二〇一九年十二月三日～一月三十一日 THE6）

前年度の年鑑の再掲をみると、「……もしかしたら、ゼロ年代的感性をそこに留まらずに広げていける一人かもしれない。「世界」との距離や関係が形式面でも多様に提示されていくのだろう。」

この時の門眞の作品について少しだけ補足すると、絵画空

間の二重性が（萌芽的なのかもしれないが）表れていたのではないだろうか。具体的には、画面に近い絵画空間上のレイヤーにひし形に編まれた金網がバリエーションとして描かれ、その後方に正面を向くキャラクターと広がる「世界」が描かれていたりする。日常的な視覚でいえば、遠近両方に同時に焦点が合うことは無い。絵画的には再現性を避ければ、それは一体化して描くことが可能で、かつ、レイヤーの違いとして認識可能になる。レイヤーは、表面効果ではなく、時間的、空間的関係を作る。そしてその事が複雑な絵画体験を可能にする。

宏美 門真 妙二人展「Swimming」（六月二日～十六日 Gallery TURNAROUND）

この二人展での門真の作品の第一印象は「アバター化された空間に投入されたキャラ」というものであった。（宏美さんの作品からはそういう感じはしなかった。）THE6作品との大きな違いは、絵画空間が画面で二重性になっているというよりは、キャラクターとそのキャラクターが投入されている場面との描写形式が違うことにある。アニメやマンガが生み出してきたフラットな描写形式と絵画が生み出してきた、例えばスケッチのような形式が、その組み合わせは変化するのだが、一つの作品の中で地と図に当てはめられて使わ

れる。THE6での作品が作品内世界とその外部の世界との対比に絵画空間の二重性が吸収されていくのに対して、今回の、キャラクター／投入世界の二重性は意外に強力で、「投入する／される」を軸に、キャラクターの「アバター」化というあり方が成立していたように思う。

また、この二人展のタイトルは「Swimming」だ。現代を表す言葉に「リキッド・モダニティ」があるが、それからすれば「泳ぐ」・「Swim」というのも時代のキーワードの一つかもしれない。まさに、二重の形式性を持つ絵画空間でアバターとしてのキャラはししようもなくしなやかに世界を泳いでいるだろうか、あるいは疎外感の表現なのか（水Ⅱメデイウムと主体Ⅱアバターの絶対的差）。そのことが、ある特定の形式への愛好や、表現内容への感情移入を超えて、時代の気分をシェアするものになっている。

佐々 瞬 作品展「泳ぎまわるあなたへ」（二月二日～十六日 東北大学大学院環境科学研究科本館1Fエレベーターホール前）

佐々 瞬 『売店「男、店を開く準備をしている」』（七月二十三日～八月二十一日 SENDAI FORUS 7F / TURN ANOTHER ROUND（アナラン））

企画展 佐々 瞬 『公園／ローカルの流儀』（十二月二十三

日(二〇二一年一月十一日 Gallery TURNAROUND)

佐々の三回の発表では、「泳ぎまわるあなたへ」は二〇一九年の台北での発表が初出)、それぞれ、何を場とするかの意識を変え、また、その場への関係の姿勢も変えながら、ある種のリサーチや、むしろ対象というよりも生活史の中でのその場の関わりをまさぐるように、多様な形式やメディアを使って作品化している。当然、完成した作品の発表ではなく、ワークインプログレッシブに、会期中にも作品の変形や、パフォーマンス、出来事が組み合わされて、あるイベントの事後的な残骸としてのオブジェから逃れている。

このような佐々の作品では、場の多面性を並行移動したようなものでも、無関係な自律でもない、場の多重性に向き合う姿勢が核心なのではないだろうか。それは、存在としては危うさを持つのだが、絵画性のほぼない佐々の発表を取り上げたのは、その危うさが絵画の存在形式、物体としてもイメージとしても自律しないあたり、に近似しているためである。場の存在自体が多重的な意味を持ち、それと作品の多重性が拮抗していく。それこそがアートといえるべきものだ。

企画展―伏見恵理子 個展「もやのかたち」(十一月十七日
Gallery TURNAROUND)

二十九日 Gallery TURNAROUND) 絵画にしかありえない絵画性だけをとりだしたような伏見

の作品は、形式的に決定された抽象でもなく、イメージを描写するものでもなく、おそらくは無理のない形式でドローイングを繰り返しながら、そのドローイングのなかで、絵の具の物性がつくりだす現象をも味わい取り込み、それを、また違う画面に置き換えてつくりだしているのではないだろうか。近作は二つのタイプとまでいえるほどのスタイルの差はないのだが、概ね二種類に分かれている。一つは、夢のようなあえかな表象性を持った絵画空間をつくりだしているもの。他方は、それだけ取り出すと固い印象になるかもしれないが、色面というか色線というべきか、色の違うそれらが、互いに反転しながら地と図の組み合わせで画面の中を埋めている表象性よりは形式性がかっているものである。

両者とも、強固なイメージの表象性とも形式的な抽象でもなく、駆動するものは違うかもしれないが感性的な認識が辿るかすかな道筋のように、終わらぬ精神のゆらぎを媒介している。

佐竹真紀子個展「波残りの辿り」(十一月六日〜十二月
二十七日 東北リサーチとアートセンター [TRAC])

二〇一五年頃からの作品《偽バス停》で知られる佐竹の、
《偽バス停》とその記録、近作の絵画五点による展示では、
二〇一七年の《Seaside Seeds》がどちらかといえば、工芸

的な感じがするのに対して、本年作の四点、特に小さいほうの三点はより絵画性が高まっていたのではないだろうか。

《偽バス停》が物としての構築物とそれが投入された現場での出来事、それは、破壊された日常のシミュラクルとして表れていた。その過程で佐竹に蓄積されたその場の記憶の語りを重層的なマチエール、重ねられた色面を彫り込んで描かれた《Seaside Seeds》に対して、技法的にはそれほど変化しているわけではないのだが、本年作は、地と図の関係が複雑に、かつ、地の側も単純で表象性の明解な色面ではなく、あいまいで不確かな関係におかれている。強い色面をつくりだす、絵の具の物性。しかし、それだけでは絵画性は生まれない。絵画は物とイメージの間にあるのだが、そして、その形成過程では、物性を手なずける以上にイメージ生成の精神的なやり取りがおこなわれる。そのやり取りが、認識不可能な現実の重層性に対する変化する感性（あるいは記憶に対するあいまいな感性）と相似な構造を持つことがあるのではないだろうか。もちろん、絵画を見る体験もまた、物を見ることから、物以上のあるいは以下の、生成の過程をたどることになる。

リキッド・モダニティ世界では、状況の変化に応じて対応を変化させねばならない。そのために、かけがえのないもの

を失っていく以上に怖いのは、状況認識もその対応も縮約され単純化したもので済まずことである。美術もまたその危機に加担するのだろうか。スペクタクルな刺激のみを求めていくのはそうなりうる。

「シエア」する絵画の特徴を今一度、整理しておこう。一つは、作品に何が描かれているか、その表象性や内容にも、作品形式やスタイルにも、結果としてこだわらない。もう一点あげるなら、スタイルや内容が先行して決定されているわけではないのだから、制作、形成過程は作業ではなく探索であり、結果はその過程が見えるものになる。

絵画の自由さ、感性の自由さとは、何でもありでなんでもいいことではない。自由であるということは、先行するスタイルや内容に縛られないことなのだ。その自由さこそが、「リキッド・モダン」の中で有効な絵画表現を生み出す。共有される感性は、終わらない認識の道行きに生まれている。

「シエアの公共圏」もまた、同質の感性の共同体に終わるなら、決定的な手段とはなりえない。ポストコロナの可能性を提起しているマルクス・ガブリエルの本のタイトルは「つながり過ぎた世界の先に」だが、そのタイトルを文字通り借りれば、目指すべきは「大きい」ではない。ルールの先行する闘技場ではなく、かつ小ささが共同体に終わるのでもなく、「小さな社会」を無数に成立させる、形式や姿勢の可能性を

「シエア」される場で探し続けなければならない。

令和二年は書きだせなかった多くの絵画表現があった。責任を果たしきれなかったことをおわびしたい。だが、かすかな可能性はなくなったわけではない。

大^{おお}

嶋^{しま}

貴^{たか}

(美術家)

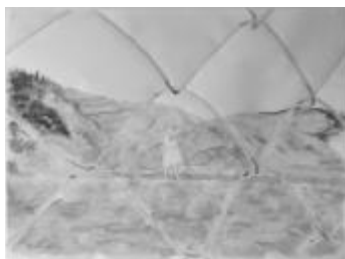
明^{あき}



小山 維子 《Route》
撮影：小岩 勉



「小山 維子 個展 キッチン／カウンター」
展示 1月21日－2月2日
Gallery TURNAROUND（仙台）
撮影：小岩 勉



門真 妙 《星》



宏美 門真 妙二人展「Swimming」
展示 6月2日－6月16日
Gallery TURNAROUND（仙台）
撮影：小岩 勉



企画展 佐々 瞬 『公園／ローカルの流儀』
展示 12月23日－2021年1月11日
Gallery TURNAROUND（仙台） 撮影：小岩 勉



佐々 瞬「売店「男、店を開く準備をしている」」

展示 7月23日ー8月21日

SENDAI FORUS 7F / TURN ANOTHER ROUND (アナラン) 仙台

撮影：小岩 勉



伏見恵理子 《溪》2020

1000 × 803 mm

撮影：小岩 勉



企画展—伏見恵理子 個展「もやのかたち」

展示 11月17日ー11月29日

Gallery TURNAROUND

撮影：小岩 勉



佐竹真紀子 《まつの子ら》2020

336 × 245 mm

アクリル、木製パネル



佐竹真紀子個展「波残りの辿り」

展示 11月6日ー12月27日

東北リサーチとアートセンター [TRAC] (仙台)

彫刻

令和二年一月から十二月までの宮城県ゆかりの彫刻、立体造形の作家による制作活動、発表あるいは、宮城県内で開催された展覧会、アートプロジェクト、グループ活動における彫刻、立体造形の作品の紹介や活動の報告を行う。本年度は新型コロナウイルス感染症被害による未曾有の経験を、彫刻、立体造形分野も強いられました。東日本大震災から十年を迎える年にあたり様々な企画も練られていたと思われませんが、中止が相次ぎました。河北美術展の中止はとても大きな事態でありました。特に彫刻、立体分野は展示に空間が必要です。搬入、搬出にも多くの労力を必要とし、制作する労力、時間をかける故に多くの観客に見てもらいたいという意識があります。その点、河北美術展は、多くの彫刻、立体造形作家の目標でもありました。そのような中、造形美術の輝きを消すことなく彫刻、立体造形活動の発表は精力的に行われました。震災から十年、コロナ禍の中未曾有の困難に立ち向かう医療従事者や人々に対して彫刻、造形で何ができるか、またコロナ禍の中での芸術活動とは、自己の制作とは何か。真剣に考え活動する作家の思いが、見るものに伝わってきました。そ

の中には、素晴らしい優れた発表もあったと思われるが、筆者が実見出来ず、知らなかったものについてはご容赦いただきたい。文中の作家に対する敬称も、略させていただきますと合わせてお許し願いたい。

一月十七日に第六十九回（令和元年度）河北文化賞の授賞式が行われた。河北文化賞は、東北地方の学術、芸術、体育、産業、社会活動の各分野から推薦された個人、団体を褒章するものである。彫刻分野からは、彫刻芸術分野における世界的業績及び宮城県への貢献ということで彫刻家、画家の武藤順九が受賞した。武藤は、仙台市出身で東京藝術大学卒業後渡欧しイタリア在住、昨年作品九点を展示する「武藤順九彫刻園」が東京都「昭島・昭和の森」に開園した。樹木や花と彫刻が調和するように展示されている。展示するのはローマのパチカン宮殿や、インドのブッダガヤ寺院などに展示された代表作「風の環」シリーズの二分の一モデルを中心にした大理石の彫刻。自己の日本人としてのアイデンティティーを日本の伝統的美意識に据え、探求してきた業績が認められた。

「仙台インプログレス」アートプロジェクト活動報告展

一月二十四日から三月二十五日　せんだいメディアアテーク

フランスを拠点に活躍する現代美術家川俣正が、東日本大震災の津波で被災した仙台市沿岸部の復興を支援するアートプロジェクトの活動報告展。宮城野区岡田の新浜地区で津波で流された貞山運河の橋を「橋の機能を持った作品」として掛けなおすプロジェクト。一九九年は貞山運河から海側に百二十メートルの小道を創る「みんなの小道」に取り組んだ。「貞山運河にあればいいと思うもの」がテーマの造形ワークショップや三年の歩みを紹介する記録映像の放映が行われた。

「アネハネハ楽園国」姉齒公也個展

四月七日から十二日　晩翠画廊

宮城県芸術協会会員で大崎の造形作家。発砲の素材で雲や人物など空想上のものを造形し、微妙なバランスで動くモビールを制作している。壁掛けなど三十点を展示した。自然の動きが見るものに安らぎと癒しを与えてくれる作品である。

吉田愛美作品展「Happy Birth Day」

七月十八日から三十日　ギャラリーターナーアラウンド

女性の人生やキャリアがテーマ。妊婦や子どもを抱き抱える母、老婦など彫像十一点の展示。女性としての自分に向き合った表現。彫刻でなければ表現できない深みが伝わる。

岡田純子彫刻展　往く道は還る道Ⅶ―月満ちる時祈りを―

九月二十二日から二十七日　晩翠画廊

新現美術協会出品作を中心とした展示。平面作品も展示されていた。大理石で造形され彩色された作品は、詩的な祈りの世界を醸し出していた。

ちいさな美じゅつの展覧会展

九月二十三日から二十七日　しあわせ美じゅつ店

大崎地方の作家を中心に二十二名が五十点の作品を展示する作品展。ギャラリーを主催する宮城県芸術協会会員の姉齒公也が小品展を企画した。彫刻家の宇佐美明はテラコッタの人体作品を展示した。ほかに絵画、写真なども出品された。

「ゆらゆらと」さくまいずみ・佐久間直美展

九月二十九日から十一月八日　秋保の杜佐々木美術館&人形館

約五十展の展示。さくまいずみは、自然の気配を紙や木の枝を構成して妖精や動物を想起させる造形で、妹の佐久間直美が写真を構成し会場全体として植物や自然のしなやかさを

感じさせる展示を行った。



さくまいずみ・佐久間直美展

第五十七回宮城県芸術祭彫刻展

九月二十六日から二十九日 せんだいメディアアテーク

最高賞の宮城県芸術祭賞は、しょうじこずえ「こころね」作家が飼っていた猫がモチーフのようである。造形の自由さ、色彩の自由さ、伸び伸びとした新鮮な感覚と靈性を感じさせる秀作である。宮城県知事賞は、小泉百合子の「クロス」しつかりとした造形技術による人体塑像である。人体の螺旋構造を量感と彫刻本来の塊の感覚で表現している。彫刻として、力強く表現されていた。河北新報社賞は、中平哲夫の「[s show time]」躍動感あふれる人体塑像である。バレエの一瞬の動きを破綻なく自然に表現した。菅野美術館賞は、「Hi・

no・ma・In2020」畠山卓也の石彫作品。大理石を丁寧に磨いた作品。円形に穿たれた空間が心地良い空気感を醸し出していた。同時開催の彫刻公募展には、十四点が出品された。宮城県芸術協会賞は木村民男の木彫の力作「生命」抽象形態であるが、具象のようでもあり螺旋構造の内と外の空間が力強く動勢を感じる作品である。奨励賞は、中野優音の「社会不適合者」若者の頭像。繊細な感覚が作品を独特なものにした。



宮城県芸術祭賞 しょうじこずえ「こころね」



河北新報社賞
中平哲夫 「It's show time」



宮城県知事賞
小泉百合子 「クロス」



宮城県芸術協会賞 木村民男 「生命」



菅野美術館賞
畠山卓也 「Hi・no・ma・lu 2020」

程川諭木彫展

十月二日から十一月一日 ギャリークロスロード
木彫によるユーモラスな生き物や果物の造形展。

野外砂彫刻公開制作

十月二日から十月中旬 気仙沼市波路上地区お伊勢浜海水浴場
砂を素材に巨大な作品を内外で制作する保坂俊彦が、景勝地・岩井崎の「竜の松」をモチーフに高さ一・八メートルの竜にまたがる子供を表現した。震災の被害の整備がほぼ完了したが、コロナ禍で海水浴場開きが延期となり浜に親しんでほしいと青年会議所が制作を依頼した。

スギサキマサノリ彫刻展

十月九日から十八日 風花画廊

震災慰霊のミニュメントを制作し、石彫を中心に最近はユーモラスな動物彫刻を制作している杉崎の福島での個展。

赤井靖武木彫の世界

十月十三日から十九日 旧亀井邸

宮城県芸術協会会員の赤井靖武が、彫刻家として二十一年目を記念した木彫展。二〇一九年に創型会展で文部大臣賞を受賞した「陽だまりの丘」と題した木彫作品。丸太を輪

切りにしてあるが、その中に猫が車輪を回しているような造形である。生動感と時空を旅するような心地よさが伝わる秀作、同年宮城県芸術祭で最高賞の芸術祭賞を受賞した「凜」、二〇一八年に宮城県芸術祭で河北新報社賞を受賞した「Reborn」、二〇一四年に創型会で選賞を受けた「新入部員」、宮城県芸術祭で河北新報社賞を受けた「道標」が展示された。亀井邸の、室内空間と現代木彫彫刻が共存し面白い空間が演出されていた。ほかに、塩竈市願成寺蔵の地藏菩薩半跏像、地藏菩薩立像のほか仏像彫刻の展示が圧巻であった。

杉村惇賞受賞者小泉百合子人物展

十一月十日から十五日 塩竈市杉村惇美術館

人体塑像の等身像「芽生え」や水彩画、日本画を展示した。小泉は、永年教職についており塑像制作を続けた。宮城県芸術協会会員で、生動感あふれる人体塑像を展開している彫刻家である。

高橋健太郎展

十一月十日から十五日 SARP

「出口」をテーマにコロナ禍での閉塞感を表現しているように見えた。

宮城県芸術祭受賞記念しようじこずえ展

十一月十九日から十二月一日 阿部敬四郎ギャラリー

「やさしい愛しい者たち」というテーマで、彫刻と平面の展示が行われた。宮城県芸術祭彫刻展で最高賞の芸術祭賞を受賞した記念展。作者の作品に対するメッセージを紹介する。「私に日々やさしさをくれるのは、毎朝昇るお天道様や故郷に連なる里山、海。風や草花、鳥たちや猫など、様々な生きとし生けるもの。日々眺めて、触れて、聞いて、嗅いで、彼等と心で感じふれあう中で、からだ全部で受けとるやさしさを、布や糸、色や線に込めて生み出す。愛しい作品からやさしさを沢山受け取って頂けたら幸いです。」

山中環彫刻展

十一月二十日から二十六日 MUSEE MAENAKA

主に石彫で抽象造形を発表している作家。今回は、石と透明樹脂を組み合わせた作品も展示した。山中の造形は、一見作るのが不可能に思える形を作り出すことにその魅力がある。マグマが凝固した石材が、生動感ある抽象形態に変化する。

第七十回新現美術協会展

十二月十一日から十六日 せんだいメディアテーク五階

彫刻、立体作品では三名が出品していた。今年度宮城県芸術選奨新人賞を受賞した山本泰士はダンボールで制作された亀やペンギンの造形を出品し会員賞を受賞した。



第70回新現美術協会展 山本泰士「freaks 2020」

佐藤淳一
（東北生活文化大学美術学部学部長・教授）

工芸

二〇二〇年、東日本大震災から九年が過ぎ絶望の日々から、ようやく立ち上がりをみつつあった。

中国武漢での物々しい消毒作業、閉鎖の後、未曾有の感染の新型コロナウイルスが世界中に広まっていた。

クルーズ船ダイヤモンドプリンセス号内での感染は、日本の誇る水際対策でサーズの時のように収まるかに思えたが、感染力はそれを上回っていた。

国の緊急事態宣言が発令、自粛の状況下で工芸界も大きな影響を受けることとなった。

展覧会については次のとおり

東京で開催を予定された全国規模の展覧会が相次いで中止となったことは残念である。

四月、第五十九回日本現代工芸美術展中止。

五月、第四十二回新日本工芸美術展中止。

第六十回東日本伝統工芸美術展

宮城県の入選者は次のとおり

岩井 純 (陶芸)

橋本昌彦 (陶芸)

甲田綏郎 (染織) 重要無形文化財保持者

江田 薫 (金工)

佐瀬たか子 (諸工芸)

鍋田尚男 (諸工芸)

の諸氏が入選。東京展、盛岡展は中止。

九月、第六十七回日本伝統工芸展

宮城県の入選者は次のとおり

市岡 泰 線文花器 (陶芸)

馬場興彦 泥彩花文鉢【初入選】(陶芸)

岸上まみ子 紫陽花文組皿 (陶芸)

甲田綏郎 精好仙台平袴地「鶺鴒」(染織)

重要無形文化財保持者

甲田悟子 精好仙台平袴地「豊楽」(染織)

本間 潔 栓拭漆盛器 (木竹)

種澤有希子 省胎七宝器「入方」

松本幸恵 有線七宝香炉「野分」

宮城県内の展覧会は次のとおり

一月、仙台三越において第六十六回日本伝統工芸展の巡回展が開催された。

宮城県からは五名が入選。

六月、第四十五回東北現代工芸美術展中止。

十一月、第一回「杜のみやこ工芸展」が開催された。

昨年まで二十八回を数えた「河北工芸展」を継承しつつ、宮城県芸術協会と河北新報社が共催する新たな公募展である。

新型コロナウイルス感染症の拡大で、公募展が相次いで中止される中、開催が危ぶまれた。しかし昨年の河北工芸展の応募者数を上回り二百三十点になった。全国公募展で東北六県、東京、神奈川、愛知、広島、鹿児島からの応募があった。十代から八十代まで幅広い応募者となった。搬入・搬出・審査・展示も新型コロナウイルス対策が厳重に行われた。賛助出品も三十点あり、入選作品百四十三点、受賞作品十九点を展示。

杜のみやこ工芸展大賞作品のタペストリー「明日へ」は、東日本大震災、新型コロナウイルス感染症の中であえぐ人々に希望を与えるかのような作品である。ピンクとグレーで古

典型的なこぎん刺しをモダンに幾何学的なデザインにした作品である。

宮城県の受賞者は次のとおり

【杜のみやこ工芸展大賞】

小林寛子 「明日へ」(染織)

【河北新報社賞】

田中泰雄 「かまきり」(漆)

【宮城県知事賞】

安倍由夏 「森の響」(染織)

【青森県知事賞】

木村八百子 「太古の響」(陶芸)

【秋田県知事賞】

杉山智一 「白兔黒兔」(漆)

【宮城県教育委員会教育長賞】

芳賀アイ子 「道」(染織)

【仙台市教育委員会賞】

大沼明子 「静岳」(陶芸)

【公益財団法人仙台市市民文化事業団賞】

石井克巳 「千線の箱」(金工)

【東北福祉大学賞】

平野嵩真 「16-18」(陶磁)

【東北電力賞】

岸上まみ子 「紫陽花文組皿」(陶磁)

【新人賞】

福田一実 「海底に降る雪」(人形)

十一月、第五十七回宮城県芸術祭工芸展

工芸展は、本年は、杜のみやこ工芸展と同時開催になり仙台市のTFUギャラリーミニモリ二階で開かれた。

宮城県芸術祭賞の(横田美和)の染織手振八寸帯「夏河原」は、川の流れを伝統的文様の「立涌」柄で刀杼とくしのみで均等に美しく織りあげた。平織の中に「もじり」を入れ、涼しさを表現。同系のブルー四色をたて糸にほどこし、繊細かつ深みを持たせた。

入賞者は次のとおり

【宮城県芸術祭賞】

横田美和 「夏河原」(染織)

【宮城県知事賞】

馬場興彦 「泥彩波文鉢」(陶芸)

【河北新報社賞】

松本幸恵 「夜がきて、そして」(七宝)

【宮城県教育委員会教育長賞】

菅原恵美子 「彩り」(金工)

【宮城県教育委員会教育長特別賞】

尾形かなみ 「硝子のこけしたち」(ガラス)

【公益財団法人宮城県文化振興財団賞】

岸上まみ子 「サボテン文蓋物」(陶芸)

【宮地房江賞】

中村小百合 「風紋」(木竹芸)

宮城県内開催の各個展は次のとおり

一月、加藤晋作陶芸

確かな技術に裏打ちされた凛とした作品群。たゆまぬ努力がうかがえ、味わい深い。

六月、小川和子展

絵と陶。日々楽しく

九月、水谷真人陶展

ジェームス・オペ作陶展

十月、釉彩会七宝展

高橋通子主宰による七宝グループ釉彩会発足五十五年を迎えての六人展

鍋田尚男ガラス作品展

工房開設二十周年記念展。数百、数千のパーツをくみ上げていくモザイクガラスで表現している。

西嶋洋子染織展「経に緯に」

十一月、野田律子ガラス作品展

青と透明の板ガラスを正確に切り取り、組み合わせ
て積み重ねる造形美は端正で確かな碧の世界。

表彰を受けた方は次のとおり

四月、【黄綬褒章】

芳賀 強（堤人形）

十一月、【宮城県教育文化功労賞】

岩井 純（陶芸）

十二月、【宮城県芸術選奨】

小川和子（陶芸）

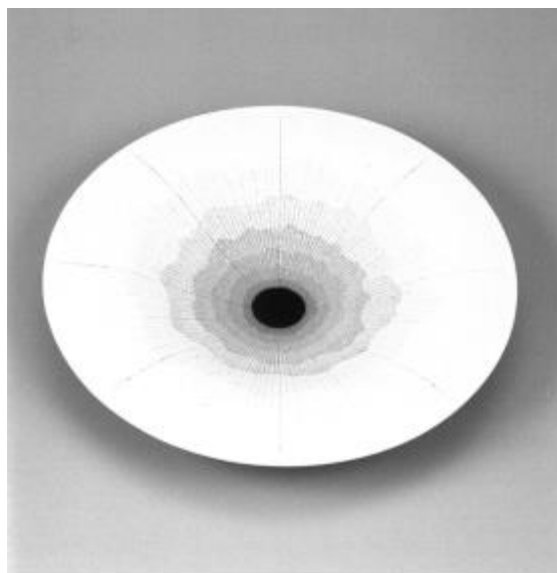
文中で敬称を略させていただいたことを御了承願います。

川^{かわ} 北^{きた} 京^{きょう} 子^こ

（宮城県芸術協会工芸部副部長）



市岡 泰 「線文花器」 第六十七回日本伝統工芸展



馬場興彦 「泥彩花文鉢」 第六十七回日本伝統工芸展



岸上まみ子 「紫陽花文組皿」 第六十七回日本伝統工芸展



甲田綏郎 「鶴瑞」 第六十七回日本伝統工芸展



甲田悟子 「豊楽」 第六十七回日本伝統工芸展



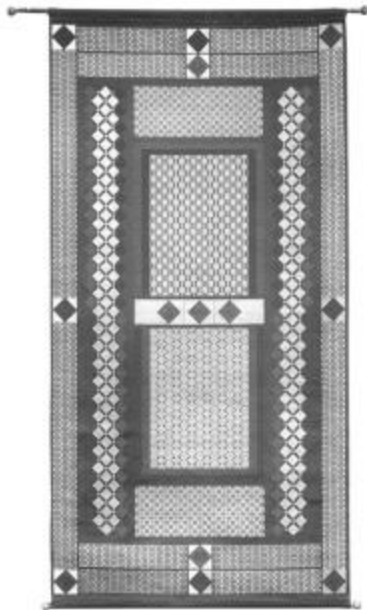
本間潔 「栓拭漆盛器」 第六十七回日本伝統工芸展



種澤有希子 「入方」 第六十七回日本伝統工芸展



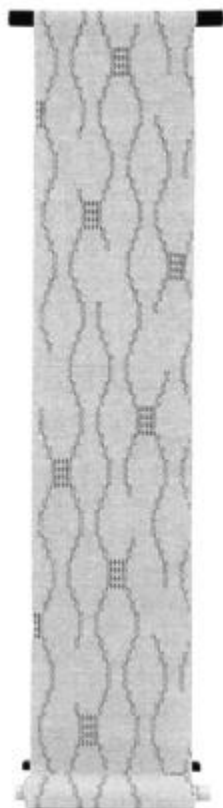
松本幸恵 「野分」 第六十七回日本伝統工芸展



小林寛子 「明日へ」
第一回杜のみやこ工芸展 杜のみやこ工芸展大賞



田中泰雄 「かまきり」 第一回社のみやこ芸展 河北新報社賞



横田美和 「夏河原」 第五十七回宮城県芸術祭芸展 宮城県芸術祭賞



宮城県芸術選奨 小川和子 (写真提供：河北新報社)

書

書道界も新型コロナウイルスの影響により、延期・中止となった書展が数多くあり、厳しい年であった。

各個人においても、自分が毎年行っている活動サイクルに変更が生じたことで、モチベーションを保つことが難しく、その活動範囲を制限したり、作品制作を断念したりといったことがあった。

そのような中、開催された書展は、様々なコロナ対策を行いつながりの開催であり、それぞれの団体、関係機関、代表、そして各書家、皆さんのご努力と絆により開催されたところである。

各公募展・書展等は、以下においてまとめるところであるが、中でも、厳しい中において開催された個展は、目を見張るものがあり、それぞれの活動に敬意を表するものである。

◎宮城県芸術選奨新人賞 千葉四帆

◎日展入選者 小日向慶可 末永瑞鳳 高野芳月

主な書展

◎第六十七回河北書道展

(前期十一月十九日から二十三日、後期同二十六日から三十日まで) T F Uギャラリーミニモリ。主催河北新報社・公益財団法人河北文化事業団、特別協賛J A L)

出品点数七百九十二点、入賞・入選作と顧問を始め審査会員などを含め、九百四十七点を展示。例年同様、一般と会友を分けて審査が行われた。

巡回展は二月十日から十四日、大崎市民ギャラリー緒絶の館で開催。主な受賞者は次のとおり。

一般部門

河北賞 水戸盛雄 佐藤範子 三浦朱鳳 加納鳴華 小野こずえ 山家四苧 畠中成山

宮城県知事賞 津川えりか 仙台市長賞 永澤翠雪 宮城県教育委員会教育長賞 佐久山清花 菊地裕琴 仙台市教育委員会賞 後藤真悠 宮城県芸術協会賞 近藤文 J A L賞

石田蒼龍 東北福祉大学賞 小野原紅華 東北電力賞 都築

節子 東北放送賞 阿部俊吾 齋藤恭子 藤崎賞 早坂萌香

奨励賞 荒川紫煌

会友部門

河北会友賞 渡辺楊麗 浅野彩紅 遠藤志翠 小林さち子

会友秀逸賞 中川子遊 木村利智子 西條松雲 建部紘子

金沢泉明 篠田華所 須藤秋雨

委嘱作家特別賞

宍戸青園 渡辺艸風 北澤利杜 横田汀華 三浦八重子 田

中清翠 板橋雅邦

◎第三十七回産経国際書展東北展

(九月十一日から十六日まで) せんだいメディアアテーク)

七月開催の本展の上位入賞者作品に加え、東北在住者の入

選・入賞作品など計百九十五点の展示。県内の入賞者は、会

友賞 一条侑琴 津川えりか 筒井保子 等

同時に「2020産経ジュニア書道コンクール」の上位入

賞者三十八点も展示。

◎第五十七回宮城県芸術祭書道展

(十月十日から十三日まで) せんだいメディアアテーク)

「芸術の灯を消してはいけない」との芸術家の叫びが結集し

実施に至った」と雫石芸術協合理事長が宮城県芸術祭開会式

で挨拶。

入賞者

宮城県芸術祭賞 菅原紫雲 宮城県知事賞 岡崎幸子 仙台

市長賞 小嶋カズ子 河北新報社賞 和泉とし子 宮城県教

育委員会教育長賞 伊澤香雨 宮城県教育委員会教育長特別

賞 伊藤煌容 大友きか子 仙台市教育委員会教育長賞 山

田華鳳 宮城県議会議長賞 一條紅蕭 仙台市議会議長賞

島津和子 (公財) 宮城県文化振興財団賞 後藤翠蓮 建部

紘子 佐藤華炎 (公財) 仙台市市民文化事業団賞 田手邦

泉 門田勝太郎賞 木村笙園 宮城県芸術祭奨励賞 石井秀

苑 板橋翠苑 丸藤紫苑 下野美紀 末永瑞鳳 田村紅沙



第七回日展 高野芳月



第五十七回宮城県芸術祭
宮城県芸術祭賞
菅原紫雲「劉滄詩」
(写真提供：河北新報社)



第六十七回河北書道展 河北賞 加納鳴華

社中展、グループ展、個展ほか

〈一月〉

◎書 録田直衛展

(十一日から十五日まで 国際センター駅青葉の風テラス)
漢字一文字やかな交じりの詩など十四点。複数の書を組み合わせた屏風やクラフト紙を使った書など多様な作品が並ぶ。

◎東北書道新春選抜展(会長 後藤 大峰)

(二十四日から二十八日まで せんだいメディアアテーク)

役員選抜展 縦二・四メートル、横〇・六メートル、同一・八メートル、〇・九メートル等の大型作品、計百十五点を展示。

◎加納鳴鳳書展

(二十五日から二十九日まで せんだいメディアアテーク)

腎臓移植四十五年目の節目の年で、移植医療への理解と発展を願って前年六月の大崎市、八月の石巻市に続いての開催。約三カ月間かけて書き下ろした新作四十六点を展示。縦三・五メートル、横一・五メートルの大作「壁観」も並ぶ。

〈二月〉

◎The LA Art Show (ザ・ロサンゼルス・アート・ショー)

(五日から九日まで ロサンゼルス・コンベンションセンター)
千葉蒼玄が「三・一一 鎮魂と復活PART II」を出品

震災直後から三カ月分の河北新報などの新聞記事を延べ一年かけて書き上げた縦三・六メートル、横十三メートルの大作。この作品は、後にロサンゼルス・カウンティ美術館への收藏が決まる。

〈三月〉

◎第二十六回くれない会書展(会長 神作 花紅)

(六日から七日まで 仙台市若林区文化センター)

漢字、かな、近代詩の作品計四十九点。「万葉集」の古写本「元暦校本万葉集」を書写した作品八点も並ぶ。

〈四月〉

◎大友青陵軌跡展

(三日から八日まで せんだいメディアアテーク)

昨年鬼籍に入られた故大友青陵氏の作品の中から代表作七十五点を展示。六階全フロアーを仕切りのない空間とし、作品周辺の照明を少し抑え、一点ずつの作品をライトアップ。縦三・六メートル、横一・五メートルの大作や、第二十九回日展特選作などが並ぶ会場は圧巻。阪神タイガースの応援団旗「虎嘯風生」の展示や、書齋を再現し創作風景が思い浮かぶようにするなど工夫を凝らした。

◎書禅筆香会(代表 池田 小沙)

(三日から八日まで せんだいメディアアテーク)

会員等の漢字、かな、近代詩約二百五十点を展示。交流の

ある作家の絵画や手芸品約五十点も展示。天皇陛下が皇太子の頃、書道を進講した故東山一郎氏の作品十六点も並ぶ。中国の古典二十八種を模写した冊子をめくって楽しめるコーナーもあった。

〈七月〉

◎千葉蒼玄 ミクロス マクロスゝ文字の小宇宙

(十七日から二十五日まで 東京・北井画廊)

小さな文字を書き連ねた作「蜘蛛の糸」など、文字を束として訴えかける構成による作品の書展。

〈九月〉

◎花と夢・みんなの書の展覧会

(八日から十三日まで 塩竈市杉村惇美術館)

半紙大の紙に「花」と「夢」の二文字を墨書した作品の公募展。県内外、三〇九十六歳のアマやプロの作品計千二百三十三点を展示。作品にはそれぞれ作者のメッセージも記載されており、「コロナが収まって今まで通りの学校生活がしたい」といった願いも書かれていた。

〈十月〉

◎東北書道秀抜展(会長 後藤 大峰)

(十六日から二十日まで せんだいメディアテーク)

役員選抜展 軸装による「茶掛け」体裁の作品、計二百三十五点を展示。

〈十一月〉

◎第五十九回洗心書道展(会長 中塚 仁)

(十二日から十五日まで 宮城県美術館)

小学生から大人まで、会員による作品約二百四十点を展示。河北書道展初代運営委員長の故有井凌雲氏の「雅人深至」も展示。

◎圖南書道選抜展(会長 八乙女 清峰)

(十三日から十八日まで せんだいメディアテーク)

本展は中止となり、会員代表作家らによる茶掛け作品を含む約三百点を展示。

◎第六十八回川開書道展(日院書道会主管)

(二十七日から三十日まで せんだいメディアテーク)

「世界の川と海産物」をテーマに、文部科学大臣賞三点をはじめとする二千百七十七点を二回に分けて展示。第五十六回日院書道会展も併催。

〈十二月〉

◎斉藤文春展 そして、いつか・武

(二日から六日 SARP仙台アーティストストランプレイス)

越前和紙に点の集合を重ね、白と黒の対比で独特の世界を表現した作品などが並ぶ。併設で、オマーシユ G 青城と私と題し、これまでの代表作も展示。

◎第四十八回宮城野書道展(会長 佐藤 象雲)

(十八日から二十三日まで　せんだいメディアアテーク)

一般会員は漢字を主体として百十六点、教育部は三百二十点の展示。大賞は石田蒼龍、特別出品に大島崑山、大島謙介氏。

◎第十三回河北小中学生紙上書道展（河北新報社主催）

応募点数三千四百二十四点、上位賞十五点、金賞四十九点、銀賞三百点、銅賞六百七十点。上位賞と金賞の作品・氏名並びに銀賞と銅賞の氏名を二十五日の新聞紙上に掲載した。

◎第六十九回県高校書道展（宮城県教育委員会等主催）

展覧会を中止し、誌上展として応募作品全てを作品集に掲載した。

漢字、仮名、漢字かな交じりの書、篆刻・刻字、大字の五部門で、推薦、特選、金賞以上には二百九十八点が選ばれた。

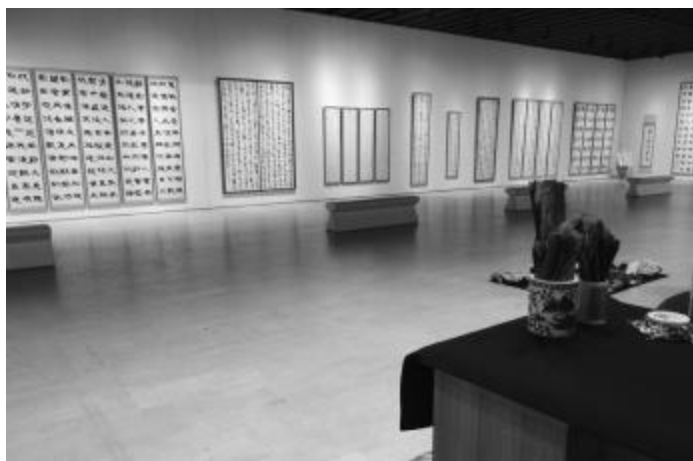
歩みを止めてはいけない。そんな思いもこめた活動の一年であったと感じる。この活動が次年度以降に継承され、大きく花開いていくものと確信するところである。寄稿にあたっては、できる限り情報を収集し取りまとめたが、紙面の都合で割愛せざるを得なかった事、敬称を略させて頂いた事ご容赦願いたい。

渋　　谷　　青　　龍

(宮城県芸術協会書道部副部長)



千葉蒼玄「3.11 鎮魂と復活 PART II」(写真提供：河北新報社)



大友青陵個展

写真

はじめに

二〇二〇年。東日本大震災から十年。本来なら復興五輪としての「東京二〇二〇オリンピック・パラリンピック（以下「東京五輪二〇二〇」）が開催されるという祝祭ムードの年になるはずであったが、中国湖北省武漢市で最初に感染が拡大した新型コロナウイルスについて、世界保健機関（WHO）は三月十一日、「パンデミック（感染症の世界的な大流行）」を宣言。その後、またたく間に、日本国内にも感染は拡大。政府は四月七日、緊急事態宣言を発令。各都道府県は市民に外出自粛を呼びかけ、遊興施設や商業施設など幅広い業種に休業を要請。繁華街や駅から人の姿が減った。

また、街ではマスクやアルコール消毒液などの品薄が続き、買い占めや高額転売が相次いだ。「東京五輪二〇二〇」は、一年の延期が決まった。さて、世界のパンデミックの中で、またもや悲しい事件が起きた。アメリカミネソタ州で、黒人男性が白人警察官に首をひざで押さえつけられて死亡した。警察官は免職・起訴されたが「息が出来ない」と訴える動画

がネットで拡散し、黒人への人種差別として反発する抗議デモが全米各地に飛び火した。「黒人の命は大切だ（ブラック・ライブズ・マター）」を合言葉とする訴えは、さらに世界へと広がった。パンデミック下の悲しいニュースは中国でも起きた。全国人民代表大会常務委員会は六月三十日、香港での反体制活動を取り締まる国家安全維持法を可決し、法律が施行された。昨年に香港で大規模化した抗議運動の封じ込めや民主派への締め付けが狙いで、「一国二制度」の下での香港の「高度な自治」の形骸化が決定的となった。

そして日本では、安倍首相が八月二十八日、持病の悪化を理由に辞任する意向を表明。後任に自民党の菅義偉総裁が九月十六日、第九十九代の首相に就任し、連続在職が七年八月余と歴代最長に及んだ安倍首相の後を引き継いだ。新型コロナウイルスの影響は、春の選抜高校野球大会と夏の全国高校野球選手権大会にも及んだ。同一年の両大会中止は史上初。八月には、選抜出場予定だった高校による、各校一試合の交流試合が行われた。夏の全国高校総体も中止された。プロスポーツ界でも中止や延期が相次いだ。プロ野球は三か月遅れ

の六月に開幕したが、当初は無観客で行われた。サッカー・Jリーグも一時中断した。また、米国のトランプ大統領は十月二日、新型コロナウイルスに感染。一時健康状態が悪化して軍の医療施設に入院したが、わずか三日で退院。十一月の大統領選に向けて劇的な復活を演出した様に見えたが、民主党のバイデン元副大統領に敗北することが確実になった。現職大統領で選挙に負けたのはこれまで十人しかいない。トランプ氏の歴史的な評価はどうなるのか。その他にも、将棋棋士の藤井聡太さんの史上最年少タイトル二冠達成や、漫画「鬼滅の刃」が大ヒットし、さまざまな方面での社会現象などが話題となった。

また、著名人のコロナ感染も世間をさわがせた。コメディアンの志村けんさん、四月には女優の岡江久美子さん、外交評論家の岡本行夫さん、十月にはファッションデザイナーの高田賢三さんが亡くなるなど、著名人の死が相次いだ。それでは、今年度の「展覧会」の概況を振り返ってみよう。

国内の写真展の概況

岩手県立美術館で開催された「ジブリの大博覧会 ～ナウシカからマーニーまで～」は、前年よりはじまり、隣県からもあわせて爆発的な集客数となった。連日大変な賑わいを見せ、この催しは同館の開館記念展を越える集客となった。そ

の後ほどなく全国で、新型コロナウイルスの感染拡大防止のための緊急事態宣言が発令され、しばらくほとんどの展覧会や催しが中止や延期を余儀なくされた。六月に入ると、様々な地域では緊急事態宣言が解除されるが、多くの施設は、感染防止策などを入念に行った上で、観覧を予約制にするなどの入場制限をもうけたので、観覧者数は前年の様に伸びなかった。東京都写真美術館では「森山大道の東京 on going」と題して、渾身の回顧展が開催された。森山氏は初期の鮮烈なモノクロームの作品で知られるが、今回はカラーの作品も充実していた。カラーもモノクロも味わいの深さは変わらないが、カラーにはそれにしかない表現のよるこびがみられた。また、今回は、同館のオフィシャルウェブサイト上では、森山氏のインタビュー映像や、館自体を宣伝する映像が紹介されていたりして、一気にICT技術を本格的に活用した取り組みが見られた。また、その取り組みは他館でも多く散見された。六月に入り、少し「緊急事態宣言」の緊張がとけ、「ジャム・セクション 石橋財団コレクション×鴻池朋子 鴻池朋子ちゅうがえり」が、元プリジストン美術館である、アーティゾン美術館（アートとホライゾンの造語）で開催された。実に様々な作品が目白押しで、新型コロナウイルスに締め付けられる時代を払拭するようなエネルギーに満ちた展示であり、今年度最高の展示の一つだと言っても過言ではない。他

には、梅雨明けから、様々な展示を野外で行おうという試みが見られた。県内の角田市の民家で開催された「森の中のアート写真展」などもその例である。また、風景写真(ネイチャーフォト)などの人気も高まった。隣県の報告になるが、山形県の西置賜郡白鷹町にある複合文化施設、白鷹町文化交流センターAYU:MO(あゆーむ)ギャラリーで開催された隔月刊「風景写真」の写真展示では、全国公募で集められた銀塩フィルムで捉えた日本の美しい風景写真作品の中から、厳正な審査により選ばれたアマチュア写真家の作品と、招待作家の作品などが展示され、人気を集めた。これもまた、県外での報告であるが九月には「瞬く皮膚、死から発光する生」が足利市立美術館で開催された。参加した写真家は、石内都、大塚勉、今道子、高崎紗弥香、田附勝、中村綾緒、野口里佳、野村恵子(敬称略)で、「日本カメラ」、「美術手帖」、「Webマガジン」、「現代詩手帖」など多くの媒体で展評が掲載された。また「KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭 2020」は、当初四月〜五月の予定を変更し、九月から十月まで、京都市内各所で開催された。参加した写真家は片山真理、ウイン・シヤ、福島あつし(敬称略)等である。

最後に一九二六(大正十五)年四月の創刊以来、日本最古の総合カメラ誌として、写真文化に大きな影響を与えてきた、月刊誌『アサヒカメラ』が、二〇二〇年七月号(六月十九日

発売)をもって休刊した。やはりここでも、コロナの影響があり、広告費の激減により、これ以上の存続が困難であるというところで、九十四年という長い歴史にひとまずの区切りをつけることとなった。今後は朝日新聞出版のニュースサイト「AERA dot.」内で記事を配信する。それでは二〇二〇年の一月からの県内の動きを見ていきたい。

一月〜三月の動き

○第四回気仙沼・南三陸フォトコンテスト

会期 令和元年十月一日〜令和二年一月十五日

主催 気仙沼・本吉地域広域行政事務組合

最優秀賞に登米市津山町の会社員阿部文子さんの「桃色だま」が選ばれた。阿部さんは表彰式で「桃色と黄色味があった美しい日の出。興奮してシャッターを切った。南三陸にはこんな景色が見られる場所があると知って欲しい」と話した。

○写真展「ふるさと荒浜小学校」

会期 十一月一日〜令和三年一月三十一日

会場 せんだい3・11メモリアル交流館(若林区)

震災後、当時の荒浜小学校三年生がふるさとへの思いをつづり制作した「あらはまカルタ」に関連する写真約四十点が展示された。

○「ラストレター」白石写真展

会期 一月十七日～二月六日

会場 壽丸屋敷

宮城県を舞台に撮影された仙台出身の岩井俊二監督の最新映画「ラストレター」の公開に合わせ、劇中に登場する白石市内の場面を紹介した写真展。

○スマホ大衛村百景展

会期 一月十八日～二月七日

会場 ふるさと美術館

大賞や準大賞など十一点を含め、村民から寄せられた三十八点が展示された。七ツ森、船形山の瑞々しい新緑や、黄金に染まった田んぼで粟を手に微笑む孫、雪化粧した大衛城跡公園を撮った作品など、季節感に富む力作が揃った。

○大和町まほろばの風景「七ツ森」展

会期 二月二日～十七日

会場 まほろばホール

大和町の自然や祭りをテーマにした絵画、写真作品が集められた。一般または小中学生による絵画部門と、写真の三部門があり、県内各地の六百五十五人から出品された計七百五十五点が展示された。

○「ブルーインパルス」の写真展示

会場 わくや天平の湯 涌谷町

涌谷町の写真愛好家戸沢考義さんが、東京五輪の聖火が県

内に到着した際のブルーインパルスの勇姿を撮影した。松島基地の式典で五色のスモークを空に描いたブルーインパルスの様子、聖火の特別輸送機などを取めた十三点を展示。

○第十三回栗原市写真展

会期 二月二十二日～三月一日

会場 栗原文化会館

栗原市の四季の風景や祭りなどを撮影した作品の写真展。桜の花と残雪の残る栗原山とのコントラストや、同市一迫にある小僧不動滝の寒みそぎの様子などを取めた百五点を展示。

○第二十六回酒田市土門拳文化賞受賞作品展「恵みと試練」

—丸森 2019—

会期 三月六日～四月十一日

会場 土門拳記念館（酒田市）

海老名和雄さんの、丸森町の養蚕を営む二軒を取材したものが受賞。養蚕と災害の記録を織り交ぜ、災害格差への警鐘が込められている。

●しらの細道 vol.5 がけつぷちの防空壕

会期 三月六日～二十九日

会場 東北リサーチとアートセンター（TRAC）

戦時中、仙台市内に掘られた横穴式防空壕の一部を仙台・空襲研究会の新妻博子氏の資料と写真家の越後谷出氏による

撮り下ろしの写真で紹介した。

四月―六月の動き

○「2020東北の四季」写真コンテスト

主催 朝日新聞社、全日本写真連盟県本部

百六十四点の応募作品の中から、佐藤宣雄さんの「縄張り争い」が最優秀賞に選ばれた。

七月―九月の動き

○「佐藤長明写真展 南三陸 海の生きものたち」

会期 七月三日―八月三十日

会場 仙台市科学館

東日本大震災で被害を受けた南三陸の、海の生物の再生に迫る写真展。海藻が流出し泥だけが残った震災直後の海底の様子から、昆布の群生の復活、岩肌を赤く染めるホヤなど現在の海の様子までを収めた写真二十点が並んだ。

○関連企画展 戦後75年戦災復興展

会期 七月十日―八月三十一日

会場 仙台市戦災復興記念館（仙台市青葉区）

○企画展「戦時下の東北学院」

○特別展「がけつぶちの防空壕」

戦後七十五年を迎えた「戦災復興展」。企画展「戦時下の東北学院」では、空襲によって大きな被害を受けた東北学院

を通して戦後の復興過程や学生たちが受けた影響を知ることができるほか、当時の写真や絵画が展示された。また戦時中、崖面に掘られた横穴式防空壕を資料と写真で紹介する特別展「がけつぶちの防空壕」も同時開催された。

○「Dear Earth」

会期 七月十八日―八月三十日

会場 酒田市美術館

世界の大自然をフィールドに活躍する写真家高砂淳二さんの写真展。英領フォークランド諸島のペンギンやアイスランド南部の巨大な滝「スコーガフォス」越しに現れるオーロラなど世界の絶景写真八十六点が展示された。

○宮城県登米総合産業高等学校合同展

会期 七月三十日―八月九日

会場 イオンタウン佐沼

登米総合産業高校の写真部・美術部・家庭部合同展。絵画やイラスト、写真、切り絵など生徒の制作した約八十作品が展示された。

○「語り継ぐいのちの俳句」展2020

会期 八月一日―三十一日

会場 多賀城市立図書館

東日本大震災がテーマ。多賀城市の俳人で河北俳壇選者の高野ムツオさんの震災詠と解説、仙台市の写真家佐々木隆二

さんの写真を組み合わせたパネル三十三点を展示した。高野さんは「真観の津波など歴史的背景も詠み込んだ。展示パネルは俳句が説明にならないように、あえて直接つながらないように組み合わせている」と語った。

○会津七夕写真展

会期 八月十二日～二十一日

会場 藤尾センター

角田市の金津地区で藩政時代から続く伝統行事であり国の選択無形民俗文化財「金津七夕」の写真展。新型コロナウイルスの影響で中止となった金津七夕の代わりに金津七夕保存会が企画した。

○「姉妹展」

会期 八月十九日～九月五日

会場 岩沼市民図書館

共に岩沼市在住である画家・イラストレーターのさとうゆきえさんと家族写真カメラマンのおおかまみづえさんの作品を紹介する姉妹展が開催された。

○センダイ座 in ブンヨコ

会期 八月二十四日～三十日

会場 青葉区文化横丁の特設会場

昭和三十～五十年代の仙台市の町並みを撮影した写真などが展示された。昭和時代に撮影した写真や映像を収集するN

PO法人「20世紀アーカイブ仙台」が、市民から集めた約五十点の写真や8ミリフィルムで撮影された映像を紹介した。

○写真展「めぐり逢う感動！を夢み」

会期 八月二十五日～三十日

会場 東北電力グリーンプラザ

宮城読売写真クラブの会員二十人が、会津や美里町など、主に東北地方で撮影した写真四十八枚を展示した。

○作品展「On the road 旅の記憶」

会期 八月二十三日～三十日

会場 中本誠司現代美術館（青葉区）

仙台市太白区の冒険画家かみとゆきさんの写真と絵画を集めた作品展。ネパール、イタリア、カナダなど六カ国の写真と絵画計六十点が紹介された。

●仙台写真月間2020

会期 ① 九月一日～六日

② 九月八日～十三日

③ 九月十五日～二十日

④ 九月十五日～二十七日

⑤ 九月二十二日～二十七日

⑥ 九月二十二日～二十七日

会場 ①②③⑤⑥ SARP 仙台アーティストランプレイス

作家 ④ FIKAcademy-art
① 山田静子 「感覚に委ねる」

② 高橋親夫 「地上を移動する目・上空からの視線」

③ 酒井佑 「Horizont」

④ 今泉勤 「Grenz Zone」

⑤ 寺崎英子写真集刊行委員会 公開編集室

⑥ 今川くるみ 「無意識のうちに」
「細倉を記録した寺崎英子の遺したフィルム」

○森の中のアート写真展

会期 九月二日～十一日

会場 角田市高倉大沼邸

○第二十七回全国高等学校写真選手権大会

会期 九月十八日、二十五日

会場 オンライン

本戦に初出場した仙台工業高等学校の写真部が審査委員賞を射止めた。この年は三百三十七校が応募し、七校にこの賞が送られた。受賞作は「鮫ヶ浦の記憶〜特攻兵器秘密基地跡を訪れて〜」。

○「伝えたい伊勢湾台風の教訓〜巨大化する台風に備えて〜」

会期 九月二十六日～十月十八日

会場 リアス・アーク美術館（気仙沼市）

明治以降最大の台風被害をもたらした伊勢湾台風の脅威を知り巨大台風に備える企画展。名古屋市と同館の共催。

○第五十七回宮城県芸術祭

会期 九月二十六日～十一月九日

会場 せんだいメディアテーク

主催 宮城県芸術協会。県、仙台市、河北新報社など

写真と絵画、彫刻の三分野の入賞・入選作に加え、県芸協会員の作品を加えた計約三百六十点が並んだ。展示の分野により会期は異なる。県芸術協会の電石隆子理事長は、「新型コロナウイルスの感染が広がり、今年は開催が危ぶまれたが、芸術の灯火を消してはいけないという芸術家の叫びが結集し、実施の決断に至った。人と人、心と心をつなぐ基盤として芸術はある」と挨拶した。

十月～十二月の動き

○迫桜高校写真部プロジェクト

生徒十人が六日町通り商店街を撮影した写真のポストカードを作った。このプロジェクトでは六日町通り商店街をテーマに写真を公式インスタグラムで発信した。

○平間至三十周年写真展

会期 十月十日～十八日

会場 ひらま写真館（塩竈市）

塩竈市出身の写真家平間至さんのデビュー三十年を記念して開催。今回の展示に合わせて写真館を改装し、約百四十点を展示。

○第五十六回「観光のしおがま写真コンクール」

会期 十月一日～十二月二十七日

主催 塩竈市、塩竈市観光物産協会

特選に塩竈市の杉原舞純さんが輝き、スマートフォンで撮った作品が初めて最高賞となった。杉原さんは、市魚市場の展示スペース「おさかなミュージアム」で、長男和誠ちゃん(2)を撮影。佐々木信行審査委員長は「笑顔がいい。動きもあり構図もいい。観光要素もある」と講評した。

○写真展「端縫い・愛染・幻想的な踊り西馬音内」

会期 十月二十日～二十五日

会場 東北電力グリーンプラザ

主催 西馬音内盆踊り・藍と端縫い祭り写真撮影有志会

秋田県羽後町で毎年行われる国指定重要無形文化財「西馬音内盆踊り」の写真を展示。写真五十点やフォトブックにて様子を伝えている。

○しんまちフォトコンテスト

結果発表 十月二十三日

会場 オンライン

富谷市によるフォトコンテストで、家族を撮った写真をイ

ンスタグラムに投稿してもらった。

○「閑上WORKS」

会期 十一月十四日～十五日

会場 閑上公民館

名取市閑上の写真が展示された。小中学生と高校生を対象にした市のまちづくり助成制度「なとりこどもファンド」の事業の一つであり、閑上小中学生の「閑上もりあげ隊」により企画された。

○写真展「ふるさと荒浜小学校」

会期 十一月一日～二〇二一年一月三十一日

会場 せんだい3・11メモリアル交流館(若林区)

震災後、当時の荒浜小学校三年生のふるさとへの思いを綴り制作した「あらはまカルタ」に関連する写真約四十点が展示された。

○「あなたがいて完成！くりはらシャッターアート」

栗原市築館の商店街で、空き店舗のシャッターに地元の観光名所などを描いたアート作品十一点が完成した。観光地の顔出しパネルのように、シャッターの前でポーズをとり作品に入り込めるデザインが特徴。作品の前でとったポーズ写真をSNSに「#くりはらシャッターアート」とつけて投稿する仕組みのフォトコンテストとして開催された。

○「ふるさとの四季 アート写真展」

会期 十一月二十日～三十日

会場 ギャラリー皆美（白石市）

同市や近隣の風景を撮影した約四十点を展示。山紫水明の写真をデジタル加工で油絵風に表現している。

○第四十三回医家芸術祭

会期 十一月二十日～二十五日

会場 せんだいメディアテーク 五階ギャラリー（青葉区）

仙台市医師会では会員相互の親睦と、市民との交流を深めるため昭和五十三年より会員ならびに家族、従業員の絵画、写真、書・水墨画、篆刻、陶芸などの作品を一堂に集め「医家芸術祭」として展示した。

○日本医師会第三回「生命（いのち）を見つめるフォト&エッセー」（フォト部門）

会期 十一月二十日～二十五日

会場 せんだいメディアテーク（青葉区）

仙台市医師会主催「第四十三回医家芸術祭」と同時開催し

た。

※新型コロナウイルス感染症の状況から、例年開催している「音楽部門」は中止となった。

写真集

○『十万光年の詩』

出版社 佼成出版社

発行日 三月八日

詩人の和合亮一さんと仙台市出身の天文写真家の佐々木隆さんが出した写真詩集。東日本大震災後から被災者に寄り添う制作活動を続けてきた二人が、星空を通して生きる意味や希望を見出す。

○『新写真論 スマホと顔』

出版社 株式会社ゲンロン

発行日 三月二十四日

●『仙台クロニクル』次に残したい、昭和の仙台

サイズ 単行本・A4変形判 約百四十ページ

出版社 風の時編集部

発行日 十一月二十八日

内容 主な収録写真：仙台駅・宮城県庁・仙台市役所・

仙台駅前・青葉通・南町通・東一番丁・仙台市電・

勾当台公園・七十七銀行・東宝劇場・大手門など。

おわりに

この一年は、世界中が「新型コロナウイルス」に翻弄された一年間だった。人と人が繋がるために、集まって何かを成すという行為自体が、この感染症の感染リスクをもっとも高

める行為であり、世界中のほとんどのイベントは全て「自粛」の名のもとに、制限の中で常に翻弄されてきた。そんな一年の中でSNSを巡る興味深い事柄があった。

「Google（グーグル）」の機能の中には、世界中の名所や絶景を三百六十度の角度からパノラマ写真で見ることができ「グーグルマップ」の「ストリートビュー」という機能がある。あたかもその場を歩いているかの様であり、特に見知らぬ町で目的地を探す際には大変便利な機能である。このストリートビュー機能はカメラを搭載したGoogleの専用車両が撮影を行う。その際、撮影の場に偶然居合わせた人が写っているということはよく聞く話であり、五年前に父を無くした女性は、「もしかして、自分や家族が写っているのでは？」と思い、検索をしていた。生前の父は、よく家の前で洗車をしていたという言葉を出し、実家の住所をグーグルマップで検索し、ストリートビューを確認したところ…そこには確かに生前の父の姿があった。この話をきっかけに、肉親などの故人をグーグルマップで探してみようと思いついた人たちが、次から次へとチャレンジし話題となったという話。もちろん、故人がストリートビューに写り込んでいる可能性は極めて低く、もしも発見できたとしたら、それは、奇跡のような出来事であり、まるで、映画のワンシーンの様である。この話を聞いた時、フランスの小説家エルヴェ・ギベールの小説『幻

のイマージュ』を思い出した。この小説は写真を撮ってから失敗したことがわかるまでの時間に関して書かれており、一番大事でちゃんと撮っていたはずの母の写真が実は写っていない話で、とても興味深い思いがする。

人類にとっては、写真というものがなかった時代のほうがずっと長いはずで、だれもがスマートフォンを持ち歩き、すべての写真画像が、デジタルの網の中で管理される様になったのはつい最近のことだ。先ほどのGoogleの写真の様に、撮影とその更新とそのデジタルデータの堆積を繰り返している今、意図して写していなくてもその膨大なデジタルデータのなかに写真が記録されることもあり、反対にちゃんと残しておくべき写真が消えてしまうこともある。

銀塩写真という技術はなくなってしまうとしても、画像を必要としない時代にもう戻ることにはできない。もはや写真の専門家だけで無く、誰もが、ポスト写真時代における記録や表現の可能性を探ったり考えていくことが必要であるのかもしれない。

清しみず水みづ有あ
(せんだいメディアテーク企画事業係長・写真史)



しらべの細道 vol.5 がけっぶちの防空壕 会場：東北リサーチとアートセンター (TRAC)



写真展「仙台写真月間 2020」高橋親夫「地上を移動する目・上空からの視点」
会場 SARP 仙台アーティストランプレイス



写真展「仙台写真月間2020」 酒井佑 「Horizont」
会場 SARP 仙台アーティストランプレイス



『写真集 仙台クロニクル 次に残したい、昭和の仙台』
出版社 風の時編集部 発行 2020年11月28日

文芸

概観

東日本大震災から九年目、十年目へと時間は過ぎていく。震災を後世に伝えようと伝承館をはじめソフト、ハードの整備が進んでいる。こうしたなか、この一年は新型コロナウイルスのパンデミック一色に塗りつぶされた。新型コロナウイルスを河北新報が初めて報じたのは、令和二年一月十五日。「新型コロナウイルスと認定／世界保健機構（WHO）は十四日の記者会見で、中国湖北省武漢市で発生しているウイルス性肺炎について、新型コロナウイルスが検出されたと認定した」と報じる僅か十四行の記事であった。この記事から感染拡大で世界中が危機に陥るとは、その時点では誰が予想しただろうか。

武漢市の感染防止策、都市封鎖にともない、一月二十九日、同市滞在の日本人二百六人を乗せた武漢からのチャーター機第一便が帰国。また、二月三日、横浜港ではダイヤモンド・プリンセス号が三千七百十一人の乗船者の検疫を開始し、乗客の下船完了は三月一日であった。

三月二日には、突然の学校休校。学校ではこの日が同級生

たちとの別れの日となるといった突然の出来事や卒業式の中
止といった想像を超えた事態が相次いだ。

WHOは三月十一日、新型コロナウイルス感染症がパンデ
ミック（世界的な大流行）に至っていると宣言し、各国に対
し一層の対策強化を求めた。

三月二十四日には、東京オリンピックの一年延期が決定さ
れた。

学校が再開されたのは仙台では四月十五日。国の新型コロ
ナウイルス対策は遅れをとり、罹患者の数は増加した。四月
初旬には八月開催予定の仙台七夕まつりの中止が決定。同様
に仙台・青葉まつり、ジャズフェスなど県内の恒例行事のほ
とんどが中止となった。

政府は四月七日に東京、神奈川、埼玉、千葉、大阪、兵庫、
福岡の七都府県に緊急事態宣言を発し、不要不急の外出、夜
の飲食店利用・外出の自粛を国民に要請した。四月十六日に
は対象を全国に拡大。ゴールデンウィークはステイホームと、
これまでのあらゆる日常が覆った。五月十四日に三十九県で
緊急事態が解除され、五月二十五日には、約一か月半ぶりに

全国で解除された。

こうした混乱の中、八月二十八日、突然、安倍総理大臣が辞任。九月十六日には、自民党の総裁選挙が行われ菅内閣が誕生した。

この間落ち込んだ景気と経済の再興を目的としたG・O・T・Oキャンペーンが七月二十二日に開始され、多くの国民が県境を越えて旅行へ出かけた。結果、十一月には第三波とされる感染拡大を見ることがになり、十二月十四日全国一斉にキャンペーンの停止という事態に至った。

この一年、文芸関係ではコロナ禍の三密を避けるため、イベントの事前準備の会合や大小様々な大会が中止されるなど、かつてない状況に直面することとなった。いくつか例をあげれば仙台市民川柳大会、仙台文学館の言葉の祭典、宮城県俳句大会、登米芭蕉祭俳句大会、東北俳句青森大会、松島芭蕉祭全国俳句大会、宮城県短歌大会など多くの大会が中止あるいは誌上大会に追い込まれた。

二〇二〇年一月一日付で、北上市の日本現代詩歌文学館館長に、現代俳句協会副会長で河北俳壇選者、俳誌「小熊座」主宰の高野ムツオ（多賀城市）が就任した。

仙台文学館は、二〇二〇年三月で十三年間その任にあった第二代小池光館長が退任、佐伯一麦（仙台市）が第三代館長

に就任した。

文化庁の二〇一九年度芸術選奨文部科学大臣賞に佐伯一麦（仙台市）が選ばれた。また、第十二回伊丹十三賞にNHK大河ドラマ「いだてん〜東京オリンピックピックニック〜」の脚本を書いた宮藤官九郎（栗原市出身）が選ばれた。

日本歌人クラブ東北ブロック優良歌集賞に『風の鶴』桜井千恵子（多賀城市）が選ばれた。

第十九回俳句四季大賞に「駒草」顧問の蓬田紀枝子（仙台市）の第五句集『黒き蝶』、第八回俳句四季新人賞に同じ「駒草」の浅川芳直（名取市）が選ばれた。第五十九回全国俳句大会大会賞（俳人協会主催）に「ぼろ市のコントラバスを鳴らしけり」の藤野尚之（登米市）。第三十一回東北大会・青森大会（俳人協会主催）の大会賞に木村蛭雪子（大崎市）、富樫文子（多賀城市）、伊藤一男（仙台市）、宮野かほる（美里町）、遠藤克子（大崎市）、佐藤べん（仙台市）。

第十三回全日本川柳文学賞に仁多見千絵（仙台市）が、第九回東北川柳文学大賞に北れい子（白石市）が選ばれた。

小野和子（仙台市）の名もなき人たちが語る民話集『あいたくて ききたくて 旅にでる』が第七回鉄犬ヘテロトピア文学賞を受賞。

宮城県芸術選奨新人賞に佐藤厚志（仙台市）が選ばれた。佐藤は「境界の円居」で第三回仙台短編文学賞大賞を受賞。

選考委員の柳美里は「喪失 静かに祈る傑作」と選評で傑作を三回繰り返し絶賛した。

第三十五回全国高等学校文芸コンクールで宮城県から優良賞に五人が選ばれた。詩と文芸評論の二分野で優良賞 小野泰雅（仙台一）、詩 優良賞 佐々木亜希（石巻）、随筆 優良賞 加藤瑠華（石巻）、小説 優良賞 尾上南那（宮城一）、金川恵都（宮城一）。

宮城県芸術祭は、コロナ禍での学校の休校などに加え、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため文芸部門の一般公募を中止とした。宮城県芸術祭表彰式は十一月二十四日、感染リスクのある祝宴を取りやめ、トークネットホール仙台（仙台市民会館）で主催・共催関係者、受賞者など百十名の参加で行われた。宮城県芸術協会会員の文芸賞受賞者は以下の通り。宮城県芸術祭賞 川柳 水戸一志（利府町）、宮城県知事賞 詩 鈴木修（大崎市）、短歌 鈴木啓子（仙台市）、俳句 堀之内久子（利府町）、川柳 大沼和子（仙台市）、河北新報社賞 短歌 大友圓吉（多賀城市）、公益財団法人宮城県文化振興財団賞 短歌 柿沼寿子（名取市）、宮城県芸術祭奨励賞 俳句 赤間学（仙台市）。

宮城県芸術協会主催の文学散歩は、コロナ禍で観光バスでの移動、宿泊に感染拡大の可能性が高いと判断し中止となった。

新聞関係の選者は、河北新報歌壇は佐藤通雅、花山多佳子、

同俳壇は高野ムツオ、西山睦、同柳壇は雲石隆子、朝日新聞宮城版みちのく歌壇は梶原さい子、同俳壇は渡辺誠一郎、同柳壇は木田比呂朗、読売新聞宮城版よみうり文芸歌壇は松平盟子、同俳壇は榎本好宏、同柳壇は千葉朱浪、毎日新聞宮城版文園歌壇は金沢孝一、同俳壇は坂内佳禰、同柳壇は新藤孝廣がそれぞれ担当した。

各部門

詩

仙台発の新しい詩の賞が誕生した。秋亜綺羅主宰の月刊詩誌「ココア共和国」（雑誌とWeb版）への投稿作品から、選考を俳優と漫画家が行う秋吉久美子賞、いがらしみきお賞、二〇歳未満を対象としたYS賞（選考は秋亜綺羅、佐々木貴子）。発表は二〇二二年三月。

第二十一回白鳥省吾賞（栗原市主催）の表彰式が二月二十三日、栗原市文化会館で行われた。一般の部最優秀賞は照井良平（岩手県花巻市）、小中学校の部は向井陸（古川学園中）。第六十一回晩翠わかば賞と晩翠あおば賞の表彰式が十月十八日仙台文学館で行われた。わかば賞に「米とき」田中基（加茂小三）、あおば賞に「いのり」菅野一彩（宮城野中三）が選ばれた。

宮城県詩人会が日本現代詩人会との共催予定のイベントが

中止、例年活発な活動を行ってきた宮城県詩人会詩祭は中止、ポエムカフェのほとんどが中止のやむなきに至った。

詩集 宮城県詩人会編『宮城の現代詩2020』、汐海治美『人生は哀しみだらけ』、斎藤紘二『東京ラブソディ』、丹野文夫詩集『橋上の夜』（復刻版）、『丹野文夫詩集』、水月りの・大沼英樹『月ぬすびと』（詩と写真のコラボ作品集）、佐藤洋子エッセイ集『クロウサギの島から』、西田朋『鈴木梅子の詩と生涯』

詩誌 「回生」「霧笛」「ひびき」「風花」「仙台演劇研究会通信ACT」「a's」「とんでんかん」「ココア共和国」「白鳥省吾研究会会報」「よそ見通勤」「想音窟だより」「ササヤンカの村」「風の靴を穿つて」『THROUGH THE WIND』

小説・散文・絵本

第三回仙台短編文学賞は三月四日に決定。大賞「境界の円居」佐藤厚志（仙台市）、仙台市長賞「鶉の尾岬まで」高玉旭（福島県在住）、河北新報社賞「波打ち際の灯り」柿沼雅美（東京都在住）、プレスアート賞「妻を纏う」梶浦公平（青森県在住）、東北学院大学賞「冷たい朝が来るまえに」水津藤乃（東京都在住）。全応募作品四七七編。選考委員柳美里は、「境界の円居」は、震災から九年という時を映す水鏡のよう

な小説である」と評した。

東日本大震災以降に被災地と関わった作家が、絵本の読み聞かせをその後も継続している。

小説 伊坂幸太郎『逆ソクラテス』、熊谷達也エッセイ『いつもの明日』、伊集院静『作家の贅沢過ぎる時間―そこで出逢った店々と人々―大人の遊び方』『親方と神様』、佐藤三昭童話・小説集『ゆめのまたゆめ』、佐々木ひとみ・野泉マヤ・堀米薫『みちのく妖怪ツアー ワークショップ編』、渡辺優『悪い姉』、佐藤珠莉（石巻中一）『真っ白な花のように』

絵本 斎藤美子『やどかり母さんの宿』、阿部結（気仙沼出身）『あいたいな』、あいはらひろゆき（仙台市出身）『はっはっはくしょん』

文芸誌 「仙台文学」、「波動」、「新生」（東北新生園）、随筆中心の「みちのくふだん記」、詩と随想の「みちのく春秋」

短歌

コロナ禍にあつて、例年開催される短歌大会のほとんどが中止となっている。

宮城県短歌賞・歌人の集いが、十一月二十九日、東京エレクトロンホール宮城で開催された。宮城県短歌賞 沼沢修（仙台市）、次席 上林節江（仙台市）。

歌集 山本秀子『冬珊瑚』、豊嶋瑞子『竹林』、佐藤節子『水芭蕉』、丹取元『蒼群』、鈴木洋子『矩形の洞』、梶原さい子『ナラティブ』、皆川二郎『一滴のうた』、原田夏子 歌文集『乾杯!』、近江瞬『飛び散れ 水たち』、田宮智美『にず』、志賀刀達『颯』、上林節江『記憶の遺産』、安部律『四月の翼』
歌誌 『群山』『收穫』『砂丘』『登米短歌』『波濤みやぎ』『麻刈』『北杜歌人』

俳句

一月六日、第四十四回「宮城県俳句賞」決定。本賞は小田島渚（仙台市）。第五十回「宮城県俳句大会」は四月二十九日開催予定であったが、新型コロナウイルス感染防止の観点から作品選考のみの誌上大会となった。兼題の部 河北新報社賞は「雛飾る眼裏にまた黒き波」で佐藤綾泉（気仙沼市）。二月九日、佐藤鬼房記念第二回塩竈市ジュニア俳句コンクール、佐藤鬼房賞赤間恒太（塩竈第一小）、ジュニア俳句大賞狩野優愛（塩竈玉川小）。六月二十八日、第六十九回「登米芭蕉祭俳句大会」は誌上大会。宮城県俳句協会賞は「置きざりの土管に春の闇詰まる【砂金元子（大崎市）】。六月下旬の「あやめ俳句大会」は中止。十月四日の第十五回「大崎市俳句大会」は誌上大会となった。宮城県知事賞に「村雨や土間にうごめくつづれさせ」の佐藤みね（美里町）。十月十一日開催予定

の第二十七回「壺の碑全国俳句大会」は誌上大会。多賀城市観光協会長賞に「陽炎が吐き出してゐる鼓笛隊」の土見敬志郎（利府町）。第六十六回「松島芭蕉祭並びに全国俳句大会」は十一月八日開催予定であったが誌上大会。招聘選者は対馬康子（麦）会長、能村研三（沖）主宰。兼題の部第一席は「一角獣の杯まだ未完初月夜」小林寿子（仙台市）、「四日の心二Bで書く秋思かな」草野志津久（福島市）。

東日本大震災をテーマにした「語り継ぐいのちの俳句」展（俳句と解説高野ムツオ、写真佐々木隆一）が、二月二十日から三月一日。その後図書館休館で八月一日から三十一日まで二回に会期を分けて、多賀城市立図書館で開かれた。

句集 佐藤のびる『柚子坊』、佐藤圭子『桃の花』、柏原眠雨『花林檎』、八島敏『回遊』、渡辺誠一郎『赫赫』、木村裕一『終』、土屋遊螢『星の壺』、句集の他に高野ムツオ『鑑賞季語の時空』、渡辺誠一郎『俳句旅枕』

句誌 「きたごち」「滝」「小熊座」「む」「宮城野」「飛行船」「ほそ道」「花野」「柳絮」「荒星」「むじな」「しろはえ」創刊、「冬林檎」創刊

川柳

第四十七回宮城県白石川柳大会は、新型コロナウイルス感

染拡大防止のため誌上大会に変更され、宮城県川柳連盟賞に「筆箱に夢の欠片がまだ残る」を詠んだ西恵美子（白石市）。第六十九回東北川柳大会も誌上大会となり、河北新報社賞に「お粗末さまこれでも咲いているのです」を詠んだ高瀬霜石（弘前市）、川柳宮城野社賞は西恵美子（白石市）。第四十七回河北川柳投句者大会も誌上大会となり、「お隣は空家お向かいは売り家」を詠んだ高瀬霜石（弘前市）が河北新報社賞。

句集 松田芳男川柳句集『放蕩児』、広瀬ちえみ川柳句集『雨曜日』、北れい子『七転八起』

柳誌 「川柳杜人」は十二月で廃刊となった。「川柳宮城野」

玉 田 尊 英

（宮城県芸術協会文芸部部長）

洋楽

●感染症の影響による音楽活動の制限

二〇二〇年は、本来なら東京オリンピックが開催されるはずだった。また、翌年の二〇二一年は東日本大震災から十年目の年に当たり、前年の二〇二〇年には関連する多くの行事が予定されていた。しかし、新型コロナウイルス感染症による影響は、全世界的に広がり、音楽活動にも多大な支障があったことは言うまでもない。

演奏会の中止など、音楽活動の影響は二、三月より徐々に始め、四月に日本政府からの緊急事態宣言が発令されてからは、ライブによる演奏会はほぼ中止に追い込まれた。

主なところでは、仙台フィルハーモニー管弦楽団（以降「仙台フィル」と省略）の定期演奏会は、三月以降休止し、県民ロビーコンサートもほぼ同時期に休止した。

特に大人数が参加し、人が密集する状況が生まれやすい年内のイベントは、上半期内に中止が決定している。コンクール関係では、夏季に開催予定だった、全日本吹奏楽コンクール、小学校バンドフェスティバル、マーチングコンテスト、全日本合唱コンクールは中止が決定した。コンクールなどの

中止決定に至った要因としては、単に会場内でのリスクに留まらない。参加に至るまでの密集状態での練習と飛沫感染の可能性に加え、大人数の移動時の問題など広範囲に及ぶ。

秋季に開催するイベントとしては、仙台の風物詩とも言える定禅寺ストリートジャズフェスティバルと、仙台クラシックフェスティバル（愛称「せんくら」）などが中止となった理由も、主に大人数の参加による感染症対策の難しさが挙げられる。

●感染症対策と模索

感染症の影響で、演奏会などの開催が出来なくなり、音楽関係者が活動する場が激減した。観客を動員しての催事は困難となったが、このような状況下でも様々な対策を講じつつ、音楽関係者は活動の方法を模索していった。

普段の練習や、演奏会のために音楽器を演奏する際、歌唱の際に発生する飛沫の測定を東京都交響楽団やヤマハなどの団体、企業が学術機関の協力を得て測定し、実験結果を公開した。このようなデータを基にして、感染症にどのような対

策をとるべきかを検討したことはこれまでになかったであろう。飛沫を避けるためのシールド使用、歌唱時に呼吸が楽にできるマスクの開発なども進んだ。密閉された室内での換気とその方法にも注目が集まった。

「新しい生活様式」という感染症を防止するための生活習慣の呼びかけは、音楽界にも波及している。日常的なこととなっている観客がマスクを常時着用することに加え、ロビーなどで極力会話を控える要請、花束やプレゼントの贈呈もおかた禁止することも、この状況の中で演奏会を開催するための方策である。

一時的には、観客に直接音楽を届ける場がなくなったことにより、音楽関係者の仕事は激減したが、音楽を人々に届けるための様々な方法は模索され続けた。すでに「オンライン」という言葉は日常的に定着しているが、インターネットを経由しての音楽配信が活発になった。ユーチューブに代表される動画配信サービスを利用し、無料、有料配信が激増している。

仙台国際音楽コンクールでは、過去の入賞者の演奏を、仙台ファイルも過去の音源を無料で配信した。東北唯一の音楽科がある宮城学院女子大学では、多重録音によるペーターベン作曲「合唱幻想曲」の動画を期間限定で公開した。演奏は、指揮の船橋洋介とピアノの及川浩治が中心となり、教員、学

生が演奏に参加した。

コンサートだけではなく、吹奏楽初心者のためのオンライン講習会が八月に行われたことは、直接の指導が難しい現状では、打開策として注目に値する。

ピアノリストの高橋麻子が企画し、七月に開催したドライブイン方式による駐車場でのコンサートも一つの試みとして興味深い。

● 行政の支援

ヨーロッパでの文化支援には遅れをとったが、文化庁は、芸術活動の支援策の骨子をまとめた。プロの演奏家、団体や関連するスタッフへの金銭的補助を行うものである。政府は、日本文化を紹介するための海外向け動画配信についても、「グローバル需要創出促進事業費補助金」による支援を開始した。仙台市市民文化事業団も「多様なメディアを生かした文化芸術創造支援事業」を創設し、文化事業への支援に乗り出した。

● 演奏会再開の動き

音楽を生演奏で演奏者と聴衆が共有する重要性についてはいうまでもなく、音楽本来のあり方である。緊急事態宣言解除後の六月以降は、方策を取りつつ、ライブを再開しようと

する動きが顕在化した。関係者のみ入場可能な無観客開催、観客数の制限、対策を徹底しての通常開催など、状況によって開催方法は分かれている。

演奏会再開の狼煙といえ、やはり仙台フィルの定期演奏会再開であろう。七月二十四、二十五日に開催した第三百三十八回より、当初の曲目を変更して開催した。仙台フィルと山形交響楽団の合同演奏会も注目に値する。

オーケストラの演奏会では、ステージ上に大勢の演奏者が並ぶこととなるので、人と人との間隔を取るために演奏者の人数を減らす必要に迫られ、比較的少人数で済む作品などに変更されることがほとんどであった。ことに、合唱を伴うベーターベン作曲の交響曲第九番は、ステージにオーケストラと合唱団が同時に上がることにより、通常の演奏より多くの演奏者が参加するので、密集することが避けられない。そういった状況では飛沫感染のリスクから、演奏することは難しい。残念ながら、年末恒例の第九演奏会は中止となった。

オーケストラの演奏会では、指揮者を客演として招くことがよくあるが、海外在住の指揮者は、渡航上の問題で来日が不可となり、国内在住の常任指揮者らが代行した。

指揮者、曲目変更の例としては仙台フィルの第三百三十八回定期演奏会で予定されていたカナダ在住のイタリア人指揮者ヤデル・ビニャミーニから、仙台フィルのレジデント・

コンダクターの高関健に変更となった。曲目の主な変更は、レスピーギ作曲「ローマの松」を取りやめ、ドボルザーク作曲の交響曲第九番「新世界より」に変更になっている。

月例の県民ロビーコンサートでは、五ヶ月ぶりに七月より再開、八月のコンサートではピアニストの田原さえが演奏した。

加美町の中新田バッハホールで開催しているサタデーモーニングコンサートも、九月より再開した。

地域住民に寄り添う小さな演奏会や、学校内で開催される音楽イベントも、県内各地で開催され、市民生活の潤いに重要な役目を演じている。

● 作曲・演奏関係の動向

宮城教育大学教授で作曲家の吉川和夫は、同大学の定年退職に当たって彼の作品による個展を三月に開催した。

チェリストの吉岡知広は、「イズミノオト」というタイトルで、作曲家をテーマにしたコンサートシリーズを企画し、年内に三回の演奏会を開催した。打楽器奏者の會田瑞樹は、東京オペラシティの企画であるB↓C（ビートウーシー）、「バッハからコンテンポラリーまで」のサテライト開催を宮城野区文化センター、パトナホールで十一月に開催するなど、多方面で活躍した。バイオリニストの西本幸弘は、十年かけ

てベートーベンのバイオリンソナタを全曲演奏する企画を始め、七十年になるが、その一環となるリサイタルを十二月に開催した。

●その他の動向

「荒城の月」を作詞した土井晩翠の作詞による「林子平先生を讃える歌」の楽譜が、仙台文学館で探し出された。作曲は、海軍軍楽隊。一月に「第二十一回男の合唱まつりinみやぎ」で披露された。

誰でも自由に演奏出来る「ストリートピアノ」が注目を集め始めているが、廃校となった体育館にあったグラランドピアノが白石蔵王駅に設置された。

NHK連続テレビ小説「エール」の放送によって、「栄冠は君に輝く」などで知られる福島県出身の作曲家、古関裕而が注目を集めた。宮城県内では、築館高校の校歌や塩竈市民歌の作曲を古関が手がけていたことが、新聞報道などにより一般市民に知られるところとなった。

コロナ禍で、自宅にいる時間が増え、楽器を購入し一人でも演奏を楽しむいわゆる「巣籠もり需要」という音楽への需要も現象として興味深い。

●音楽ホール関係

仙台市青年文化センターは、老朽化のために十月から大規模改修に入った。そのため、仙台市内では、演奏会をはじめ文化活動を行うための施設は不足した状態となっている。すでにだいぶ前から新しい音楽ホールの建設計画は浮上しているが、なかなか着工の目処は立たない。一方で山形県は、山形県総合文化芸術館を五月に開館した。宮城県、仙台市の首長は、文化を発信するための施設についての検討を、有識者の意見に真摯に耳を傾けつつ、着実に計画を進める陣頭指揮をとる必要があるのではないだろうか。

民間のホールとしては、仙台中央音楽センター内に定員百名程度が収容可能なINXホールが五月にオープンした。

●受賞

仙台市出身の作曲家でピアニスト、秩父英里は、“The Sea — Seven Years Voyage”により二〇二〇年国際ジャズ作曲家協会（ISJAC）賞を受賞した。東北の作曲関係者が中心となって運営している未来の作曲家コンサートin東北2020（旧ヤングコンポーザーコンサートin東北）は、前年に引き続き第八回ウィーン・フィル&サントリー音楽復興祈念賞を受賞し、八月に演奏会を通常通り開催した。指揮者の佐藤寿一は、宮城県芸術選奨を受賞した。

小^こ山^{やま}和^わ彦^{ひこ}
(作曲家・宮城学院女子大学教授)

邦楽・芸能

古典芸能

令和二年は新型コロナウイルスの影響で、多くの演奏会や社会的な催事が延期や中止となったり、人数制限を行いながらの開催となったりした。以下に、令和二年の古典芸能の公演について、開催状況を「雅楽」「能楽（能・狂言）」「歌舞伎」「文楽」の順に報告する。

雅楽

仙台市青葉区の大崎八幡宮では、八月十二日の夜に大崎八幡宮の境内で「御鎮座記念祭」を開催したが、新型コロナウイルスの影響を考慮し、祭典の内容と斎場の配置を例年とは一部変更し、一般公開は行われなかった。また平成二十四年以来毎年八月十三日に開催されてきた東日本大震災復興祈念「雅楽の夕に、」は中止となった。

塩竈市の志波彦神社・鹽竈神社境内で春と秋に開催され、神楽や管弦・舞楽が披露される「しおがまさま神々の花灯り」と「しおがまさま神々の月灯り」は新型コロナウイルス感染

拡大防止のために中止となった。

能楽

一月二十四日に栗原市役所の玄関ロビーで「くりはらロマンコンサート」が開催され、栗原市の「喜多流萩の会」の七人が「高砂（四海波）」など三曲を披露した。

一月三十一日に東京エレクトロンホール宮城で「笑いの芸術 野村万作・萬齋狂言公演」が行われた。石田幸雄の解説で小舞「名取川」、狂言「鍋八撥」と「咲嘩」が上演された。また公演に先立ち一月二十日には、石田幸雄を講師としてプレレミナーが東京エレクトロンホール宮城の会議室で



「くりはらロマンコンサート」での謡曲演奏
(於：栗原市役所ロビー、写真提供：河北新報社)

開催された。

二月九日に白石市の碧水園で、「碧水園能 喜多流公演」が行われた。佐藤寛泰の解説の後、塩津圭介による仕舞「加茂」、石田幸雄・破石晋照による和泉流狂言「清水」、佐々木多門のシテによる能「夕顔」が上演された。

三月一日に開催予定であった仙台市能楽振興協会主催による「第十六回謡曲大会」は、新型コロナウイルスの感染拡大のため中止された。

五月十六日に電力ホールで開催が予定されていた「第二十三回青葉能」は、新型コロナウイルス感染拡大防止のために中止となった。

例年六月に白石市の碧水園能楽堂で開催される「能・狂言鑑賞会」、九月に登米市登米町の伝統芸能伝承館「森舞台」で開催される「登米新能」、十月に仙台市で開催される「瑞鳳殿秋の能楽」はいずれも開催中止となった。また、「能への誘い 喜多流」や仙台市民能楽講座も令和二年は開催されなかった。

東京在住の観世流能楽師八田達弥と森田流笛方寺井宏明による「能楽の心と癒やしプロジェクト」は、三月十一日に石巻市の鹿島御児神社の境内で、太鼓の大川典良も加わり、能「龍田」を奉納上演した。

仙台市卸町にある能—BOXで開催されている「能のおけ

いこ体験講座」は、宝生流（一～二月）、喜多流（一～三月）、金剛流（三～八月）、金春流（四～七月）、観世流（四～五月）がそれぞれ開催予定であったが、三月以降の講座はすべて中止となった。

夏休みに能—BOXで開催される山中迩晶による「こどものための能講座」は、受講生の数を減らし、グループ指導からマンツーマンの稽古方式に変更し、受講生同士の交流を行わない形で、七月二十四日から二十六日、八月一日・二日、八月八日から十八日までの日程で開催された。受講生は六回の稽古を受け、発表会の代わりに、最後の稽古日に袴を着けビデオ撮影を



「こどものための能講座」稽古の様子
（於：せんだい演劇工房 能—BOX）



「こどものための能講座」袴を付けての発表
（於：せんだい演劇工房 能—BOX、写真撮影：
Kashiwaya Kiyoshi）

行った。小さい頃に身近に古典芸能に親しむ機会は少ないため、感染対策を行い無事に開催できたことは喜ばしい。講座の様子は、「こどものための能講座ダイジェスト（2020年）」としてYouTubeで公開されている。

歌舞伎

例年七月に（公財）宮城県文化振興財団が主催し、東京エレクトロンホール宮城で行われている松竹大歌舞伎公演は、新型コロナウイルス感染症拡大予防のために巡業中止となった。

当初三月十九日にトークネットホール仙台（仙台市民会館）で開催予定であった「伝統芸能 華の舞」は、十月五日に延期となり、電力ホールに会場を変更して開催された。昼と夕方との二回公演で、市川右若・市川右左次・市川右田六による「吉原雀」、市川九團次・大谷廣松による「二人椀久」、市川右團次・市川右近親子による「連獅子」という歌舞伎舞踊の名曲が披露された。

文楽

毎年秋に行われる「人形浄瑠璃 文楽」の公演は、十月二日に電力ホールで開催される予定であったが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のために中止となった。

その他

令和二年度の文化庁「文化芸術による子供育成総合事業（巡回公演事業）」として、万作の会による「能楽公演」が十一月十八日に気仙沼市立面瀬中学校で開催された。「狂言を楽しもう」という解説の後に、狂言の「盆山」と「附子」を鑑賞し、最後に狂言「蝸牛」の太郎冠者の役を生徒が担当して共演するという内容であった。

新型コロナウイルスの影響による公演中止や芸能活動の休止が、将来の伝承活動の停滞につながるように、今後さまざまな工夫が必要となっていくであろう。

小^お

塩^{しお}

さとみ

（宮城教育大学 教授）

民俗芸能

民俗芸能は年中行事で演じられるだけでなく、舞台公演や地域おこしのイベントなどでも演じられる。令和二年は新型コロナウイルスの影響で、多くの催事が延期や中止となり、人数制限を行いながらの開催となった。民俗芸能の活動も例外ではなかった。本稿では令和二年の民俗芸能公演や大会等について概観した後、それ以外の活動についても報告する。

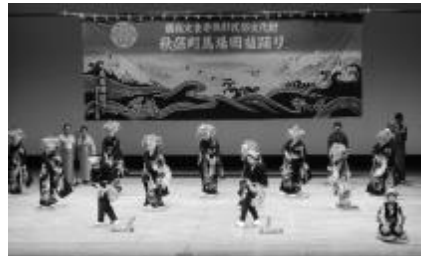
一月十日に白石市古典伝承の館「碧水園」で舞台開きが行われ、白石市指定民俗文化財である榊流大町神楽が、箏曲や日本舞踊、謡などとともに出演した。

一月三十日に栗原市栗駒さんどりームで「第一回新春くりこま神楽観賞会」が開催された。昨年までは「尾松地区神楽鑑賞会」という名称で開催されていたが、それを栗駒神楽保存伝承研究会が引き継ぐ形で、対象地域を旧栗駒町内に広げて開催することとなり、中野神楽、駒堂神楽、東北まぐら神楽、桜田神楽、栗原神楽が参加した。

二月八日に仙台市教育委員会主催「第三十三回民俗芸能のつどい ―秋保の田植踊 ユネスコ無形文化遺産登録十周年記念―」が日立システムズホール仙台（仙台市青年文化セン



「第33回民俗芸能のつどい」早池峰神楽
（於：日立システムズホール仙台、写真提供：仙台市教育委員会）



「第33回民俗芸能のつどい」秋保馬場の田植踊
（於：日立システムズホール仙台、写真提供：仙台市教育委員会）

ター）シアターホールで開催された。東北歴史博物館館長の笠原信男による講演「ユネスコ無形文化遺産と東北・仙台の民俗芸能」の後、福島県二本松市の石井芸能保存会による「七福神の舞」、岩手県花巻市の早池峰大償神楽保存会による「天照五穀」、仙台市太白区（秋保）馬場の田植踊保存会による「馬場の田植踊」が披露された。

二月二十三日に栗原市志波姫公民館で「第四十一回志波姫神楽鑑賞会」が開催された。昨年の四十回を機に終了も検討されていたようだが、伝承のための貴重な上演機会が継続されたことは大変喜ばしい。南部笹流大平神楽による「三番叟」で幕を開け、宮野神楽「敦盛・玉織姫別れの場」、阿久戸神楽「御

所の五郎丸陣屋巡り」、南部笹流大平神楽「牛若丸一代記の内 五條の橋」、川北神楽「石川悪エ衛門二度合戦の場」、白浜神楽「作耕舞」、岡谷地南部神楽「軍勢借り」、赤谷神楽「一の谷首取りの場」が上演された。

三月頃よりイベントを自粛する傾向が現れ、四月七日には緊急事態宣言が出され、これ以降、これまで毎年、開催されていた神楽大会や民俗芸能大会等もほとんどが中止となった。そのような中で、十一月十六日に名取市歴史民俗資料館で「資料館まつり」が開催され、特設ステージで、市指定無形民俗文化財の手倉田枅取り舞、県指定無形民俗文化財の道祖神神楽が披露された。五月に開館した資料館にとって初めてのまつり開催であった。今後とも同時期に開催する予定のことである。

少子化や過疎化により、地域の民俗行事の存続が危ぶまれている中で、新型コロナウイルスの感染拡大防止のために人が集うことを避けなくてはならない現在の状況は、民俗芸能の継承にとって大きな打撃である。それでも様々な取り組みが行われている。

二月十三日に、沖縄県と宮城県の小学校の児童がインターネット中継を通してそれぞれの地域に伝わる芸能を披露する交流活動「子ども芸能交流会」が行われた。沖縄県立芸術学准教授の向井大策と呉屋淳子が主催する事業「地域芸能と

歩む」の中の企画で、山元町立坂元小学校の四年生十三人が「子ども神楽」を演じ、交流先の沖縄本島北部の離島にある伊江村立伊江小学校の五年生十人が「村踊」を演じた。前年に続く二度目の開催であった。坂元小学校の子ども神楽は、平成二十五年に坂元小学校と中浜小学校とが統合した後に、坂元神楽保存会と中浜神楽保存会の協力のもとで生まれた新しい神楽である。児童が自分達の演じる芸能について自らの言葉で紹介する中で、地域の歴史を学び、またその芸能を遠く離れた同年代の仲間に向けて演じる試みは、地域の芸能を活性化させる新しい試みである。

九月五日に仙台市泉区の根白石中学校が、南三陸町戸倉の志津川自然の家で、志津川高校の郷土芸能愛好会の生徒との交流会を開催した。根白石中学校の二年生二十五人が、学区の福岡地区に伝わる「福岡鹿踊・剣舞」を踊り手と笛を奏するおはやし役に分かれて演じ、志津川高校の八人が



根白石中学校と志津川高校の交流会：福岡鹿踊
(於：志津川自然の家、写真提供：河北新報社)

行山流水戸辺鹿子躍を披露した。

十月十日・十一日に開催予定であった「第二十三回みちのくYOSAKOIまつり」は、新型コロナウイルスの影響で中止となったが、同日程でYouTubeを利用した動画イベント「オンラインみちYOSA」を開催した。参加団体は五分以内の動画を送付し、両日ともに三十数団体ずつの動画が披露された。

小お

塩しお

さとみ

(宮城教育大学 教授)

三曲

九年前の大震災後、三曲の演奏活動がようやく活発化し、元に戻ったと安堵していた矢先、思いもしない新型コロナウイルスという冷や水を浴びせられ、復活の火はあっけなく消されてしまった年と云える。あれよあれよと思う間に新型コロナウイルスの感染力の被害は緊急事態宣言が出されるまでに拡大し、施設はすべて閉鎖。三月からは演奏会という発表の場は皆無。

人との接触を断つということは稽古さえ出来ない。この状態が長期化するということは三曲という伝承していく伝統芸能にとって致命的な打撃となることは明らか。そんな状況の中、自粛ばかりしては消滅への道を進むことになる。少しでも打開するべく工夫した動きが見られた。それは配信ライブ。生放送と同じ生配信。目の前には機材のみ。お客さん無し。拍手などの反応は全くありません。しかし必ずどこかで誰かが聴いてくれると信じて演奏するしかありません。野草園での萩祭では密を避けて野外演奏するなど工夫が見られました。大勢から見れば焼け石に水。この事態はまさにプロの演奏家にとっては非常事態と言えます。伝統芸能である三曲の火を消さぬよう一日も早く平常に戻ることを祈らずにはられません。

一月

十日 三曲鑑賞授業 西多賀小学校

六年生 九十五名 宮澤寒山 狩野博山 千葉由美子

小林幸子 橘幸菊 小林恵利子

十一日 三曲鑑賞・体験授業 榴岡小学校

六年生 百三十六名 越後谷恵美子 氏家桂子 郷内伶斉

二十一日 三曲鑑賞・体験授業 原町小学校

六年生 九十名 越後谷恵美子 氏家桂子 狩野博山

二十八日 三曲鑑賞・体験授業 泉松陵小学校

六年生 五十八名 橘寿好 高橋岡義里 佐藤真佐染

二十八日 三曲鑑賞・体験授業 西中田小学校

六年生 九十名 田村雅楽徹 曾根美登利 吉崎喜寿静

宮澤寒山 田村亮山

二十九日 三曲鑑賞・体験授業 若林小学校

六年生 四十名 伊勢雅之園 千葉由美子 宮澤寒山

狩野博山 星寒俊

三十日 三曲鑑賞・体験授業 榴岡小学校

六年生 百六十名 越後谷恵美 氏家桂子 狩野博山

二月

八日 サムライの時代の音楽 戦災復興記念ホール

主催 郡川記念サムライ尺八会 津軽錦風流尺八を吹く会

十一日 音緒の会 箏曲地唄演奏会 戦災復興記念ホール

增岡陽子 吞山佳子 鹿又淑恵 菊地康子

十八日 三曲鑑賞・体験授業 荒巻小学校

五年・六年生 九十八名 二年生 五十二名

氏家桂子 氏家紘子 宮澤寒山 星寒俊

中止となった主な定期演奏会

三月二十九日 第八回子供の邦楽コンサート

十月十八日 第六十四回仙台三曲定期演奏会

宮 みや

澤 さわ

寒 かん

山 さん

(仙台三曲協会理事)



西中田小学校 三曲鑑賞授業 令和2年1月28日



西中田小学校 尺八体験授業 令和2年1月28日



西中田小学校 日本のあいさつの仕方 令和2年1月28日



荒巻小学校 三曲鑑賞授業 令和2年2月18日



仙台野草園にて 令和2年9月21日

長 唄

コロナ禍を乗り越え

日舞おさらい会賛助出演

令和二年、コロナ禍により、すべての催しが中止を余儀なくされた。そんな中であつて、花柳流寿美衡会のおさらい会が開催された。ありがたいことに、その催しにお誘いをいただき、十月三十一日(土)・仙台市太白区八本松市民センター体育館にて、「藤音頭の二節」と「滝流し」を演奏させていただいた。今年一年の中での、最も嬉しい出来事であつた。舞台作り、音響など、すべてをプロの設定で行い、体育館が素晴らしい舞台となった。

大変な中でのおさらい会であつたが、感染症対策の適切な処置を施しつつ、観客と出演者が一体となり、これまでになりに盛況を得、芸術文化の偉大さを感じた。



日舞おさらい会賛助出演

いにしえのとき とわのとき

自粛生活が続くなか、全盛期だった昭和五十年代の宮城県芸術祭の長唄演奏会を思い起こした。当時に比べて、今は会員数が半数に減少し、この先の演奏会を継続していけるのか、行く末を不安に感じている。少子高齢化や時代の多様化により、若い方々の芸事の習い事が減った。

しかし、昨今は、アニメの影響やレトロブームなどにより、これまでとは違う形でお茶や着物の文化が流行りだしている。

昨今の世情の中でも、高齢化社会に生きている私達は、常に心を動かしていたいと、切に思いを深めた一年であった。

杵^{きね} 家^{いえ} 弥^や 登^と 鈴^{すず}
(宮城県芸術協会邦楽部長唄運営委員)



第17回宮城県芸術祭 昭和55年 仙台長唄演奏会

民謡

二〇二〇年東日本大震災から十年と言う節目の年を迎え、本来であれば復興五輪を掲げた、東京オリンピックが開催され、日本全体が明るく活気のある年になるはずでしたが、新型コロナウイルス感染症拡大で多くの活動を自粛せざるを得ない年となりました。

緊急事態宣言が発令され、民謡にかかわる教室、コンクール、学校授業、復興活動等々はほとんど自粛され、延期、又延期、中止と主催者もさぞかしご苦労が絶えなかつた年であったと思います。本来であれば、宮城県の民謡に関する数多くの活動を報告するところで御座いますが、このような状況でありますので緊急事態宣言前の活動を報告致します。

□民謡コンクール

県内各地で実施されている宮城県の民謡コンクール

◎ 一月二十六日(日)

【第三十回えんころ節全国大会】

【主催】 亶理町観光協会

【会場】 亶理町中央公民館

【開催目的】 民謡王国宮城の三大祝い唄の一つとして藩政時

代から歌い継がれる「えんころ節」を通して、全国の民謡愛好者と町民の交流を深め、地域の活性化と町づくりの振興を図るため開催。

【成果】 出場者百五十名参加

【一般の部】

優勝・柴崎光子②鈴木怜菜(多賀城市) ③佐藤実(多賀城)

【熟年】

優勝・菅勝(美里町)②伊藤文子(利府町)③加藤守生(上山市)

【少年少女】

優勝・菊地ひなた(塩釜市)②高橋倅輝(山元町)③斎藤涼花(亶理町)



第十三回えんころ節全国大会 優勝 柴崎光子
(写真提供：河北新報社)

一般の部で優勝した柴崎さんは亙理町出身で仙台市若林区の会社員、柴崎さんは「十回以上出場しているが、節目の大会に優勝できてうれしい。海の荒々しさと女性の優しさを表現しよう」と心掛け歌いました」と話した。

民謡愛好家は高年齢と思われているが、確かに年齢層を見るとそう感じる。これは民謡だけではなく他の文化活動も同様である。しかし、伝承していく姿勢はどの団体でも懸命に行われているのが現状で、その証拠に宮城県の民謡コンクールには、ほとんど少年少女の部が設定されている。今後も伝承する努力を惜しまず進めていくようお願いしている。

二代目 藤^{ふじ} 本^{もと} 和^{かず} 夫^お

(民謡・端唄・小唄・三味線演奏家)

演劇

二月二十三日、Gin's Bar 色彩シリーズ Act.2 『MAUVE
―煙草を吸うさかな―』（Bチームフラッシュ智恵子 vs 武
藤修平）終演後の交流会（この集団はいつもそうしている）
で、スタッフ、キャストと、この作品の三つのチームを見比
べる機会がもつとあればいいね、と話をしていたら、数日後
には、Cチーム（春木舞 vs 五浄壇）の上演が決まっていた
二十九日、三月一日に、Aチーム（西澤由美子 vs 井伏銀太
郎）、Bチームの追加上演の告知が出されたものの、その数
日後には、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を避けるた
めに、全ての上演を延期する告知がなされた。

このように、コロナ禍は、唐突に、演劇を上演する機会と、
それを観る機会とを奪っていった。

一月

宮城教育大学演劇部第二十五回本公演『カヌレ色レンズ向
こう』（作・演出：伏見啓）、十八日、十九日、会場：クオー
タースタジオ。

演劇企画集団 London PANDA 『ほじれる、闇』（作・演出：

大河原準介）、二十九日～二月二日、会場：せんだい演劇工
房 10-BOX Box-1。出演：芝原弘、飯沼由和、キサラカツユ
キ、X梨ライヒ、阿部豪毅、鈴木孝。交通事故の加害者と弁
護士との会話を中心に心の闇に迫るサスペンス。二月十四日
～十六日、第三十回下北沢演劇祭参加作品として、小劇場「楽
園」（東京）でも上演。

『沼沢郁子ひとり朗読（がた）りVIII』三十一日、会場：イ
ズミテイ 21小ホール。九十歳の卒寿を迎えた女優・沼沢郁子
の朗読公演シリーズの最終回。

二月

Sendaiアオハルメイト 旗揚げ公演『ミライ』（構成・演出・
音響：野々下孝）、二日、会場：仙台市市民活動サポートセ
ンター市民活動シアター。

AZ9 ジュニア・アクターズ第二十七回公演『こけしくん
とニポポちゃん〜白石侍 北へ行く』（作：クマガイコウキ、
構成・演出：渡部ギユウ）、八日、九日、会場：えずこホール。

TORIDA シアター演劇が劇場を飛び出した第四回公演

Fukushima Meets Miyagi Folklore Project #3.5 『BABEL (笑)』(テキスト:大信ペリカン、構成・演出:野々下孝、原作:旧約聖書)、九日、会場:イオンスタイル仙台卸町一階フールドコート。韓国でも上演された作品の短縮版をショッピングセンターで上演。

創作音楽劇『宇宙の子ども』(原案:堀米薫、台本:角田高校演劇部、プロデュース・指揮:佐藤寿一)、十一日、会場:かくだ田園ホール。

Gin's Bar 色彩シリーズ Act.2 『MAUVE—煙草を吸うさかな—』(劇作・演出:井伏銀太郎、演出:西澤由美子)、Aチーム(十五日、十六日) Bチーム(二十二日~二十四日) Cチーム(上演中止)。会場:クォータースタジオ。禁煙にまつわる二人芝居を複数のキャストで上演。

仙台舞台芸術フォーラム 2011→2021 東北(主催:公益財団法人仙台市民文化事業団/仙台市) オープニングイベント『はなして』(作・演出:生田恵)、『徒然だ』(作・演出:なかじょうのぶ)、『壊れる水』(作・演出:長谷川孝治)、十五日、十六日、会場:せんだい演劇工房 10-BOX Box.1。東日本大震災後の舞台芸術に焦点を当て、二〇一九年度から三カ年にわたり開催する「仙台舞台芸術フォーラム」のオープニング企画。東北で活躍する三人の劇作家の震災後の戯曲の上演とトークセッション「劇作家は、震災をどのように受

け止めたのか」。

東北大学学友会演劇部卒業公演『消失』(作:ケラリーノ・サンドロヴィッチ、演出:竹内新) 十五日~十七日、十九日~二十三日、会場:東北大学川内北キャンパス川内ホール一〇四号室。

東北学院大学演劇部卒業公演『止まらない子供たちが轢かれてゆく』(作:綾門優季、演出:横澤のぶ) 十五日~十七日、会場:東北学院大学 泉キャンパス コミュニティセンター二階多目的ホール。第一回せんだい短編戯曲賞の大賞受賞作品の上演。

SENDAI 座☆プロジェクト2020冬『タルタロスの足湯—みちのく温泉郷物語—』(作:クマガイコウキ、演出:渡部ギユウ)、二十日~二十三日、会場:エル・パーク仙台ギヤラリーホール。平成二十五年に上演した『鳴子温泉郷物語タルタロスの足湯』の姉妹編。上演時には公表されていなかったが、SENDAI 座☆プロジェクトは、その後、三月三十一日に解散し、これが最終公演となった。十四日~十六日、会場:座・高円寺1(東京)でも上演。三月に予定されていた川西公演は中止となった。

えんぎ者・熊谷由海 PRESENTS『緒』、二十八日、二十九日、会場:星港夜(シンガポールナイト)。ソロパフォーマンス。みんなのしるし合同会社『ミュージカル「シシ」こころし

ずかに遊べ我が連れ』（作：黒川陽子・矢戸優太郎、演出：横山真）、二十八日～三月一日、会場：誰も知らない劇場。平成三十一年三月に石巻市、岩手県大船渡市で上演した作品の新演出での再演だったが、上演中止。ビデオ収録のみが行われた。

三月以降、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を避けるため、上演中止が相次ぐ。当初、一箇月程度と思われていた自粛期間は、際限なく延長し、終わりが見えなくなっていた。

コロナ禍の中で、十分な対策を行った上での上演を模索した劇団距離男道ミサイルは、34発目『春とシユラ ラライッ!!』～Spring and Asuras (not-/ment al sketch modified)～（脚本・演出：本田椋、inspired by 宮沢賢治「心象スケッチ 春と修羅」）を、四月三日～五日、せんだい演劇工房 10-BOX Box-1 から無観客上演の生配信を行なった。

これ以降、コロナに振り回された様々な劇団の「あがき」を紹介する。

仙臺まちなかシアター

仙台市内の飲食店を会場にして、朗読劇を楽しむ企画。当初、新型コロナウイルス感染症の収束後の五月一日から開催

予定だったが、収束の見通しが立たなくなってしまうことから、『仙臺まちなかシアター IN おうちdeシアター』として、上演予定だった飲食店で収録したものを配信することになった。構成・演出：高橋菜穂子、映像：クマガイコウキ。

#1 『恩讐の彼方に 菊池寛』 出演：渡部ギユウ、会場：鹿

落堂

#2 『第一高等学校思出断片 他 斎藤茂吉』 出演：野々下孝、会場：純喫茶星港夜（シンガポールナイト）

#3 『夏の夜の夢 岡本かの子』 出演：菊池佳南、金子勲（ケナ）、会場：自家焙煎珈琲まめ坊

#4 『西郷隆盛 芥川龍之介』 出演：芝原弘、LYNX（リンクス）

#5 『あだこ 山本周五郎』 出演：原西忠佑、会場：パンプリムウス仙台

#6 『人間椅子 江戸川乱歩』 出演：佐々木久美子、会場：和醸良酒〇たけ

#7 『火事とポチ 有島武郎』 出演：絵永けい、会場：純喫茶星港夜（シンガポールナイト）

#8 『晚菊 林芙美子』 出演：上島奈津子、会場：綴 cafe

#9 『御身 横光利一』 出演：野々下孝、会場：パンプリムウス仙台

以上が配信。これ以降は、感染症予防の対策を行って、観客数を少なくした上で上演した。

- # 10 七月十七日『おさん 太宰治』出演：佐々木久美子、
会場：鹿落堂
- # 11 十九日『女方 三島由紀夫』出演：芝原弘、会場：和
醸良酒〇たけ
- # 12 二十九日『赤西蠣太 志賀直哉』出演：原西忠佑、会
場：旧伊達伯爵邸 鍾景閣
- # 13 八月二十日『父 矢田津世子』出演：絵永けい、会場：
綴 cafe
- # 14 二十六日『おじいさんのランプ 新美南吉』出演：上
島奈津子、会場：純喫茶屋港夜（シンガポールナイト）
- # 15 二十八日『夜長姫と耳男 坂口安吾』出演：渡部ギユウ、
菊池佳南、山本純（チュロ）、会場：ダ・ジエンナード
- # 16 九月二十四日『火の魚 室生犀星』出演：渡部ギユウ、
上島奈津子、会場：ラ・サルテン
- # 17 二十七日『文豪たちの恋愛論』出演：絵永けい、橋浦
あやの、芝原弘、会場：大石屋
- # 18 十月二日『寺坂吉右衛門の逃亡 直木三十五』出演：
野々下孝、会場：鹿落堂
- # 19 十一日『吾妻橋／心づくし 永井荷風』出演：佐々木
久美子、会場：arco（アルコ）
- # 20 二十二日『蛙のゴム靴 宮沢賢治』出演：渡部ギユ
ウ、菊池佳南、芝原弘、上島奈津子、岩佐絵理、会場：

- café craft
- # 21 二十五日『死にたくいざいませぬ〜太宰治の手紙〜』
出演：渡部ギユウ、原西忠佑、会場：和醸良酒〇たけ
- # 22 十一月二十日『泥棒と若殿 山本周五郎』出演：渡部
ギユウ、野々下孝、会場：ダ・ジエンナード
- # 23 二十六日 12:00 『恩讐の彼方に 菊池寛』出演：渡部
ギユウ、会場：ラ・サルテン
- # 24 15:30 『人間椅子 江戸川乱歩』出演：佐々木久美子、
会場：ラ・サルテン
- # 25 19:00 『夏の夜の夢 岡本かの子』出演：菊池佳南、
会場：ラ・サルテン
- # 26 十二月六日『水仙 林芙美子』出演：絵永けい、芝原
弘、会場：大石屋
- # 27 十三日『みちのく 岡本かの子』出演：上島奈津子、佐々
木久美子、会場：和醸良酒〇たけ
- 即興集団インプロ仙台『PAGE ANT（ページェント）』**
この集団は定期的にワークショップや即興パフォーマンス
ライブを続けており、三月二十一日、会場：となりのえんが
わ（仙台市）、六月二十日、会場：岩沼隠れ即興塾（仮）、七
月十八日、会場：岩沼隠れ即興塾（仮）、八月十日、会場：
となりのえんがわ（仙台市）、十月十七日、会場：亘理いちごっ

こ、十二月二十六日、会場：岩沼隠れ即興塾（仮）、とコロナ禍の中でも積極的なライブ活動を行った。

のぞき穴演劇「ピーピングトム」

演劇グループ「ウィルチンソン」（企画：矢口龍汰）が企画。六月十四日～七月二十六日の毎週日曜日、会場：ギャラリー「キマワリ荘」（石巻市）、観客は各回一人だけで、穴から舞台となる隣室を覗くというもの。『忌』（出演：三國裕子）、『Do』（脚本・演出：よしだめぐみ、出演：大橋奈史）、『あい』（出演：阿部拓郎）、『落』（出演：芝原弘、菊池佳南）の四作品（三分～十分）が上演された。

2020日本現代戯曲「名作シリーズ」Vol.1「今は昔、

栄養映画館」（作：竹内統一郎、構成・演出：高橋菜穂子）
出演：渡部ギユウ、松崎太郎

仙台公演、七月一日～五日、会場：せんだい演劇工房 10-

BOX Box-1

大河原公演、七月二十三日、会場：えずこホール平土間ホール

二十五年前に同じキャストで上演した作品を、新たな演出と感染症対策を行い上演。客席には、古今東西の著名人の名前が揭示され、芝居の内容とリンクした感染症対策が行われ

た。

コマイぬ月いちよみ芝居『拝み屋怪談』

芝原弘が旧観慶丸商店（石巻市）で郷内心瞳の怪談を読むシリーズ。二月の第十八夜は上演したが、三月の第十九夜が中止となり、八月三日『再放送』として、役者はそこにいるだけで、録音した音声を流すという上演を行った。

その後、九月二十八日、第二十夜『蔵』、十月十七日、第二十一夜『幽魂の蔵』（会場：石巻市かわまち交流センターかわべい）、十一月三十日、第二十二夜『芋沢くん』（ゲスト：キサラカツユキ）と継続している。

プレイング・ユニットの戯『ネイキッド・デイ・ブレイク』

（作・演出・出演：都甲マリ子、出演：佐藤隆太）、八月二日、十六日、二十三日、三十日、九月六日。ヴァーチャル・リアリティを活用して配信上演を行なった。

七月から八月になる頃には、対策をしっかりとしながら、公演を行うことが可能となっていた。一方で、十一月に開催を予定していた「第五回いしのまき演劇祭」は翌年に延期となった。

八月

劇団 短距離男道ミサイル35発目ミサイルフェスティバル
(夏) 新作もアンコールもポロリもあるヨ!おまえとおれのネオ七夕2020、十四日〜十六日、会場・せんだい演劇工房 10-BOX Box-1。『ハイパー・ファンタスティック・ナイト・オン・ザ・ギャラクティック・レールロード』(脚本・演出:本田 椋、inspired by 宮澤賢治「銀河鉄道の夜」)、『CAN魂リプライズ』(構成:初代 短距離男道ミサイル、演出:劇団 短距離男道ミサイル)、『災害救助戦士 ホンダム』(作・演出:澤野正樹 ※二〇一八年初演時の演出)の三本立て上演。

九月

ミュージカル劇団「ドリーム☆キッズ」第十八回公演『ワ
ンダーランド! 不思議の国のその森で』(脚本・演出:渡
部三妙子)、十三日、登米祝祭劇場

十月

子どもミュージカル劇団「たまごファーム」『いちばん星
見つけたっ!』(脚本・演出:渡部三妙子) 四日、会場:電
力ホール(仙台市)

SENDAI OROSHIMACHI Art Marche 2020 は、九日〜
十一日、せんだい演劇工房 10-BOXを会場に開催された。

また、能BOXを会場に、参加者を公募した『オイディ
プス王』(作:ソポクレス、翻訳:井上優、演出:山本タカ)
を上演した。出演:飯沼由和、鈴木将頭、白鹿リオ、原西忠
佑、本田 椋、増田淳、三品彩乃、武者匠、演奏:熊谷太輔
演劇集団ダンボール工房 第二回公演『BRILLIANT』(作・
演出:臺野響)、十六日〜十八日、会場:せんだい演劇工房
10-BOX Box-1

ワンコインシアター vol.1 『風音 Kazato』ピアノ五重奏
曲第二番イ長調』(原作:やまやしげる、台本・演出:野々
下孝)、二十二日、会場:仙台市宮城野区文化センター・パ
トナシアター。第二回仙台短編文学賞のプレスアート賞受賞
作品の朗読劇。二月に上演予定だったが、延期となっていた。

東北❖びす 設立記念公演 『1-Piece Theatre = Perform
from A to B』、三十一日、会場:エル・パーク仙台ギヤラリ
ホール。渡部ギユウの法人設立公演。リーディング『白痴/
坂口安吾』(構成・演出:高橋菜穂子)、出演:渡部ギユウ、
石垣弘子(ピアノ)。ダンス『ダイアログ(即興)』、出演:
佐藤有華、四倉由公彦(楽士)。演劇『ゴールデンバット』(作・
演出:大池容子)、出演:菊池佳南。アフタートーク『ポス
トコロナ/ソロの魔力』、ゲスト:石垣のりこ。

十一月

劇団「夢回帰船」出航プロジェクトサン・ファン・バウ
テイスタ出帆記念祭ステージイベント『黒船出航前日譚』（作・
演出：都甲マリ子）、三日、会場：サン・ファン館 宮城県慶
長使節船ミュージアム 広場ステージ。第四回いしのまき演
劇祭参加作品『和製南蛮船サンファンバウテイスタとハセク
ラの秘密』の後日譚。

和太鼓合唱劇『Ryo〜男爵いもの父 龍と天使の物語』（脚
本：高橋理沙、作曲・演出：佐藤三昭）、十五日、会場：大
崎市田尻文化センター

言言第六回公演『蛇と天秤』（作：野木萌葱、演出：大河
原準介）、十九日～二十三日、会場：せんだい演劇工房 10-
BOX Box 1。出演：白鳥英一、原西忠佑、芝原弘、キサラ
カツユキ、武田らこ、飯沼由和。医学に題材を求めたサスペ
ンス。三月に上演予定だったものが延期になった。

仙台シニア劇団まんざら十周年記念公演『縁側倶楽部の秋』
（脚本：可奈敦士、演出：大石和彦）、二十一日、二十二日、
会場：仙台市市民活動サポートセンター 市民活動シアター

第五回いしのまき演劇祭プレイベント『木枯らしのスイ
ミーそれでもやる公演』、二十九日、会場：旧観慶丸商店（石
巻市）

十二月

仙台シアターラボ シア・トリエ合同公演 Fukushima
Meets Miyagi Folklore Project #4 『ペスト〜我々は人を死な
せる恐れなしに身振り一つも成し得ない〜』（原作：アルベ
ル・カミュ、テキスト：大信ペリカン、野々下孝、構成・演出：
野々下孝）、十二日、十三日、会場：せんだい演劇工房 10-
BOX 別館能ーBOX。九月に「TRIAL」を行う、それをブラッ
シュアップしての公演。ペストとコロナと福島とが渾然一体
となった同時代の演劇。

ワンコインシアター vol.2 『調律師』（原作：熊谷達也、脚
色・演出：吉水恭子）、二十三日、会場：仙台市宮城野区文
化センター・パトナシアター

仙台・劇のまちトライアルシアター 2020 『子育ていろ
いろ晴れときどき嵐』（構成・演出：高橋菜穂子）、二十六日、
二十七日、会場：せんだい演劇工房 10-BOX Box 1。子育て
を取材して構成したドキュメンタリー・シアター。

OH 夢来 S 第二十四回公演 市民参加型ミュージカル『わ
んどくきやつつ！〜さけべ！〜にゃおーにゃおー！〜』（脚本・
演出：渡部三妙子、音楽：橋元成朋）、二十九日、三十日、会場：
電力ホール（仙台市）

第七回せんだい短編戯曲賞（十月二十七日発表）

ここまで記してきたコロナ禍の中、今回から戯曲の募集

が隔年となった短編戯曲賞は、全国三十一都道府県から二百七十七作品が応募され、『異邦人の庭』刈馬カオス（愛知県）、『春の闇』北島淳（京都府）の二作品を大賞に選んだ。例年であれば、年度内に授賞式と受賞作品のリーディング上演が行われてきたが、これは、次年度に予定されている。

鈴 すず

嶋 かみ

久 ひさ

善 よし

（演劇ジャーナリスト）

洋舞

順調に歩みを進めていた世界が、新型コロナウイルス感染症のパンデミックにより、驚くほどの衰退や生死に関わる事態が襲ってくるとは、想像を超えた出来事に驚きを隠せない状況です。今尚その闇から抜けることができないう世界になっている現実には、どう対処していくべきか路頭に迷う日々です。舞台活動が軒並み中止となるなか、困難を乗り越えて開催につなげて活動継続しているダンサーや団体もあります。海外のバレエカンパニーやダンスカンパニーで、プロとして活動しているダンサーの多くが帰国する中、海外で活躍し続けている者もいます。とても頼もしく、心から応援したい気持ちでいっぱいです。日常の舞台がどんなに大切な事か、身に染みて刻まれた一年間でした。東日本大震災から十年の月日が流れ、一部の回復がやっと感じられてきた東北に、あまりにも酷な日常に心が折れそうにもなりますが、一筋の光が見えている限り、歩みを止めることなく努力をし続けなければなりません。と思う今日この頃です。日常や夢が一時期遠のく感が隠せない状況ではありますが、ポジティブにとらえ力を合わせて乗り切りましょう。

県内の活動

○八月二日 佐取純子モダンバレエスタジオ 創作舞踊公演「遠い響」 日本舞踊家中川雅寛さんが震災の伝承を目指して創作した「奥羽綿津見盆踊」をベースに、和洋の舞踊を調和させた。純白の洋装の佐取さんと、黒い和服の中川さんが生者と死者の世界を象徴し、別離の悲しみをダンスで描いた。子供たちも参加する盆踊りの輪で、震災からの再生と未来を表現した。和太鼓グループ「Atora」も出演した。インターネットで無料配信もおこなった。多賀城市文化センター。

○十月十一日 塩釜高校の文化部活動発表会「実行委員会主催」コロナ禍で規模を縮小し九月に開催。両親らに演技を披露したいと十月に開催。合唱とダンスと音楽の三つの部で、事前登録者のみを入場者にし、検温と除菌を実施しての開催となった。市は発表会の実現に向け、文化芸術活動を対象に補助金を支給し、職員が実行委員会をサポートした。塩釜市体育館

コンクール（県内）

○二月二十二日～二十三日 第十五回ダンスコンペティション
in仙台2020、日立システムズホール仙台シアターホール「クラシック」百八十五曲「モダンダンス」百二十二曲。いずれも全国対象。審査委員長・うらわまこと。主催DCS実行委員会・共催・宮城県洋舞団体連合会 会長・佐東悦子

○四月二日 第七回NBAジュニアバレエコンクール（全国対象）日立システムズホール仙台シアターホール。参加者二百八十九名 主催 一般財団法人NBAバレエ団

○八月十二日～十四日 第十五回ALL NIPPONクラレエココンペティション
MIYAGI（通称・伊達コンペティション 全国対象）当初三月三十日～四月一日の開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により中止となりました。出場に向けて半年から一年かけて努力をし続けてきた参加者が、習得したスキルを発表する機会



第15回伊達コンペティション

を失わせてはならないと、実行委員会が実現に向けて開催を計画しました。マスク着用厳守、除菌、検温を行い、予防を徹底した上での延期開催となりました。仙台市太白区文化センター楽楽ホール。参加者百八十二名。ゲスト審査員オリバー・ホークス、審査委員長・高橋厚子、プレ審査委員長・中村道子

団体（県内・県外）

★横浜市西区のパシフィコ横浜で八月十八日に開催された、第十三回日本高校ダンス部選手権（スーパークップダンススタジアム）全国大会のスモールクラス（二～十二人）には、東北地区から仙台城南が出場した。六年連続六回目の出場。同校を全国大会の常連校に育て上げたダンス部の顧問、佐々木美智さんが他界され、ささげる魂のダンスが見事に披露された。

★第十三回日本高校ダンス部選手権 バトルトーナメントの東日本大会 五十三チームが参加。三人一チームで交互に演技する「スリー・オン・スリー」優勝は二松学舎大学（東京）「チーム二松」 準優勝は仙台城南（宮城県）「Ares」 第三位は都立東大和（東京）「VERTEX」、帯広北（北海道）「North Auggus」（十二月二十八日）めぐろパインモンホール

個人(県内)

★林里奈さん 五歳から
仙台にてバレエを始め
る。日本バレエ協会東北
支部コンクール、ALL
NIPPON D. A.
T. E. クラシックバレ



林里奈氏ソロ

エコンペティションMI
YAGIなどで、数年に
わたり入賞。ユースアメ
リカグランプリではトッ
プ十二位、アメリカ本選
のシード習得。十五歳で、
アントワープ王立バレエ



ドイツ州立バレエ団にて

学校、十七歳でバレエ団に入団。その後フランスなどでゲス
トダンサーとして踊り、現在ドイツ州立バレエ団でソリスト
として活躍している。また劇場での仕事をしながら、ダンサー
仲間との作品作りも手掛け励んでいる。今後色々な形で芸術
を届けられたらと考えている。(パリエ・クラス・ドウ・バ
レエ出身)

★松澤うららさん 四歳から仙台にてバレエを始める。AL
L NIPPON D. A. T. E. クラシックバレエコン

ペティションMIYAG
I第一位。全国つくば洋
舞コンクール第二位、イ
タリアのバリー国際コン
クール第三位。現在カ
イロ国立オペラバレエ団
で、エジプト神話オシリ



松澤うらら氏 マンドウーハ・ハッサン氏

スにて準主役のネフティ
ス、海賊のパ・ド・ドウ、
カイロオペラハウスのプ
リンシパルダンサーMa
mdouh・Hassan
(マンドウーハ・ハッ
サン)とダイアナとアク



カイロ国立オペラバレエ団にて

ティオンのグラン・パ・ド・ドウなどを踊り活躍している。
現在ファーストソリストに昇格し、舞台毎に日々成長を感じ
させるダンサーである(クレールバレエアトリエ出身)
★熊谷和徳さん 二〇〇七年から公益財団法人仙台市市民文
化事業団と共催でタップ教室を開き、年一回公演を行ってき
た。仙台出身でニューヨーク在住、ニューヨーク・ダンス・
アンド・パフォーマンス・アワード最優秀パフォーマー賞な
どを受賞し、第一人者として活躍するタップダンサー。だが

コロナ禍で舞台が中止となり、亡くなった知人もいて心がぶさぎ込んだ。十一月の横浜の公演再開で、タツプが自分に必要な事を再確認した。常にタツプを踏める場所があることは貴重と、熊谷さんのワークシヨップの受講生の俳優長谷野勇希さん（名取市）らがスタジオを開設。熊谷さんが帰国した際に指導するスタジオ「KAZ TAP STUDIO in SENDAI」がオープンした。

個人（県外）

★米沢唯さん 東京生まれ・名古屋育ち。ヴァルナ国際バレエコンクールジュニア部門第一位。世界バレエ&モダンダンスコンクール第三位。ジャクソン国際バレエコンクールシニア部門銅賞。サンノゼバレエ団に入団。現在、東京の新国立劇場バレエ団でプリンシパルとして活躍。文化庁の芸術選奨文部科学大臣賞を受賞。

★島添亮子さん 小林紀子バレエ・シアター・プリンシパルとして活躍。武蔵野音楽大学オペラコース課外バレエ非常勤講師。古典のみならずマクミランスタイルを体現するアーティストとして英フィナンシャルタイムズ紙に絶賛される。文化庁の芸術選奨文部科学大臣賞を受賞。

★秋元康臣さん ボリシヨイバレエ学校卒業タソオリンピック第三位。ペルミ国際バレエコンクール銀賞。東京バレエ団ア

リンシパルとして活躍。文化庁の芸術選奨文部科学大臣新人賞を受賞。

これからは、オンラインのバレエコンサートなども開催される時代になると思いますが、やはり新型コロナウイルスの収束が見えて来たら、舞台活動も沢山したい、海外での活動や舞台観賞など様々な経験も大切にしたいなど、希望に胸を膨らませていく多くの活動家や若者達が、新たなスタートラインに立っています。感染にとらわれることなく、洋舞界を頼もしく突き進む姿が、また見る事が出来る事でしょう。その日が来る事を心から楽しみにしたいものです。

高橋厚子
（宮城県芸術協会舞踊部部长）

日舞

●宮城県の日本舞踊界の動向

本年度の（公社）日本舞踊協会宮城県支部の会員を中心とした舞踊家は新型コロナウイルス感染拡大の影響で、近年類を見ない大きな悪影響を受けた。

予定されていた舞踊会、発表会は延期や中止を余儀なくされた。感染防止や予防のために不要不急の外出・移動の自粛が要請され、三つの密「密閉」「密集」「密接」を回避するため稽古もままならない状態が続いた。

コロナ禍における日常の変化は長期にわたり未だ先が見通せない、東日本大震災で被災した時以上の危機的状态に陥っている。

●宮城県内外での舞踊公演の動向

◎延期

歌奏会	会主	水木	歌奏
寿和枝会	会主	藤間	寿和枝
千久沙会	会主	西崎	千久沙
宝梅会	会主	若柳	梅京

◎中止

尋葉奈会	会主	花柳	尋葉奈
------	----	----	-----

歳末たすけ合い
第五十八回 各流舞踊大会

●新型コロナウイルスまん延の影響

令和元年頃発生した新型コロナウイルスは未知のウイルスで、高齢者や基礎疾患があると重症化しやすい傾向があり、治療法も治療薬も確立されていない。世界的にまん延し、令和二年一月、日本でも感染者が確認された。その後、瞬く間に感染が全国的に拡大し、感染の流行を早期に終息させるため、小、中、高等学校が三月二日から全国一斉休校の措置がとられた。

また、まん延防止の観点から三月より歌舞伎、日本舞踊公演などの公演も上演を見合わせ、歌舞伎座、国立劇場等の劇場も休場となった。第二次世界大戦中や東日本大震災でも長期休演することのなかった歌舞伎も長期休演を余儀なくされる歴史的な出来事になった。

それでも感染者は増え続け、医療崩壊を防ぐため、四月七日には東京、神奈川、埼玉、千葉、大阪、兵庫、福岡の七都府県に緊急事態宣言が要請された。そして四月十六日には全国に拡大された。マスクの着用、不要不急の外出・移動の自粛、大勢の人が集まる施設の休業が要請され、飲食店も営業時間短縮や休業要請がなされた。仕事も自宅での在宅勤務や時差出勤が推奨され、生活様式が大きく変化した。

七月に開催予定だった東京オリンピック・パラリンピックも延期が決まった。

一旦は感染者数も減少し、緊急事態宣言も解除された。解除後は業種業態により感染防止のためのガイドラインが設けられた。イベント開催も入場人数の制限、消毒の徹底、主催者による出演者の行動管理などの協力が要請された。

歌舞伎の興行が上演される東京・歌舞伎座は座席の前後左右を一席ずつ空けるかたちで入場者数を50%削減し、座席等消毒の徹底、チケット購入者の連絡先把握、場内でのマスク着用と会話の禁止、出演者・裏方スタッフ全員のPCR検査の徹底、演目も舞台上で役者が密にならないように登場人物の少ない狂言が選ばれる等、これ以上ない位の感染予防対策を施して八月から上演を再開した。

歌舞伎、文楽、日本舞踊、邦楽演奏会などを上演する東京・国立劇場も同様の感染防止対策を施し十月より公演を再開し

た。

しかし、要請の解除や様々な経済活動再開に伴い人の動きや流れが活発化し、八月、九月には感染者増加の第二波、十一月からは第三波の流行に入り、新型コロナウイルス感染症の出口は見えない。

その中で日本舞踊界も日頃の稽古、発表会、啓蒙活動等が多大な制限を受けた。

◎日常の稽古

緊急事態宣言の自粛期間中、多くの指導者は稽古を休みにせざるを得なかった。門戸は開き弟子の判断にまかせた指導者もいた。

緊急事態宣言があげた後も「普段」「日常」の稽古に変化が起きた。

日本舞踊の稽古は師匠と弟子の一对一で行われる。まさに「密接」になる。そこで稽古時もマスクを着用し、時間を決めた予約制にするなど、それぞれ工夫や対策が取られた。

また自粛期間が長期に亘った事と、新型コロナウイルスが感染力の強い重症化もあり得るウイルスなので、個人の判断や家族の強い意見で、やめてしまう弟子、退会する会員も多かったと聞く。師匠の側でも、高齢や基礎疾患をもつ指導者の中には感染を恐れ、稽古を再開できない先生方もいる。

只でさえ、日本舞踊人口が減少傾向にある今日、大きな痛手である。

◎発表会

新型コロナウイルス感染拡大の影響で今年予定されていた多くの、舞踊会、発表会、お濠い会、リサイタル等が、中止または延期を余儀なくされた。

本来なら東京オリンピック・パラリンピックが賑々しく盛大に開催され、全世界に日本の文化も発信されるはずだった。と同時に日本人も日本の文化を再認識する絶好の機会になっただけだ。日本舞踊の良さを内外に知ってもらう機運を逃したことは痛恨の極みだ。

大勢の人が集まる発表会で前述した歌舞伎座のような、十分な感染対策をとることは一般のレベルではかなり難しい。緊急事態宣言の自粛期間中はもとより、自粛期間があけても、感染予防の観点からほとんどの催しが中止または延期になった。

会を開催するためには、数年前から出し物の稽古に励み、様々な準備を重ね、多くの費用もかけて当日に至るので、影響は甚大である。さらに半年から一年、二年、延期されたお濠い会も、延期後にコロナ禍が終息しているかどうかは今の時点では不明である。出演を予定していた演者も、月日が延

びれば様々な事情が生じ出演できないかもしれない。延期しても不安を抱えている。

日本舞踊の舞台には大道具、小道具、衣裳、かつらなど、裏方には多くの職人が関わっている。その職人達が仕事がなく、生活のため他の職種でアルバイトをして凌いでいるという話を聞いた。コロナ禍が長期化したら廃業する職人も出てくるだろう。そうなれば会は催せなくなる。

コロナ禍が長期になればなるほど日本舞踊の世界も崩壊の危機に瀕する恐れがある。

●コロナ禍における日本舞踊の稽古

コロナ禍で「普段」「日常」の稽古に変化が起きた。

日本舞踊の稽古は基本師匠と弟子が一对一での相伝、振り出し。横並びや対面により行われる。型を直すために師匠は弟子の手足や背中、首などに普通に接触する。まさに感染しやすい状況と言われる三密のひとつ「密接」の機会になる。

そこで稽古時もマスクを着用し、稽古場の換気を定期的に行うと共に、弟子同士が同席し密にならないよう人数制限をしたり、長時間滞在しないよう時間予約制での稽古にした指導者が多かった。他の人の稽古を見るのも勉強の世界なので、切ない苦肉の策である。

弟子同士のコミュニケーションがとれないことも寂しい事

である。

●リモート、動画配信での稽古、発表会

コロナ禍において人同士が場を共有せず、コミュニケーションがとれる在宅でのリモートや動画配信が推奨された。日本舞踊の世界でも若手を中心となって動画を利用した舞台発表や稽古が行われている。コロナ禍においては、時代に合った有効な手段である。

しかし、年代や環境によつては手軽に利用できるツールとは言えない。

「生」の臨場感もない。

動画は振りを覚えるためには便利だが、悪意から利用すれば振付の著作権を侵害する恐れもある。相伝の世界にあってはビデオが普及してから「ビデオ」先生に頼るようになり芸の奥行きが浅くなったとの話もある。歌舞伎の昭和の名優が当時「映像での稽古は危険。ビデオ先生からは自分が見えているところからだけしか学べない。お手本の映像に間違いが映っていたら間違った伝統が受け継がれていく。」と釘を刺している。

コロナ禍においてはやむを得ないが、終息の暁には、人との場の共有、師匠と弟子の相伝、生の臨場感を再び大切にしてもらいたい。生とリモートとのバランスをとってもらい

たいと願う。

●県民会館へ発表・活動の「場」の必要性

老朽化した県民会館の移転、建て直しが昨年に引き続き大きな話題になっている。県から宮城県美術館との集約案も出たが市民団体の猛反発を浴び、見合わせる事になった。

今後県から構想が公表される見込みだが、終息の見通せない新型コロナウイルス感染症対策と影響で冷え込んだ経済対策の重要性から今後の進展に影響が出ることが懸念される。

引き続き宮城県に対し日本の伝統文化を上演するに相応しい、花道やセリなどの舞台機構を設備し、客席やロビーに華やきのあるホールの建設を望みたい。東京への文化と消費の流出を止めるためにも『場』は必要である。

ホールだけが立派ではいけない。東京・歌舞伎座や京都南座、大阪・松竹座、福岡・博多座など伝統的な日本の劇場、世界の主要劇場は、交通の便がよく、飲食店や店舗が周りに沢山ある環境に立地している。観劇や鑑賞には『見る楽しみ』と『食べる楽しみ』『買物の楽しみ』はセットなのである。ここを間違え、『建てたはよいが客が来ない』『客入りが悪いので公演も来ない』となってしまう大きく失敗する。

街の中心から離れた場所に建てざるを得ない場合は、江戸時代に幕府の命令で、江戸の中心日本橋から浅草に移転させ

られた「江戸三座」を参考にしてもらいたい。芝居小屋の賑わいに新しい町が形成された。新しい県民会館の周りに飲食や物販の町をつくり賑わいを創出する。人が集まりやすい計画を立案してもらいたい。

引き続き日本舞踊協会宮城県支部の会員からも積極的に声をあげ、県外からも足を運んで貰えるような日本舞踊の『発表の場』『シンボルとなる拠点』『自分たちのホームグラウンド』をつくり宮城県の舞踊文化を盛り上げて欲しい。

●コロナ終息後の日本舞踊の可能性

長期に亘るコロナ禍が終息すると、それまで自粛で抑圧されていた人が外に動き出し経済は立て直しが図られるであろう。新しく世の中が動き出す機運に日本舞踊界も是非乗ってもらいたい。悪しき慣習を捨て、良いところを見つめ直す。温故知新の精神で新しい時代にも支持される日本舞踊のあり方を模索し創り上げて貰いたい。

大須賀 豊

(日舞名取・歌舞伎大向弥生会副会長)

茶道

令和二年一月、新しい元号「令和」二年目を迎え、希望に満ちた年であろうと誰もが信じていたと思う。

しかし、一月末には中国湖北省武漢市を中心に、新型コロナウイルスによる肺炎が拡大。二月中旬には、日本でも猛威をふるい、各種イベントの中止が相次いだ。

三月二日には全国の小学校・中学校・高等学校が出校停止。仙台市内の小学校・中学校の卒業式・入学式が縮小された。

四月七日には新型コロナウイルス感染拡大防止で、七都府県に「緊急事態宣言」が出され、四月十六日には全国に宣言が拡大された。

このような事態の中、茶道各流派では、恒例の茶会等が次々と中止を余儀なくされた。小学校・中学校・高等学校の出校停止は六月には解除されたが、茶道クラブが中止となった学校も多かった。

このような状況の中でも、各流派工夫を凝らして、三密を避けながら稽古を始めている。

十月には新型コロナウイルス国内感染者が十万人を越え、まだまだ終息の兆しが見られず、自粛の生活が続いている。

新型コロナウイルス感染症が一日も早く終息し、日常の生活が戻り、令和三年には各流派のお茶会等が再開されて、伝統文化が伝承されることを、切に願っている。

第二十四回社の都大茶会

宮城県芸術協会茶道部（加入十一流派）と河北新報社との共催の「第二十四回社の都大茶会」が五月三十日（土）、三十一日（日）の両日行われる予定であったが、新型コロナウイルス感染症のため中止となった。

第五十七回宮城県芸術祭茶会

十月十一日（日）、十八日（日）、二十五日（日）の三週にわたって、輪王寺の半杓庵・隠寮・書院にて、十一流派により開催される予定であったが、新型コロナウイルス感染症のため中止となった。

トキメキ体験！日本伝統文化はココ・城下町せんだいから
七月五日（日）、仙台市内の市民グループ「城下町せんだ



仙庵

い 日本伝統文化未
来プロジェクト」の
主催によりスタート
した。会場は仙台市
所有の二つの茶室、
茂ヶ崎庵と仙庵であ
る。

月一度、日本文化を専門家から学ぶ講座を毎回テーマを変えて開いた後、表千家・裏千家・玉川遠州流・石州清水流の茶人が茶会を開き、無料で一般市民に茶を振る舞った。

茂ヶ崎庵は総合建設業「橋本店」(仙台市)が、青葉区

定禅寺通に所有していた明治末期の木造二階の建物で、一九六七年に市に寄贈された。平屋の仙庵は数寄屋造りの本格的な茶室。仙台市出身で裏千家十四代家元夫人の嘉代子さんが、一九六九年、仙台市名誉市民に推戴されたことを記念して市に寄贈した。



茂ヶ崎庵 (写真提供：河北新報社)



仙庵「松瑞」にて



仙庵「松瑞」にて

表彰

令和二年度

宮城県芸術協会功績者表彰

近江宗恵(表千家)、相沢宗裕(宗徧流)、関口南扇(織田流煎茶道)、鈴木晋清(玉川遠州流)、島田幸子(武者小路千家)

心よりお祝い申し上げます。

令和二年度宮城県芸術協会茶道部

部長 鎌田宗節

副部長 菅原宗玉

主な茶会と関連事項

一月 十日 織田流相徳会初煎会

(ホテルメトロポリタン)

家元献茶式・免状授与式・新年会

十二月 煎茶道三彩流初煎会・新年会

(国際ホテル)

十九日 裏千家新春の集い並びに茶名披露式

(勝山館)

二十六日 表千家同門会宮城支部新春茶会

(仙台サンプラザホテル)

二月 二日 玉川遠州流支部初釜

(市民会館)

八日 江戸千家不白会仙台支部初釜

九日 江戸千家不白会研究会

十六日 月釜(裏千家) (瑞鳳寺)

鎌田宗州

二十二日 裏千家宮城支部総会

(新型コロナウイルスのため書面による総会)

四月 十八日 大日本茶道学会第五十回支部総会

(新型コロナウイルスのため中止。書類送付)

五月 全日本石州流茶道協会機関誌「関」三十号

へ寄稿

遠州流オンライン茶会 (温茶会)

第十八回鹽竈神社観桜茶会 (各流派)

三日 (新型コロナウイルスのため中止)

三十日 第二十四回「杜の都大茶会」(各流派)

三十一日 第二十四回「杜の都大茶会」(勾当台公園)

両日共に新型コロナウイルスのため中止

武者小路千家「お稽古会」開始

六月 五日 栄西忌(裏千家) (瑞鳳寺)

(新型コロナウイルスのため供養のみ)

七月 五日 日本伝統文化未来プロジェクトによる茶会

(茂ヶ崎庵・仙庵)

畠山宗照(表千家)

(茶室「松瑞」・立礼席)

第十七日 第九回全国やきものフェア―添釜(表千家・

裏千家・大日本茶道学会・江戸千家・武者

小路千家)

(新型コロナウイルスのため中止)

二十六日 日本伝統文化未来プロジェクトによる茶会

(茂ヶ崎庵・仙庵)

庄子宗照(裏千家) (茶室「松瑞」)

八月 高橋宗昭(表千家) (立礼席)
六日 仙台七夕茶会(裏千家)
七日 仙台七夕茶会

新型コロナウイルスのため中止

三十日 玉川遠州流第一回支部勉強会(市民会館)

日本伝統文化未来プロジェクトによる茶会

(茂ヶ崎庵・仙庵)

高瀬佳子(表千家) (茶室「松瑞」)

星宗愛(裏千家) (立礼席)

九月 四日 裏千家「オンライン茶道学」宮城支部視聴会 (宮城支部道場)

十一日 裏千家「オンライン茶道学」宮城支部視聴会 (宮城支部道場)

(茂ヶ崎庵)

十三日 玉川遠州流支部茶会 (茂ヶ崎庵)

十八日 裏千家「オンライン茶道学」宮城支部視聴会 (宮城支部道場)

二十五日 裏千家「オンライン茶道学」宮城支部視聴会 (宮城支部道場)

(宮城支部道場)

二十七日 日本伝統文化未来プロジェクトによる茶会

(茂ヶ崎庵・仙庵)

白崎宗奈(裏千家) (茶室「松瑞」)

黒澤宗夏(表千家) (立礼席)

十月

武者小路千家「お稽古会」
五日 鹽竈神社献茶式(裏千家)

(新型コロナウイルスのため献茶式のみ)

八日 裏千家「オンライン茶道学」宮城支部視聴会

(宮城支部道場)

十一日 第五十七回宮城県芸術祭茶会

(新型コロナウイルスのため中止)

十五日 裏千家「オンライン茶道学」宮城支部視聴会

(宮城支部道場)

十八日 第五十七回宮城県芸術祭茶会

(新型コロナウイルスのため中止)

二十二日 裏千家「オンライン茶道学」宮城支部視聴会

(宮城支部道場)

二十四日 玉川遠州流全国大会

(京都 南禅寺・正剛院)

二十五日 第五十七回宮城県芸術祭茶会

(新型コロナウイルスのため中止)

日本伝統文化未来プロジェクトによる茶会

(茂ヶ崎庵・仙庵)

芳賀宗哲(表千家) (茶室「松瑞」)

佐藤宗綾(裏千家) (立礼席)

二十九日 裏千家「オンライン茶道学」宮城支部視聴会

十一月

八日

煎茶道三彩流研修会

(宮城支部道場)

(輪王寺)

十二日

裏千家「オンライン茶道学」

宮城支部視聴会

(宮城支部道場)

十九日

裏千家「オンライン茶道学」

宮城支部視聴会

(宮城支部道場)

二十二日

日本伝統文化未来プロジェクトによる茶会

(茂ヶ崎庵・仙庵)

渡邊晋祥(玉川遠州流)

(茶室「松瑞」・立礼席)

二十六日

裏千家「オンライン茶道学」

宮城支部視聴会

二十八日

煎茶道三彩流献茶式・看板授与式

(龍雲院)

十二月

三日

玉川遠州流第二回支部勉強会

(市民会館)

十二日

裏千家「オンライン茶道学」

宮城支部視聴会

年納め茶会(晋祥会)

(宮城支部道場)

十五日

渡邊晋祥(玉川遠州流)

(青峰堂)

宗旦忌・茶筥供養(裏千家)

(瑞鳳寺)

十九日

(新型コロナウィルスのため供養のみ)

年納め茶会

(青峰堂)

二十日

嵯峨宗育(裏千家)

日本伝統文化未来プロジェクトによる茶会

(茂ヶ崎庵・仙庵)

小野宗智(裏千家)

(茶室「松瑞」)

嶋山宗照(表千家)

児

玉

宗

睦

(裏千家宮城支部常任幹事)

華道

令和元年は実際には五月一日からの八ヶ月で、実際に令和が十二月月あったのは二年から。

その令和二年がこんな年になるとは誰が想像したのだろうか？

予兆は年末年始からあった。

原因不明の肺炎が中国で発生しているとのネットニュースが流れていた。

しかしここまで拡散し、また長引くとは思わなかった。瞬く間に世界中に流行し、まさにパンデミックである。

その流行は令和二年中には収まらなかった。一時期下火になった時期もあったが、またリバウンドし、感染者数は一進一退である。

この状況はいつまで続くのか？

この原稿を書いている令和三年三月にもまだまだ収束は見通せない。ワクチン接種が始まった後も変異ウイルスの登場により安心とは全く言えない状況となってしまった。

本来の令和二年は夏に東京二〇二〇オリンピック・パラリンピックが開催され、世界中の国々から大勢の選手達、観客

が来日し、連日の熱戦を観戦しながら日本という国の歴史、豊かな自然、人の温かさ、そういった物を感じて貰える絶好の機会であった。伝統文化を通して魅力は十二分に伝えられたはずである。

東京のみならず、全国の道府県、市町村が思い思いに協力し、様々な国の色々な競技団体をホストタウンとして誘致し、交流を深め、もしかするとそれが縁でオリンピック後も交流が深まることがあったかも知れない。

そしてこのホストタウンには三つの種類が有り、ホストタウン（東京二〇二〇オリンピック・パラリンピック開催に向け、スポーツ立国、グローバル化の推進、地域の活性化、観光振興等に資する観点から、参加国・地域との人的・経済的・文化的な相互交流を図る）、復興ありがとうホストタウン（被災三県（岩手県・宮城県・福島県）が対象。これまで支援してくれた海外の国・地域に復興した姿を見せつつ、住民との交流を行う）、共生社会ホストタウン（パラリンピアンへの受け入れを契機に、各地における共生社会の実現へ向けた取り組みを加速し、二〇二〇年以降につなげていくもの）とそれぞれ

れの目的を持った市町村が、立候補し相手側と契約を結ぶものである。

我が宮城県でも仙台市はイタリアのホストタウンとしてフットボールやパラリンピック競技の事前合宿地となり、他にもキューバのバレーボールチームの事前合宿地として多賀城市と共に協力することになっている。多賀城市はキューバの野球チームの事前合宿地でもある。他にも気仙沼市はインドネシアの復興ありがとうホストタウンに、登米市はポーランドのホストタウンと事前合宿地（ボート）、石巻市はチュニジアの復興ありがとうホストタウン、事前合宿地、加美町はチリの復興ありがとうホストタウンと事前合宿地（パラカヌー）、東松島市はデンマークの復興ありがとうホストタウンに、名取市はカナダの復興ありがとうホストタウン、岩沼市は南アフリカの復興ありがとうホストタウン、亘理町はイスラエルの復興ありがとうホストタウン、丸森町はザンビアのホストタウン、蔵王町はパラオのホストタウンと事前合宿地（陸上競技、水泳、レスリング、アーチェリー）に、白石市と柴田町は連携してベラルーシのホストタウンと事前合宿地（新体操）となっている。

県内全てのホストタウンを挙げていったが、私はお恥ずかしながら、仙台市がイタリアのホストタウンになっていることを風の噂で聞いたくらいで、これだけ多くの市町が多くの

国をホストし、また事前合宿地として選ばれているという事実を知らなかった。程度の差こそあれ、きつと全てを知っている方は少ないのではなからうか。是非隣町にはどこの国の選手達が来るか、興味、感心を持って見てもらいたい。そしてホストタウン、事前合宿地となるという事は、競技は違えどトップアスリートの姿、練習風景を間近に見られると言う事である。

これは子供たちにとってどれ程貴重な経験となり宝物になるだろうか？子供たちだけではない。老若男女、海外からのお客様をおもてなしの心を持って接し、良き時を過ごし、日本の想い出を最高のモノにしてもらうべく奮闘する姿が目に見えようである。

本来なら…。

しかし東京二〇二〇オリンピック・パラリンピックは翌年の二〇二一年開催へ一年延期となった。一年の延期で新型コロナウイルス感染拡大が収まるとは思えず、世論調査でも中止・再延期が多数を占める状況が続いている。

それでもどうしても開催するのであれば、空港検疫等の水際対策を徹底し、オリンピック・パラリンピックが感染拡大の引き金になったという不名誉なことは避けてもらいたい。

そして可能であればホストタウン、復興ありがとうホストタウン、共生社会ホストタウンの実現に取り組んでもらいた

いものである。

このオリンピック・パラリンピックは選手のためのみならず、日本に暮らす人々、取り分け未来を担う子供たちの為にも安全対策を徹底した上で、開催する意義を全うしてもらいたいと切に願う。

新型コロナウイルスが陰を落したのは、何もオリンピック・パラリンピックだけではない。全ての業種、年齢層、日常から自由を、明るさを、健康を、未来を奪っていった。

華道も例外ではない。

令和二年に中止された華道展の何と多いことか。

華道は完成品を運搬、設置して終わる他の展示芸術・美術と違い、会場にて作品を生けあげる作業がある。モノによっては数人がかりで数時間、密な状況で生けねばならない時もある。

この状況では以前のまま華道展を開催することは出来ない。マスク着用、手指消毒は勿論のこと如何に密の状態を防ぐか、工夫が必要となる。

先ずは花席の間を十分に取る。ソーシャルディスタンス、フィジカルディスタンスをキープする会場構成を考えなければならぬだろう。今までは二〇〇平米ほどの空間で出来ていたものが三〇〇平米必要となるということも考えられる。その分費用も嵩むだろう。

次に生け込み（会場に花材や花器、花台等道具一式を運び、作品を生けあげること）の時間をグループ化し、ずらす工夫も必要であろう。それには各作家が生け込む時間の短縮も図らねばなるまい。六時間であったところを奇数偶数にグループ分けし、三時間×二回転というようにして密を避ける等が考えられる。

そして観覧者の入場にも工夫が要るかと思われる。これまでの傾向では午前十時前後の開場と同時に入場者が殺到し、場内は混み合い、なかなか作品が見られない状況もあった。このコロナ禍でその様な状況を発生させることは主催者として許されないであろう。劇場公演のように時間を区切り午前十時から正午までの鑑賞券、正午から午後三時までの鑑賞券、午後三時以降閉場までの鑑賞券とチケットを三種類に分け、その時間のチケットをお持ちの観覧者とごく少数の当日券のみに絞ると言うような工夫が出来るのではないか。場内の混み具合によっては入場制限を課すことも必要になるろう。

果たしてこの様な制約を課されることに慣れていない来場者が納得出来るものか、非常に不安ではあるが、このコロナ禍が落ち着くまでに一〜二年は掛かると尾見茂新型コロナウイルス感染症対策分科会長が見て仰っていた。その時を座して待つことは出来ない。

やれることを、やれる人が、やれる時に、やる！

その覚悟がなければ、これからの華道は無くなってしまおうだろう。

このコロナ禍以外にも従来から少子高齢化による華道人口の減少は著しく、私のような地方の一弱小流派の家元が騒いでどうにか出来る問題ではないことは重々承知しているが、だからといって諦めず、くさらず、何とか宮城の華道人をまとめ上げ、二十一世紀から二十二世紀へと伝統文化華道を繋いでいくための努力は惜しまない所存である。

そして宮城の他分野の芸術家達と手を取り合い、更なる発展を望みたいと願う。

さて、前段でも書いたが、今年の宮城で開催された華道展はコロナ禍とあって少ない。

その中でも開催されたものを筆者の知る限りにおいて紹介しておきたい。

一月十八日・十九日、塩竈市のイオンタウン塩釜及びマリンプラザにて清泉古流塩釜支部創立六十周年記念いけばな展が開催された。主催の塩釜支部は清泉古流の中でも一番若手が多く、勢いのある支部で、多くの来場者を集めた。また塩竈市在住の書家齊藤文春氏とのコラボもあり、「古典から現代まで」をモットーとする清泉古流らしいバリエーションに富んだ会場となった。イオンタウンでは子供教室の修了作品発表会も行い、子供たち、孫たちが生けた花を見に家族連れ

で皆来場されて笑顔の花が咲いた。

一月三十一日から二月二日まで花と緑のココロ博が夢メッセみやぎで開催された。このイベントは二十四回を数えた「とうほく蘭展」の後継イベントで、これまでの蘭、ガーデンという種類に拘らず、もっと広い観点で植物を鑑賞しココロが癒やされ、緑に囲まれることでココロが和む、そんなコンセプトのイベントである。宮城県華道連盟からも九流派が参加し、文字通り会場に花を添え、来場者を楽しませた。とうほく蘭展がある意味マンネリ化し入場者数が減少傾向にあった中で、この企画変更により目新しさも有り入場者数が増えたのは良いことであった。今後、如何にマンネリ化させないか、企画力が問われるところであろう。

二月二十二日から二十五日まで一般社団法人宮城県華道連盟主催の第七十九回春のいけばな展「宮城のいのり 春に咲けくがせんだいメディアテーク五階 a・b」を会場に開催された。二日間ずつ前後期に分かれ、会員百四十名が参加し思いの作品を出品した。また会場の一角をデモンストラーションステージとし、開催時には多くの観覧者を集めた。この時期はまだ宮城県では新型コロナウイルスの感染者は無く、マスクもせずに普通に暮らしていたと思うと非常に感慨深い。この華展の会期中に東京より、三月中に新宿で開催が予定されていたいけばな展が中止となったと連絡があり、宮

城県でも今後はそうなることが予想され慄然としたことを覚えてる。

十月十日から十三日まで公益社団法人宮城県芸術協会主催の第五十七回宮城県芸術祭華道展がせんだいメディアテーク五階aを会場に開催された。当初開催中止も検討されたが、「いま宮城の芸術の灯を消してはいけない」という雫石理事長の強い思いに背中を押され、華道展も所属全流派が参加する方向で一旦はまとまった。しかし流内に戻るとそれぞれの事情により参加辞退の申し出もあり、残念ながら十二流派中七流派（小原流・古流松應会・清泉古流・道風流・本原遠州流・本原松栄流・龍生派）の参加に留まり、出品数も普段は六十五作前後なのが二十二作と寂しい会場風景となった。しかしコロナ禍にあつていけばな展を開催し、様々な感染防止対策を行った上で一人も感染者を出さなかったというのは今後へ向け自信となった事は間違いない。次は如何に出品数の増加と感染防止を両立させるか、それは非常に難題だがやっていかねばなるまい。

その他にも各流派の指導者とその門弟による社中展が開催された。一例を挙げると小原流の太田順華先生とご門弟の皆さんが「希望の春へ」と題し十二月二十四日から二十八日までザ・ガーデン中山店を会場に開催された。ザ・ガーデン中山店の二十周年ということもあり、会場で、ところ狭しと華

やかに生けられた花たちは、コロナ禍で疲れた心を十分に癒やしてくれていた。

また、長年に亘る華道を通じた社会貢献が認められ、福田光春先生が令和二年秋の叙勲で緑綬褒章を授与され、また宮城県より文化の日表彰を伊藤翠華先生が、文化庁より地域文化功労者表彰を有賀華醇先生がそれぞれ受賞された。暗い時勢に合つて明るいニュースとして宮城の華道界を照らしてくれた。先生方の多年に亘る貢献に感謝申し上げる。

このコロナ禍、いつまで続くかわからないが、会場に足を運ばなくともいけばなが楽しめる、そんな企画、アイデアで乗り越えていければとも思う。SNS（ソーシャルネットワークサービス）を利用したオンライン華展や教室などもそうだろう。

今だから出来る事、今しか出来ない事、いろいろと模索しこの困難な時期を皆で乗り越えていきたい。
そう願ひ筆を置くことにしよう。

西^{にし}村^{むら}一^{いっ}観^{かん}

（一般社団法人宮城県華道連盟 常務理事）



道風流
花と緑のココロ博



本原遠州流
花と緑のココロ博





静月流
花と緑のコロ博



清泉古流
花と緑のコロ博





メディア芸術

新型コロナウイルスは今後もしばらくは影響を及ぼすとされている。ウイルスがもたらす社会環境の変化は、主題や形式を含め表現自体にも変容をもたらすことになるだろう。二〇二〇年は、その始まりの年と記憶されるのだろうか。また、時期同じく東日本大震災から十年目となり、日本社会は一つの節目を迎えると言ってもよい。しかし、本稿を執筆している二〇二一年三月現在は、新型コロナウイルスに立ちほだかれ、予定している東京オリンピックの開催が曇り空のよう揺らぐ度に、背景化された福島原発の進まない事後処理という難題が見え隠れしているという状況である。わたしたちの社会は決して安定的な構図の中にはない。

さて感染症のために、同一空間に集う形式の表現発表は、ほとんどが中止や変更を余儀なくされた。他者と交流する創造行為も困難を極めただろう。止むを得ないことだが、あらためて現代芸術の危機であることは確認できる。実空間を用いる表現が難しければ、この際「メディア芸術」に注力すればよいという声も聞こえてきそうだが、それは短絡的だろう。既にコロナウイルスの流行以前から、私たちのコミュニケーション

ションはインターネットに傾注していた。その技術によって外出制限下にあっても複数同時会話が違和感なく可能なのだが、それはあくまでも代用でしかなく、もはや新たな表現につながる珍しさはない。テレビ電話にしてもパソコン通信にしても、新規の通信技術への興味が想像力を喚起したが、インターネットが一般化したうえで代用とわかつているものに可能性は見出しにくいのである。「メディア芸術」と呼ばれる表現系は、日本語における「メディア」≡電子的なもの、コンピューターや映像に関わるもの、という大衆的なイメージに根ざしているが、同時に「それ以外の芸術」があることで成り立ってきたジャンルだとも言える。すなわち、絵画や彫刻や演劇など従来の表現系であるが、それらがコロナウイルスによって限定的なものとなれば、相対的にメディア芸術も萎縮していくだろう。またインターネットの利用も、実空間でのリアルなコミュニケーションの合わせ鏡であることに楽しさがあつたわけであり、現実的に自宅に閉じ込められれば、コンピューター周辺の通信環境も代用としての不十分さを実感させるだけである。

*

いずれにしても好ましい状況ではないが、外出自粛が要請されるなかで特徴的だった二つの活動を紹介する。まずは「10年目をきくラジオ モノノーク」だ。これはアーツカウンシル東京の Art Support Tohoku-Tokyo のプログラムの一環として、企画運営を一般社団法人 N O O K が担い、劇作家の中村大地が番組構成、美術家の瀬尾夏美と、ソーシャル・デザインをおこなう桃生和成がパーソナリティを務めるインターネットラジオである。タイトルにもあるように東日本大震災から十年目の社会を見つめることがテーマであるが、二〇二〇年の六月二十五日が初回放送であり、外出自粛の不由さは聴取者にも出演者にも共有されているだろう。毎回二時間ほどの時間の中で、他国に暮らす人との対話や、東北に暮らす人にインタビューし震災後の活動を紹介するコーナーなどで構成されている。このようなインターネットラジオは、動画配信よりも手軽であり、またラジオは聴取者にとって、いわゆるながら作業に最適でもある。画面に拘束する動画ではなく、何かのついでに聞くことができるラジオであることから、彼らが配信手段の簡便さを選んだというだけでなく、あくまでもコロナ禍に暮らす聞き手の生活に寄り添おうとする姿勢であることがうかがえる。それは表現をとおして被災地に寄り添ってきた N O O K の方針でもあるだろう。

もう一つが、写真家の志賀理江子と、仙台市内の古書店 (book cafe 火星の庭、書本 & cafe マゼラン、曲線) が協働しておこなう Independent Bookstore Print Editions である。これは志賀の過去の作品の中から選んだものをプリントしてこれらの書店の中に展示し、販売もするというものである。古書店は必ずしも広くはないが、本に囲まれた独特の空間を持つているため、それらにそぐうように作品が選定される。展示も単なる額装ではなくインスタレーションとしての工夫がなされており、あくまでもモノや物理空間の唯一性を尊重する姿勢が示される。出版物や写真は本来、複製性によって成り立つが、それ故に、ひとつのモノとして存在することへの愛着や、その在り方へのこだわりが際立つ。志賀と古書店主はこうした美意識の同調に根ざして、モノの手触りを失わない本や写真の受容環境を維持しようとしているのである。さて、この取り組みに触れるためには、直接書店へ赴かねばならず、外出自粛には逆行するようだが、この活動は会期を持たず無期限なのである。感染症の抑制に対する社会的要請と表現行為のバランスとしてはこうした方法もあるだろう。

*

少々コロナ禍と離れよう。東北リサーチとアートセンター (TRAC) で、十一月六日から十二月二十七日まで、佐竹真紀子の個展「波残りの辿り」が開催された。佐竹は画家で

あるが、震災後に彼女がおこなって話題となったのは、仙台市の荒浜で、津波にさらわれた元停留所や、震災後に新たに人が集まる場所となったところに偽のバス停を建てるプロジェクトである。過去には実際にそれらのバス停を巡るバスツアーも実施された。バス停をメディアとして用いるという一風変わった活動をしてきた佐竹であるが、画家としても特徴的な手法を用いる。それは何層にも塗り重ねた絵具の層を彫刻刀で削り出していくものである。描き出す形態とは別に、深く掘るか浅く掘るかで現れる色彩をコントロールするのだ。また塗り重ねられる絵画とは違い、掘りすぎてしまえばそれまでであって、一回性や身体性を強く意識した技法でもある。彼女は、過去を想起させるイメージを画面に刻印していくにあたり、後からの付け足しや演出を許さない。その表現は強い禁則性によって、主題に対するメディアウムと身体の関係を分かち難くしている。展示されていた新作である『日和山の再会』。蒲生の日和山を心象的に描いたこの作品は、現時点での佐竹の技術的集大成というべきものだろう。細部までコントロールされた色彩と形態は、彫刻刀の彫り跡の一つ一つを追いかけられるように近目に眺めても飽きさせないものである。今回は絵画作品とあわせて、偽バス停プロジェクトの記録も展示されており、活動を開始した二〇一五年当時の記録からは、逡巡や葛藤も読み取れる。バス停を作るにして

も、イメージを削り出すにしても、佐竹は、表現のために他者から新たに奪うのではなく、表現することで「還す」ことを意図しているのではないだろうか。表現のための主題はすでに与えられているという認識のうえで、その高い倫理観に根ざしてメディアウムや技法が選択されているように思われる。

小森はるかの映像作品『かげを拾う』が十二月十九日にギャラリーターナーアワードで上映された。これは同所での青野文昭の個展「総合的復元」（十二月八日〜二十日）の関連イベントである。『かげを拾う』は二〇一九年度にせんだいメディアテークで開催された青野文昭の個展「ものの、ねむり、越路山、こえ」にあわせて制作された。小森は、震災後の人と社会を見つめたドキュメンタリー作品で高い評価を得てきたが、本作もそのシリーズである。これまでは陸前高田に暮らす人を中心に描いてきたが、本作では展覧会に向けて仙台で作品制作を進める青野に密着した。ただ、いわゆる人物の記録映画とは異なり、東日本大震災からの人の心の機微をつぶさに描き出そうとする彼女の眼差しは明確である。また津波で被災した青野夫人の実家（岩手県宮古市）へ同行して撮影するなど、青野本人だけでなく、青野につながる人たちの視線も内包した。浜辺に流れ着く廃棄物を「なおす」として作品とする青野だが、タイトルが示すように小森が注目

したのは、なおす以前の「拾う」ことである。ここでの「拾う」とは、打ち捨てられたもの、無や負の印象を持つ事象へ絶えず眼差しを向けることだとも言えるだろう。『かげを拾う』はアーティストが主役という点で、小森作品のなかでは異色かもしれないが、震災を経ても途切れない青野の眼差しと、その継続性にこそ彼女の共感があり、映像に残そうとしたものではないだろうか。

*

七月から八月にかけて、一番町の商業ビル「仙台フォールス」で、テナントの一部をギャラリーとして活用する実験的な活動がおこなわれた。仙台フォールスは、「ファッションビル」である。これは和製英語であるが一般化しており、実際にファッションビルは、全国の主要都市でその文化形成に重要な役割を果たしてきた。しかしインターネットによる衣服の販売や、低価格で大量生産するファストファッションの隆盛によって、その位置付けは変化してきている。かつてのように先鋭的で高級なブランドだけでなく、生活雑貨店が増えたり、多用途空間として利用されるなどしているのだ。今回は二階の空きテナントスペースに前述の青野文昭の作品が展示されたほか、七階では佐々瞬による『売店「男、店を開く準備をしている」』が開催された。いずれもギャラリータームアラウンドが企画運営をおこなっている。二階については

居抜きの店舗を純粹に作品のギャラリーとして利用していたが、七階の佐々の展示は、そのタイトルが示すように、店舗としての展示と、アートの作品展示を融合させた両義的なものだった。あり合わせのもので即興的に作られたかのような什器や、佐々の個人的な思い入れのある物体（見方によってはガラクタとも言えるモノ）を商品化するなど、通常の店舗では経験できない交換の可能性がデザインされた。その空間の様相からもプリコラージュ・器用仕事という言葉が浮かぶが、何よりも、店員なのか展示作家なのか、いずれともつかない存在として居続けた、佐々の存在が興味深いものだった。店番をしているようであり、常に展示物＝商品、あるいは什器を作り続けているようでもあり、いずれの型にも収まらない位置に身体を置くことで、現代におけるプリコラー・器用人の在り方を模索とされているように見えた。オブジェクトの鑑賞ではなく、新たな関係性の提案を第一に企図する場合、器用人としての在り方こそ相応しいのかもしれない。レヴィー＝ストロースは、器用人とは出来事から構造を作る存在だとしたが、「アーティスト」の役割や振る舞い方が、良くも悪くも社会のなかで構造化され定式化されつつあるなか、美術館やギャラリーなどアートのための場所で、その再点検をおこなうのは難しいのかもしれない。その意味で、新たな出来事としての商業ビルでの取り組みや、佐々のアプローチは意

義深いものではないだろうか。

*

ギャラリートーンアラウンドでは、七月二十三日から八月一日まで磯崎未菜の個展「The Dreamtime」が行われた。磯崎は東京藝術大学大学院を修了後、二〇一八年に仙台に移住した。これまで、多摩ニュータウンや震災後の福島、仙台的の蒲生などで、現代の民謡のような土地のうたを作成し、自らが歌う映像とする「小民謡プロジェクト」をおこなってきた。各地の調査や取材によって成り立つこのようなプロジェクト型の表現（＝状況のなかに自分を投企する）は、新型コロナウイルスの影響を受けて中断を余儀なくされている。そのためだろうか、本展では、外出自粛の状況を逆手にとり、自宅で見る夢をアポリジニの世界観「ドリームタイム」と重ねた。マジックショー、イカの目と人の目、地下空間への沈降、タンポポの綿毛などのイメージが語りによって紡がれ、内省的なイメージから世界への肯定的な接続を試みた映像詩となっている。そしてこの展示は、ギャラリー内に設けられた洞窟のような空間の内部に寝をべって天井に映された映像を見るという大掛かりなものだった。Youtube が好例だが、今や映像は、制作にも享受にも最もポピュラーな表現形式となり、その技術的な洗練のノウハウも定式化したと言えるだろう。一九六〇年代のビデオアートや、九〇年代のコンピュー

ターグラフィックスのように、技術的進歩に依拠した新たな可能性の追求ではなく、社会そのものが映像化したことを前提にした批評的言及術として映像は存在している。前述のドキュメンタリーのように、映画はジャンルとして確立した文法や技術を駆使するのに対して、アートとして映像を考えるときには、そのものを括弧に入れて宙吊りにすることが求められる。それが上映では無い展示の意義になるだろう。この展示における大仰な装置性はそのことを示唆している。

さて、何度も登場しているギャラリートーンアラウンド(主宰・関本欣哉)だが、二〇二〇年に十周年を迎えた。その記念としてタノタイガの個展「15min. ポートレート 2008-2020」が十月十五日から三十一日に開催された。展示されたのは二〇〇八年から彼が継続してきたプロジェクトのドキュメントである。そのプロジェクトとは、主に沖繩の風俗街に、十五分間分の料金を払い、そこで働く彼女たちが実際に着ている衣装をタノが借りて身に纏い、室内に寝そべる様を、彼女たちに撮影してもらおうというものである。十数年間に撮影された百点ほどのポートレートは、撮影時のエピソードとともに年を追って揭示されており、赤色の薄暗い照明のなか、観客はペンライトを持って、一人ずつ十五分間限定で鑑賞する。各エピソードからは、彼がアーティストという特殊な位置に身を置かずにこの活動をしてきたことが分かる。タノは

これまでも自らの身体を作品に用いてきた。これは既存の主体性の象徴としての身体に社会的な主題を投影して、そのポリュームの違いを浮き上がらせるためだと思われる。それによって自己充足的に主題を収めようというのではなく、主体認識をゆらがせることを意図する。タノの表現からは、単一的な主体認識から、いくつもの声によって都度生成される多元的な主体のあり方が見えてくる。ミハイル・バフチンにしたがえばポリフォニー的という言葉になるだろうか。このシリーズのように、戦後に作られた特殊飲食店街に触れることは、一個人の身体的スケールを超える難問のようだが、タノはモノローグ的な善悪の裁定によって行動するのではなく、あくまでも一対一の信用の交換を多数積み重ねることで、多元的な声による語り（＝表現）を実現しようとしている。こちら側を見る被写体の視線は、タノ本人のものであるが、置屋街で働くいくつかの誰かの視線でもあるのだ。そして、都合な他者性を排斥しない語りとは、むしろ他者性に依存しながら語ることであり、そのことで自分の主体性を事後的に認識することだと気付かされる。

*

震災以降の中心的な主題であった、当事者と非当事者の差異をめぐる問題は、多くの方法の開発や再発見をコンテンツポラリアートに促した。状況のなかに自らを投企し、他者に

なりきるようにして理解に努めること。あるいは、暫定的な飯の状態のままに関係を長く継続していくこと。この十年間は、これら他者性に対する実直な姿勢の重要性が確認されたと言えるだろう。目下、無症状のキャリア特性を持つウイルスによって、誰もが感染の当事者となり、差異の境界はより広範に不明瞭となったが、震災以降に見出された技術は、これからの世界にもかわらず有効だと思われる。

清 しみず 水 みづ 建 けん 人 ひと

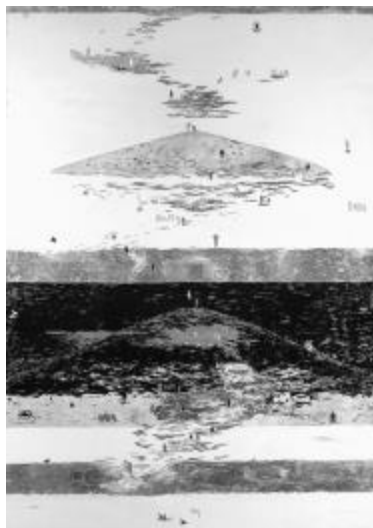
(せんだいメディアアテーク主任学芸員)



モノノク収録風景（左：桃生和成、右：瀬尾夏美）



古書店マゼランでの志賀作品の展示風景（Independent Bookstore Print Editions）



佐竹真紀子《日和山の再会》
（「波残りの辿り」展より）



佐竹真紀子《 SeasideSeeds 》部分（「波残りの辿り」展より）



小森はるか「かげを拾う」より



佐々瞬『売店「男、店を開く準備をしている」』展示風景



佐々瞬『売店「男、店を開く準備をしている」』展示風景
写真：小岩勉



磯崎未菜《 The Dreamtime 》より



磯崎未菜《 The Dreamtime 》展示風景



タノタイガ「15min. ポートレート 2008-2020」展示風景
写真：小岩勉



タノタイガ「15min. ポートレート 2008-2020」展示風景
写真：小岩勉

広域文化団体の 文化活動記録の

(公社) 宮城県芸術協会
宮城県文化協会連絡協議会
(公社) 日本舞踊協会宮城県支部
宮城県吹奏楽連盟
宮城県合唱連盟
宮城県おかあさん合唱連盟
仙台三曲協会
宮城県能楽振興協会
宮城県洋舞団体連合会
宮城県歌人協会
宮城県俳句協会
宮城県川柳連盟
宮城県詩人会
(一社) 宮城県華道連盟
宮城県民芸協会
(公財) 日本民謡協会宮城県連合会
全国民謡連盟宮城県連合会
宮城県民謡道連合会
宮城県写真連盟
宮城県文化財友の会

県内の文化団体のうち二十団体を掲載。
(令和二年十二月三十一日現在)

■凡 例

- ㊦…………… 所在地
㊧…………… 電話番号
㊨…………… 代表者
㊩…………… 構成員数
㊪…………… 所属流派
㊫…………… 構成員の資格
㊬…………… 創立年月
㊭…………… 定期刊行物

公益社団法人 宮城県芸術協会

- ⑧ 千九八〇—〇八〇二 仙台市青葉区二日町十六—一
二日町東急ビル五—B
- ⑨ 〇二二—二六一—七〇五五
- ⑩ 理事長 雫石 隆子
二千八十四名
- ⑪ 正会員になるためには会員二名以上の推薦を受け、理事会の承認を得なければならない
- ⑫ 昭和三十九年五月
- ⑬ 機関誌「はなやま」(年四回発行)
「宮城県文芸年鑑」(年一回発行)
- 開催月日 催事名 場所

- 11/5~9 第一回杜のみやこ工芸展 T F U ギャラリーミニモリ
- 12/7~13 第七回定禅寺フォトコンテスト展 東京エレクトロンホール宮城
- 12/15~21 第五十七回宮城県芸術祭 東京エレクトロンホール宮城
- 絵画展受賞者作品展

- ⑭ 第五十六回宮城県芸術祭
- 2/9 第四十回音楽コンクール予選 日立システムズホール仙台

⑮ 第五十七回宮城県芸術祭

- 9/26 開会式 せんだいメディアアテーク
- 9/26~29 写真展 せんだいメディアアテーク
- 9/26~29 フォトサミット in Sendai 2020 せんだいメディアアテーク
- 9/26~29 絵画展(公募の部) せんだいメディアアテーク
- 9/26~29 彫刻展・彫刻公募展 せんだいメディアアテーク
- 10/3~6 絵画展 せんだいメディアアテーク
- 10/10~13 華道展 せんだいメディアアテーク
- 10/10~13 書道展 せんだいメディアアテーク
- 10/15 「宮城県文芸年鑑」発行 せんだいメディアアテーク
- 11/5~9 工芸展 東京エレクトロンホール宮城
- 11/24 表彰式 T F U ギャラリーミニモリ
トークネットホール仙台

宮城県文化協会連絡協議会

- ⑯ 千九八七—〇五一— 登米市迫町佐沼字中江二丁目六一—一
登米市まちづくり推進部市民協働課内

- ⑰ 〇二二〇—二二二—二一七三
- ⑱ 会長 鈴木 敬一
- ⑲ 六十二文化協会(約三万五千名)

⑧ 市町村（合併前）を単位とした文化・芸術協会

⑨ 昭和五十三年六月

⑩ 会報「くぐなり」（年一回発行）

宮城県文化協会運営状況「心の華」（二年に一回発行）

開催月日 催事名 場所

10月下旬 第二十四回みやぎ県民文化祭

（中止）

12月上旬 第四十一回宮城県文化協会

運営研修会（中止）

本会は、宮城県内の文化（芸術）協会相互の連絡調整を図り、その発展を助長するとともに、文化芸術活動を通じて県民文化の振興と向上に寄与することを目的としており、加盟団体は六十二を数えます。

本会は二つの大きな事業を行っています。一つは、加盟団体が一堂に会して作品やステージを発表する「みやぎ県民文化祭」をブロック毎の持ち回りで開催しています。

もう一つは、「文化協会運営研修会」で、各協会の事例報告や意見交換のほか、協会が抱える課題や目標などを話し合い、交流を図っています。

令和二年度については、新型コロナウイルス感染症の影響

により二つの事業を中止としましたが、文化の灯を消さぬよう、国・県の動向等を踏まえた活動方法を模索しています。

（会長 鈴木 敬一）

公益社団法人日本舞踊協会宮城県支部

⑪ 〒九八一—〇一一二 宮城郡利府町利府字八幡崎一〇八

（水木歌泰方）

⑫ 〇二二—三五六—二三三九（水木歌泰方）

⑬ 支部長 水木 歌泰

⑭ 二百十名

⑮ 公益社団法人日本舞踊協会会員であるとともに宮城県支部会員（扇の会会員含む）、師範名取・普通名取である

こと

こと

⑯ 昭和三十五年十一月

開催月日 催事名 場所

12/6 （公社）日本舞踊協会宮城県支部

歳末たすけ合い

第五十八回各流舞踊大会

（中止）

宮城県支部に加盟している各流派は、新型コロナウイルス感染症の影響でそれぞれ活動を中止した。

令和二年十二月六日開催の「歳末たすけ合い各流舞踊大会」は中止した。

隔年に行われる「各流舞踊公演」は延期し、令和四年四月二十四日に開催予定。

その他(公社) 日本舞踊協会本部の指示による事業への協力並びに県下、関連団体との連絡提携及び地域交流の親睦を深めることに努めている。

(庶務 吉村 花照)

宮城県吹奏楽連盟

所 千九八一—〇九〇四 仙台市青葉区旭ヶ丘三—三四—

一〇 キャピタル旭ヶ丘三〇二

電 〇二二—二七五—六七六一

代 会長 三塚 尚可

数 九千九百七十三名(三百四十四団体)

格 宮城県内の小学校、中学校、高等学校、大学、職場、一

般の吹奏楽団体

創 昭和三十三年

刊 すいそうがく(全日本吹奏楽連盟発行)(年四回発行)

HP 「宮城県吹奏楽連盟」 www.aijba.or.jp/miyagi/

Facebook 「楽器BANK 宮城県吹奏楽連盟」

開催月日 催事名 場所

1 / 18 全日本アンサンブルコンテスト 仙台銀行ホール

予選第五十三回宮城県大会 イズミティ21

2 / 22・23 第三十一回東北吹奏楽指 仙台銀行ホール

導者講習会 イズミティ21

3 / 14 第九回六十二万石吹奏楽祭

(中止)

5 / 16・17 第三十五回宮城県管打楽器

ソロコンテスト予選(中止)

6 / 7 第三十五回宮城県管打楽器

ソロコンテスト(中止)

7 / 30、8 / 2 全日本吹奏楽コンクール

第六十三回宮城県大会(中止)

9 / 19 第三十九回全日本小学校バンド

フェスティバル宮城県大会(中止)

第三十三回全日本マーチング

コンテスト宮城県大会(中止)

11 / 29 第二十七回みやぎスーパー

バンド演奏会(中止)

12 / 20 第四十二回東北吹奏楽の日

演奏会（中止）

令和二年は震災から十年目を迎え、復興に向けてこれまで以上に精力的に活動していこうと考えていたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、各種事業を中止せざるを得ない一年間となってしまった。

さらに、平成二十七年九月に宮城県合唱連盟、仙台オペラ協会他の方々とともに立ち上げた「二千席規模の音楽ホールを！市民会議」の活動も継続して行っているが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大によって建設計画の見通しが不透明となってしまった。

令和三年は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策を万全にし、各種事業を進められるよう努めていきたい。

今後の事業については「宮城県吹奏楽連盟ホームページ」と「Facebook 宮城県吹奏楽連盟」などインターネット等でも確認していただきたい。

（事務局長 菊地 憲昭）

宮城県合唱連盟

〒千九八〇—〇〇〇一 仙台市青葉区中江二丁目二四—五

（事務局 八巻輝子方）

④ ○九〇—二九五七—二九七五

④ 理事長 今井 邦男

④ 千八百名

④ 宮城県内の中学校・高等学校・大学・職場・一般の合唱

④ 団

④ 昭和二十四年五月

④ ハーモニ—（全日本合唱連盟発行）（年四回発行）

開催月日 催 事 名 場 所

1 / 13 第二十回男の合唱まつりinみやぎ 日立システムズホール仙台

第一部（コンサート）

第二部（懇親会）

2 / 1・2 第三十一回宮城県合唱

アンサンブルコンテスト 仙台市広瀬文化センター

審査員：井坂恵、吉川和夫、田中豊輝

5 / 31 第七十二回宮城県合唱祭

（中止）

7 / 31 8 / 2 宮城県合唱講習会（中止）

講師：伊東恵司

8 / 29・30 第七十二回全日本合唱コン

クール宮城県大会（中止）

審査員…浅井道子、伊東恵司、堀俊輔

例年開催される全日本おかあさんコーラス東北支部大会、全日本合唱コンクール東北支部大会・全国大会も中止となった。

(事務局長 八巻 輝子)

宮城県おかあさん合唱連盟

⑧ 千九八一―八〇〇三 仙台市泉区南光台二―二―二七
(事務局 塩川裕子方)

⑨ ○二二―二七―一〇九五六 (塩川裕子方)
理事長 今井 邦男

⑩ 六百六十八名

⑪ 宮城県内の当連盟に加入するおかあさん合唱団

⑫ 昭和四十八年十月

⑬ 機関紙「うたごころ」(年一回発行)

開催月日 催事名 場所

1/30 定例理事会

仙台市市民活動サポート
センター研修室2

2/13 定例理事会

東京エレクトロンホール宮城
601大会議室

令和二年度総会及び

東京エレクトロンホール宮城

第一回幹事会

601大会議室

8月 活動状況調査

新型コロナウイルス感染予防のためにどのような活動をしているのか、全国の活動状況調査を実施

9月 活動調査報告

調査結果を各団体へ報告

12/21 「うたごころ」第八十九号

発行

令和二年度の最初は理事会・総会はできたが、三月からは新型コロナウイルス感染予防のために理事会で集まることも止め、電話で連絡を取り合った。例年六月に開催する合唱祭や九月に行われる講習会をやめた。八月に行った活動状況の調査結果を見ると、練習をしている団は六十五パーセントだったが、人数や回数を減らしたりオンラインでやっている団などあり、各団とも工夫して感染防止に努めていた。コロナ禍に振りまわされた一年だった。

(事務局 塩川 裕子)

仙台三曲協会

⑧ 千九八二—〇〇二二 仙台市太白区長町南三一—八一—一

(渡辺悦子方)

⑨ 〇二二—二四七—八五二八 (渡辺悦子方)

⑩ 会長 渡辺 悦子

⑪ 六百三十五名

⑫ 協会所属の各流派会員で教授資格の有する者並びに日本音楽を愛好する者

⑬ 昭和三十年十月

⑭ 仙台三曲協会三十年史 (昭和六十二年九月発行)

⑮ 仙台三曲協会年史・続編一 (平成三年十一月発行)

⑯ 仙台三曲協会年史・続編二 (平成八年十一月発行)

⑰ 仙台三曲協会年史・続編三 (平成十三年十一月発行)

⑱ 創立五十周年記念仙台三曲協会年史

(平成十八年十一月発行)

⑲ 仙台三曲協会年史・続編五 (平成二十四年十一月発行)

開催月日 催事名

場所

1 / 10 三曲鑑賞・体験授業

仙台市立西多賀小学校

1 / 21 三曲鑑賞・体験授業

仙台市立原町小学校

1 / 28 三曲鑑賞・体験授業

仙台市立西中田小学校

1 / 28 三曲鑑賞・体験授業

仙台市立泉松陵小学校

1 / 29 三曲鑑賞・体験授業

仙台市立若林小学校

1 / 30 三曲鑑賞・体験授業

仙台市立榴岡小学校

2 / 18 三曲鑑賞・体験授業

仙台市立荒巻小学校

3 / 13 三曲鑑賞・体験授業

仙台市立鶴谷中学校

(仙台三曲協会理事 宮澤 寒山)

宮城県能楽振興協会

① 千九八一—八〇〇二 仙台市泉区南光台南三丁目二—一九

(鈴木敏彦方)

② 〇二二—二五二—一四七〇 (鈴木敏彦方)

③ 会長 鈴木 敏彦

④ 九百七十名

⑤ 謡曲・仕舞・囃子・狂言の指導者及びその指導者に師事している者

⑥ 昭和四十九年六月

開催月日 催事名

場所

2 / 10 碧水園能

3 / 1 第十六回 仙台市能楽振興

協会謡曲大会

6 / 1 登米狂言

6 / 8 碧水園観世流能

6 / 外国人向け能講座

〔金春流〕

9 / 14 登米秋まつり新能

9 / 21 第三十九回市民能楽講座

〔喜多流〕

10 / 第十一回 瑞鳳殿秋の能楽

11 / 令和二年 囃子と仕舞の会

11 / 9 第十一回 能への誘い

〔喜多流〕

12 / 外国人向け能講座

〔喜多流〕

○仙台市

一 令和二年の活動予定の事業は、新型コロナウイルス感染防

止のため、すべて中止となっていた。

二

能―BOXにおいて、能楽五流の講師による「能のわけこ体験講座」についても、開催の機会を伺っていたが、中止とせざるを得なかったようである。

三

仙台市能楽振興協会に登録している喜多流の仙台喜章会及び仙台寛松会が、文化庁の「令和二年度伝統文化親子教室事業」に挑戦し、十二月二十六日より三日間、仕舞と謡の教室を五回実施し、最後に発表会を行っていた。

○白石市

一 活動予定の「碧水園能」及び「碧水園観世流能」は、新型

二 コロナウイルス感染防止のため中止となっていた。

文化庁の伝統文化親子教室事業を活用し、「こどもの能楽教室」を実施していたが、参加者は少ない状況であった。

○登米市

一 例年実施している「登米狂言」及び「登米秋祭り新能」は

二 新型コロナウイルス感染防止のため中止となっていた。

十一月二日、三日の二日間、NHK「おかえりモネ」のり

ハ―サルとドラマ撮影が登米・森舞台で行われていた。
(会長 鈴木 敏彦)

宮城県洋舞団体連合会

⑧ 千九八九―六一一七 大崎市古川旭一丁目一三一〇

(佐東悦子方)

⑨ ○二二九―二二一八四八八(佐東悦子方)

⑩ 会長 佐東 悦子

⑪ 六団体

⑫ 宮城県内に在住し、洋舞活動をしている団体の主宰者及び指導者

⑬ 昭和四十五年十一月

⑭ 洋舞公演十年の歩み(昭和五十五年四月発行)

⑮ 洋舞公演二十年の歩み(平成三年三月発行)

⑯ 洋舞公演三十年の歩み(平成十二年十月発行)

⑰ 洋舞公演四十五年の歩み(平成二十八年三月発行)

開催月日 催 事 名

場 所

2 / 22

第十五回ダンスコンペティション 日立システムズホール仙台

2 / 23

in 仙台(クラシック部門) シアターホール

第十五回ダンスコンペティション 日立システムズホール仙台

in 仙台(モダンダンス部門) シアターホール

今年も第十五回コンペティションが無事に終わることが出

来ました。

その直後に新型コロナウイルスのため学校が休みになりました。当然各研究所も休みにいたしました。これから先の芸術祭参加洋舞公演について話し合い、色々意見が出ましたが、楽屋観客のことを考え、中止することに決定いたしました。毎年欠かさず公演をしてきたことで、残念ですが、来年に向けてがんばることを頭に入れ断念いたしました。

(副会長 千尋 洋子)

宮城県歌人協会

① 千九八一―〇九二三 仙台市青葉区東勝山三丁目一五―二九

(岡本勝方)

② ○二二―三九三―六一八七(岡本勝方)

③ 会長 岡本 勝

④ 団体加入 十五団体(二百七十五名)

⑤ 個人会員 二十五名

⑥ 宮城県内の短歌結社等の団体に所属する者、又は宮城県

内に在住し若しくは活動する歌人

⑦ 昭和二十四年四月

⑧ 宮城県歌人協会年報(年一回発行)

開催月日 催事名 場所

11/29 第三十一回宮城県短歌賞 東京エレクトロンホール宮城

授賞式・歌人の集い

当協会は、短歌を多くの方に楽しんでいただき、短歌を志す人達を支援するために、平成二十九年十月から「短歌教室」を開講しています。HPも開設しました。お問い合わせは当協会まで。

(会長 岡本 勝)

宮城県俳句協会

所 千九八五—〇〇七二 塩竈市小松崎二—一—九

(渡辺誠一郎方)

電 〇二二—三六七—一二六三 (渡辺誠一郎方)

代 会長 高野 ムツオ

数 三百二十二名

格 宮城県在住者及び出身者で、本会の目的に賛同する者

創 昭和二十九年六月

刊 宮城県俳句協会会報 (年三回発行)

開催月日 催事名 場所

1/13 新春賀詞交歓会 東京エレクトロンホール宮城

2/23 定時総会 (令和二年度) 東京エレクトロンホール宮城

4/29 第五十回宮城県俳句大会

当日大会中止

11/8 応募句のみの選考実施

第六十六回松島芭蕉祭・

全国大会

当日大会中止

応募句のみの選考実施

第四十四回宮城県俳句賞は、小田島 渚さん、準賞は大久

保 和子さん、佐藤 綾泉さんが受賞。

(幹事長 渡辺 誠一郎)

宮城県川柳連盟

所 千九八〇—〇〇一一 仙台市青葉区上杉二丁目四—八

朝日プラザ上杉六〇七 (川柳宮城野社内)

電 〇二二—二二七—〇五七五

代 理事長 雫石 隆子

⑥ 理事十八名・評議員二十一名

⑦ 加盟川柳吟社・句会（計二十三）の代表など

⑧ 昭和四十八年九月

⑨ 連盟会報（年一回発行）

⑩ 連盟川柳大会報（年一回発行）

開催月日 催事名

4 / 19 第四十七回宮城県白石川柳大会（誌上大会）

（事務局長 堀之内 稔夫）

宮城県詩人会

① 千九八〇—〇八〇一 仙台市青葉区木町通二—六—五三

あきはビル三階

② 〇二—三四—八六一〇

③ 会長 佐々木 洋一

④ 五十二名

⑤ 宮城県在住または出身者及びそれに準ずる者で、詩作品

の実作者及び研究者

⑥ 平成十七年三月

⑦ 宮城県詩人会会報（年二回発行）

⑧ アンソロジー『宮城の現代詩』（年一回発行）

団体紹介文

宮城県詩人会は平成十七年に発足して以来、詩に関係する者の交流・切磋琢磨する場となってきました。私自身は入会浅い新人会員ですが、コロナ前のポエトリーカフェでの熱気あふれる会員と市民の皆さんの交流は忘れられません。コロナで、このカフェや詩祭など交流行事は中止となり、今年は会報とアンソロジーの発行だけになりましたが、コロナ後を見据え、活動の質を上げるべく会員はそれぞれ原点に立ち返っているところです。

（理事長 汐海 治美）

一般社団法人宮城県華道連盟

① 千九八〇—〇二—四 宮城県仙台市青葉区本町一丁目

四—四十五 西村方

② 〇二—二一—〇八六〇 西村一観方

③ 理事長 朴澤 一堂

④ 二百四十八名

⑤ 池坊、小原流、古流松藤会、静月流、清泉古流、仙昇池坊、

道風流、本原遠州流、龍生派

⑥ 全九流派

⑦ 華道教授者（諸流派範）の資格を有し、門下を育成する者

◎ 昭和十二年三月

㊦ 会報 「はないづみ」 年一回発行

開催月日 催 事 名 場 所

講演会(中止)

12/24 福祉厚生 施設訪問 宮城県啓佑学園

新型コロナウイルス感染拡大に伴い事務局長
のみ訪問

〈いけばな展〉

1/18・19 清泉古流 塩釜支部創立 イオンタウン塩釜、
六十周年記念いけばな展 マリンプラザ

1/31と2/2 花と緑のココロ博 夢メッセみやぎ

2/22と25 (一社)宮城県華道連盟 せんだいメディアアテーク
第七十九回 春のいけばな展 5階a・b

宮城のいのり 春に咲けい

会員百四十名が前・後期に分かれ作品を出品。デモンストレー
ションも開催した。

10/10と13 公益社団法人宮城県芸術協会 せんだいメディアアテーク
宮城県芸術祭 華道展

芸術協会所属十二流派中七流派 二十二名が参加(うち連盟
所属四流派)

新型コロナウイルス感染拡大の影響で例年の三分の一以下の
出品者数に留まった。

1月から 宮城県庁 挿花 宮城県庁ロビー 他

12月 連盟所属の九流派が毎月

交代で担当

(事務局長 西村 一観)

宮城県民芸協会

㊦ 〒九八〇―〇八一― 仙台市青葉区一番町二丁目四―一〇

(光原社内)

㊦ ○二二―二三―六六七四(光原社方)

㊦ 会長 濱田 淑子

㊦ 五十一名

㊦ 昭和四十三年一月

㊦ 「民芸みやぎ」(年一回発行)

開催月日 催 事 名 場 所

2/1 新年会 東北福祉大学芹沢銈介美術工芸館

3/7 宮城県美術館「アイヌの 宮城県美術館
美しき手仕事展」見学

4 / 3 鳴子・小野寺公夫さん

漆工房見学(中止)

(事務局長 及川 陽一郎)

公益財団法人日本民謡協会宮城県連合会

所 千九八二―一〇二 仙台市太白区袋原六丁目七―二七

電 〇二二―二四一―八一七六

代 宮城県連合委員長 阿部 勝造

数 六百八名

格 公益財団法人日本民謡協会に入会していること

創 昭和二十五年六月二十四日

刊 公益財団法人日本民謡協会の会報(年六回発行)

(公益財団法人日本民謡協会参与 小野 春城)

全国民謡連盟宮城県連合会

所 千九八九―六一二二 大崎市古川桑針字谷地中一四

(及川政芳方)

電 〇二二九―二三―一〇九〇(及川政芳方)

代 会長 及川 政芳(桃城)

数 二百五十名

格 民謡の好きな方

創 昭和五十三年十月

刊 会報本部作成(年一回発行)

(本部連合会常務取締役 及川 政芳(桃城))

宮城県民謡道連合会

所 千九八〇―〇〇〇二 仙台市青葉区福沢町一―四三

電 〇二二―二三三―四四一一(事務局)

代 会長 衣川 喜仁

数 三十一名

格 民謡指導者・プロ伴奏者・プロ歌手・各会の会主

創 昭和五十五年七月

開催月日 催事名 場所

2 / 21 令和元年度定期総会 仙台市福沢市民センター

7 / 18 第三十七回さんさ時雨全国大会実行委員会

(第三十七回さんさ時雨)

全国大会開催について)

R3・1 第三十七回さんき時雨全国大会

(中止)

(事務局長 二代目 藤本 和夫)

宮城県写真連盟

⑨ 千九八三―〇八五二 仙台市宮城野区榴岡四丁目一―八

パルシティー一階(カラーデューブ内)

⑩ 〇二二―二五六―二一四一

⑪ 会長 永井 優

⑫ 二百十五名

⑬ 県写真展に参加し、会費を納入した方

⑭ 昭和五十四年四月

⑮ 会報 (年一回)

開催月日 催事名

場所

5/20 宮城県写真連盟総会

まるまつ成田店

6/5 役員会

まるまつ成田店

7/2 令和二年度宮城県写真展

南光台事務局

通知

10/20 令和二年度宮城県写真展

南光台コミュニティセンター内

公開審査

審査員 日本カメラ編集長

佐々木 秀人

12/1 令和二年度宮城県写真展

(中止)

12/7 入賞者・入選者に賞状・副賞を発送

副賞を発送

12/23 役員会 事務局長 高橋 潤一

R3/1 各後援団体へ事業報告発送 事務局

2/15 役員会 事務局 高橋 潤一

宮城県文化財友の会

① 千九八四―〇〇四二 仙台市若林区大和町一丁目一六―二三

(遠藤方)

② 〇二二―二三九―一三二四 (遠藤方)

③ 会長 遠藤 哲雄

④ 七十三名

⑤ 文化財保護に関心を持ち、文化財に関する認識を深めようとする者

⑥ 昭和三十九年八月

⑦ 宮城県文化財友の会だより (年四回発行)

開催月日 催事名

場 所

11 / 29

文化財公開研究会

仙台市宮城野区

J R 仙台駅東口く榴岡地 辻標、孝勝寺、正楽寺、

域の史跡や文化財の見学・ 林香院、善導寺、

研修（ガイド・東口ガイ 政岡墓所

ドライブボランティア「宮

城野さんぼみち」会員）

新型コロナウイルス感染拡大により、次の行事を中止しました。

総会、歴史散歩（山形県高島町、南陽市、涌谷町、石巻市、蔵王町、大河原町）

（会長 遠藤 哲雄）

宮城県における 文化行政の概要

消費生活・文化課、長寿社会政策課、障害福祉課、生涯学習課、文化財課、宮城県図書館、宮城県美術館、東北歴史博物館、(公財)宮城県文化振興財団、(公財)慶長遣欧使節船協会における令和二年度の概要を掲載。(一月から三月までに実施したものは令和三年に行われた。)

一 知事部局関連

(一) 消費生活・文化課

1 表彰

- 令和二年文化の日（教育文化功労）表彰受賞者
- 岩井 純 陶芸家
 - 後藤 喜久子（杵屋 和加喜久） 長唄教授
 - 穴戸 清孝 写真家
 - 庄司 けい子（庄司 恵子） 民謡歌手
 - 千葉 史子（花柳 雅好） 日本舞踊家
 - 畠山 信行 美術家
 - 丹野 久美子 舞台芸術家
 - 佐々木 洋一 詩人
 - 安住 英之 日本画家
 - 伊藤 弘子（伊藤 翠華） 華道教授

2 文化行政の基礎づくり

県民ロビーコンサートの開催

県庁舎を県民により開かれたものとし、文化の香り高い交流の場にするため、各月の第四水曜日に県民ロビーにおいてコンサートを開催した。

開催日	出演者
四月二十二日	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止
五月二十七日	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止
六月二十四日	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止
七月二十二日	つながりおんぷ (ピアノ、フルート、電子ピアノによる演奏)
八月 五日	田原 さえ(ピアノによるクラシック演奏) 女声合唱団フリュージェルあおば&トーンチャイムリリーベル (女声合唱とトーンチャイムによる演奏)
八月二十六日	コットン・シスターズ (琴、十七弦、三味線による演奏)
九月二十三日	仙台フィルハーモニー管弦楽団 (オーケストラによるクラシック演奏)
十月 十四日	高橋 慶匡(クラシックギターによる独奏)
十月二十八日	デュオ・フリーズ(鍵盤楽器による演奏)
十一月二十五日	ル・レーヴ(女声デュオ)
十二月二十三日	モア恵利子音楽ミニストリー (ピアノ弾き語り)
一月二十七日	

開催日	出演者
二月二十四日	田中 奏美（電子オルガンによる独奏）
三月二十四日	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

3 文化創造の風土づくり

トモシビ・プロジェクト

新型コロナウイルス感染症の影響により活動の自粛を余儀なくされた文化芸術活動の再開・継続を支援するとともに、県民が在宅で文化芸術に触れることができる機会を提供するため、Web上での動画配信事業を実施した。

募集期間 七月八日～八月七日

申請件数 百二十件（四百五人）

採択件数 六十九件（二百人）

みやぎ県民文化創造の祭典二〇二〇

みやぎらしい創造的な文化芸術圏の創出を目的として、平成九年度から開催。九月から十一月までを重点期間として、主催事業（十事業）、共催事業（九事業）及び協賛事業（二十一事業）を県内各地で開催した。

〈主催事業〉

①舞台ワークショップ

普段は演劇やダンスなどの舞台芸術に触れる機会の少ない方々に、体で表現する楽しみやコミュニケーションの大切さを実感していただきながら、舞台芸術に親しんでいたため、県内の劇団で活躍するアーティストなどを講師とした少人数・体験型のワークショップを開催した。

○名取市教育委員会

・ダンスミュージカル講座（名取が丘）

講師 伊勢千佳子

期間 七月十六日～十二月二十一日

会場 名取市文化会館（名取市）

・ダンスミュージカル講座（那智が丘）

講師 朝日陽子

期間 七月二十日～十二月二十一日

会場 名取市文化会館（名取市）

○公益財団法人仙台市市民文化事業団

・舞台スタッフ・ラボ2020

講師 石井忍 ほか

期間 八月十日～令和三年二月二十一日

会場 仙台市宮城野区文化センター（仙台市）

○えずこ芸術のまち創造実行委員会

・楠原竜也とダンスであそぼ!

講師 楠原竜也

期間 九月八日～九日

会場 大内小学校(丸森町)、館矢間小学校(丸森町)、

前川小学校(川崎町)

○公益社団法人落語協会仙台事務所

・「月の松島・in観瀾亭～中秋の名月落語会～」

講師 桂夏丸

期間 十月一日

会場 松島観瀾亭(松島町)

○多賀城市文化センター

・WAKU☆WAKU☆舞台スタッフ体験2020

講師 渡辺祥子、松崎太郎、梅内久仁生

期間 十二月五日～令和三年一月十七日

会場 多賀城市民会館(多賀城市)

②美術ワークショップ

県内で活躍する芸術家を講師に、ワークショップ等の少人数・体験型講習会を開催し、参加者自身が作品を製作・表現することを通じて、文化芸術活動への関心を高め、新たな美術愛好者層の拡大を図ることを目的として開催した。

◆市町村との共催事業

○蔵王町教育委員会

・加川広重アートプロジェクトvol.5 巨大絵画を描こう

講師 加川広重

期間 十月四日

会場 蔵王町ふるさと文化会館(蔵王町)

○公益財団法人登米文化振興財団

・令和2年度 絵画ワークショップ～油彩編～

講師 亀山陽逸、亀山武宏

期間 十月二十四日～十一月十五日

会場 登米祝祭劇場(登米市)

○塩竈市杉村惇美術館

・子ども探偵事務所指令20・マリオネットを作ろう

講師 吉田愛美

期間 十二月十九日

会場 塩竈市杉村惇美術館(塩竈市)

◆普及事業

・Coppa(木っ端)でカタチをつくろう

講師 佐野美里

期間 八月十八日

会場 角田市市民センター(角田市)

・カラフルなターポリンでミニトートバックをつくろう

講師 小野寺志乃

期間 八月二十二日、十一月一日

会場 岩沼れんがのおうち、岩沼市玉浦西災害公営住宅

宅（岩沼市）、仙台市荒井東復興公営住宅（仙

台市）、オンライン配信

・うちわをつくろう

講師 須田聡宏

期間 九月二十六日、十一月五日

会場 仙台市荒井東復興公営住宅（仙台市）、しおが

まパノラマ（塩竈市）

・キラリと光るリフレクターを身につけよう

講師 すがわらじゅんいち

期間 九月二十九日、十一月十四日

会場 子育て広場十府っ子（利府町）、塩竈市杉村惇

美術館（塩竈市）

・マイえんぴつをつくろう

講師 佐藤由太郎

期間 十一月十四日

会場 塩竈市杉村惇美術館（塩竈市）

・来訪神がやってくる

講師 パルコキノシタ

期間 令和三年一月三十日、二月五日

会場 松島町児童館（松島町）、横倉児童館（角田市）

・ホヤ売りの神様HOYAPPAIと幸せを呼ぶ巨大コー

ラムをつくってこわそう！

講師 太田美和

期間 令和三年二月二十七日

会場 塩竈市杉村惇美術館（塩竈市）

・反射材で防災バックをつくろう

講師 すがわらじゅんいち

期間 令和三年三月十四日、十五日

会場 トヨタカローラ宮城・苦竹本店（仙台市）

③音楽アウトリーチ

アーティストを講師に、生演奏を間近で体験できる少人数を対象としたアウトリーチを実施し、普段はなかなか触れることのできない楽器の面白さや音楽の魅力を伝え、音楽愛好者層の拡大を図った。

また、地域の公共ホール等で、講師による芸術性の高いコンサートを開催した。

◆市町村等との共同事業

○えぞこ芸術のまち創造実行委員会

・出演 荒川洋（フルート）、中川賢一（ピアノ）

期間 十月十二日、十三日

会場 角田小学校、北郷小学校（角田市）、

大平小学校（白石市）

○公益財団法人登米文化振興財団

・ 出演 松尾俊介（クラシックギター）

期間 十一月五日、六日

会場 錦織小学校、横山小学校、北方小学校、

生活介護事務所パルめぐみ（登米市）

○大郷町教育委員会

・ 出演 打藝集「傀」（和太鼓）

期間 十一月十二日、十三日

会場 大郷小学校（大郷町）

○多賀城市文化センター

・ 出演 山形交響楽団団員（三名）

期間 令和三年二月十六日～三月九日

会場 多賀城市文化センター（多賀城市）

◆普及事業

・ 出演 田原さえ、櫻井希、佐々木杜洋

期間 十一月二日

会場 高清水小学校（栗原市）

・ 出演 長谷川康、東歩美

期間 十一月六日

会場 宮野森小学校（東松島市）

・ 出演 仙台チェンバーアンサンブル

期間 十一月九日

会場 舘矢間小学校（丸森町）

・ 出演 渡辺千晶、池田緋紗子

期間 十一月二十日

会場 月見ヶ丘小学校（塩竈市）

・ 出演 大岩千華、伊部祥子

期間 十一月二十六日

会場 第一中学校（塩竈市）

・ 出演 マリンピア

期間 十一月二十七日

会場 米谷小学校（登米市）

・ 出演 杜の弦楽四重奏団

期間 十二月一日

会場 多賀城市子育てサポートセンターすくっぴーひろば（多賀城市）

・ 出演 トレシス

期間 十二月十一日

会場 青生小学校（美里町）

・ 出演 仙台木管五重奏団

期間 十二月十四日

会場 鹿折中学校（気仙沼市）

- ・ 出演 吉岡和広、宮地夏海、阿部玲子
期間 十二月十五日
会場 ゆりが丘小学校（名取市）
- ・ 出演 杜の弦楽四重奏団
期間 十二月二十二日
会場 志津川中学校（南三陸町）
- ・ 出演 高見秀太郎、鈴木真衣、千葉展子
期間 十二月二十五日
会場 ゆりが丘児童センター（名取市）
- ・ 出演 仙台チェンバーアンサンブル
期間 令和三年一月六日
会場 大郷町保健センター（大郷町）
- ・ 出演 木村麻衣子、阿部玲子
期間 令和三年一月十四日
会場 広淵小学校（石巻市）
- ・ 出演 田原さえ、櫻井希、佐々木杜洋
期間 令和三年一月二十五日
会場 鳴瀬桜華小学校（東松島市）
- ・ 出演 長谷川康、東歩美
期間 令和三年一月二十七日
会場 新城小学校（気仙沼市）
- ・ 出演 仙台サクソフォン四重奏

- 期間 令和三年一月二十九日
会場 賀美石小学校（加美町）
- ・ 出演 仙台チェンバーアンサンブル
期間 令和三年二月一日
会場 名取市相互台児童センター（名取市）
- ・ 出演 渡辺文江
期間 令和三年二月二十二日
会場 増田西小学校（名取市）

④ みやぎ芸術銀河作品展

令和二年度宮城県芸術選奨の受賞者の作品等を一堂に会し、受賞者の作品やこれまでの活動などを紹介し、芸術をより身近に感じられる機会を提供した。

- 期間 令和三年一月十八日～二十四日
会場 東京エレクトロンホール宮城五〇一・五〇二 展示室

⑤ 若手芸術家育成事業

県内高校生の文化芸術に係る表現力を育み、強化するとともに、宮城県の文化芸術の振興・発展に寄与することを目的に、講習会等を開催し、参加者同士の交流を深め、表現力等の向上を図った。

共催 宮城県高等学校文化連盟

期日 九月～十二月

会場 宮城県内各地

⑥地域文化発信支援事業（地域芸能アウトリーチ）

高齢化等の様々な理由により課題を抱えている地域芸能の再興支援を図り、人と地域をつなぐコミュニティの再生に寄与することを目的に、山元町立坂元小学校の児童を対象に教則映像を企画・制作した。

実施主体 縦系横系合同会社

期日 九月～令和三年三月

場所 山元町

⑦こどものための舞台芸術見本市

県内の子どもたちや、学校・保育所等の施設職員に対し、舞台芸術及びアウトリーチ活動の推進を図ることを目的に、オンラインを活用した舞台芸術アウトリーチやアウトリーチ活動の説明相談会を実施した。

実施主体 A R C T（アルクト）

期日 三月

場所 仙台市

⑧新型コロナウイルス対策事業（芸術銀河・動画配信スター

トアップ支援事業「トモシビ＋（プラス）」

コロナ禍における公演活動の新しい収益確保の手段や鑑賞スタイルを確立するため、音楽コンサートや演劇公演等の映像撮影・配信に係る経費の一部を支援した。

募集期間 令和三年一月四日～十八日

申請件数 八件

採択件数 五件

4 文化活動の促進

(1) 令和二年度宮城県芸術選奨の顕彰

授賞式 十二月二日 宮城県行政庁舎十一階

第二会議室

(2) 文化芸術関係行事の後援、知事賞の贈呈等

後援行事 百二十四件

知事賞交付 二十五件 四十点

(3) 文化事業への助成

県内文化団体事業への補助（公財）（仙台フィルハー

モニー管弦楽団ほか）

(4) 文化振興基金の造成

民間と行政が一体となって文化活動の助成を図るため、文化振興基金を設置し、昭和六十二年度から基金

の造成を図っている。

(5) 宮城県芸術年鑑の発行

(二) 長寿社会政策課

第二十八回宮城シニア美術展

高齢者の創作による作品（日本画・洋画・書・写真・工芸）の募集・展示を通して、高齢者の文化活動を促し、ふれあいと生きがいづくりを促進するとともに、第三十四回全国健康福祉祭神奈川・横浜・川崎・相模原大会（ねんりんピックかながわ2022）への宮城県代表作品として選考することを目的に開催した。

出品 百八十九点

期日 九月三日～九月六日

会場 宮城県美術館 県民ギャラリー

主催 社会福祉法人宮城県社会福祉協議会

共催 宮城県・公益財団法人宮城県老人クラブ連合会

(三) 障害福祉課

1 とっておきの音楽祭

障害の有無に関わらず参加できる音楽祭が開催された。FMラジオ及びYouTubeにより配信し、延べ九十六団体が参加した。

開催日 六月七日

放送局 ラジオ3（仙台市青葉区）ほかコミュニティ

FM五局

主催 NPO法人とっておきの音楽祭

2 表彰

(1) 「第二十四回ピュア・ハーツアート展」（仙台市知的障害者芸術文化協会主催）の最優秀作品を「宮城県知事賞」として表彰を行った。（令和三年二月五日）

○ 鑄鍋康太（絵画）

(2) 「第六回 Art to You! 東北障がい者芸術全国公募展」（公益社団法人東北障がい者芸術支援機構主催）の入賞作品のうち一点を「宮城県知事賞」として表彰を行った。（十一月八日）

○ 田代智也（工芸）

3 障害者による芸術文化活動の支援

令和二年度宮城県障害者芸術文化活動支援事業

県内障害者の芸術文化活動の振興を図ることを目的に、宮城県障害者芸術文化活動支援センターを設置し、以下の事業を実施した。

(1) 相談・支援

芸術活動を行う障害者本人や家族、支援者等からの相談に応じ、支援を行った。

(2) 障害者芸術文化活動を支援する人材の育成支援

芸術文化活動の支援方法、著作権等の権利保護、障害特性への理解等に関する研修等をオンラインで行った。

①十一月十三日 「働き方と生き方を創り出す工場 長崎・MINATOMACHI FACTORY（ミナトマチファクトリー）にみる、障害のある人たちの表現と仕事づくり

②十一月十九日 「みんなの『生きる』をうけとめる。埼玉・工房集にみる、重度の障害のある人たちと表現活動」

③十一月三十日 「生き方はひとつじゃないぜ！京都・Swingsスウィングにみる、市民活動としてのアーティストペース」

(3) オンラインイベント開催

第三回 障害のある人と芸術文化活動に関する大見本市 「きいて、みて、しって、オンライン見本市。」

期日 令和三年二月七日～二月九日

YouTube及びZoomによるオンライン配信

二 教育委員会関連

(一) 生涯学習課

1 表彰

令和二年度地域文化功労者文部科学大臣表彰受賞者

○有賀 華醇Ⅱ芸術文化（華道）（仙台市）

○関谷 勝雄Ⅱ文化財保護（大衡村）

○佐藤 淳Ⅱ芸術文化（彫刻）（仙台市）

2 文化芸術の振興

(1) 第五十七回宮城県芸術祭

（公社）宮城県芸術協会・宮城県・仙台市・宮城県教育委員会・仙台市教育委員会・河北新報社・（公財）宮城県文化振興財団（公財）仙台市市民文化事業団の八者が共催
九月二十六日～令和三年三月二十一日（せんだいメディアアテーク外）

書道、工芸、絵画、写真、華道、彫刻等の展示及び音楽コンクールが行われた。

（詳細は「広域文化団体の文化活動記録―（公社）宮城県芸術協会」に掲載。）

(2) 宮城県高等学校文化連盟事業

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、令和二年四月から七月末まで本連盟の事業を中止。以下、▲は当初の予定を変更したことを表す。

① 第二十七回宮城県高等学校総合文化祭

テーマ「一等星と未来への灯火（ともしび）」

ア 総合開会式〔式典・ステージ部門・展示部門〕

十月二十四日～二十五日（トークネットホール仙台）

▲中止

イ 部門別開催

○合唱〔第六回みやぎ高校合唱祭〕十一月一日（名

取市文化会館中ホール）▲中止

○英語〔第七十三回宮城県高等学校英語弁論大会〕

九月三日（聖ドミニコ学院高等学校）▲ビデオ審査を十月九日実施

〔第六十七回宮城県高等学校英作文コンクール〕

十月三十日（仙台高等学校）

○吹奏楽〔第六回みやぎ高校吹奏楽祭〕十月三日（多

賀城市文化センター）▲中止

○演劇〔第五十八回宮城県高等学校演劇コンクール

地区大会・中央大会〕十月八日～二十五日・十一

月十一日～十五日（広瀬文化センター、県内各地

区会場）

○囲碁〔第二十一回宮城県高校囲碁九路盤大会〕十

月十一日（仙台第二高等学校）

○小倉百人一首かるた〔第二十九回宮城県高等学校

小倉百人一首かるた大会〕十月八日（志波彦神社

鹽竈神社）▲中止

○新聞〔第七回宮城県高等学校新聞コンクール〕一

月二十九日（古川学園高等学校※配信会場）▲オ

ンライン実施

○郷土芸能〔第七回宮城県高等学校郷土芸能大会〕

十一月五日（名取市文化会館）▲十一月十九日実

施

○器楽・管弦楽〔第四十三回宮城県高等学校音楽祭〕

十二月二十二日（若林区文化センター）

○文芸〔第二十七回県高総文芸祭文芸部門交流会・研

修会〕

十月二十七日（トークネットホール仙台小ホール）

○放送〔第三十九回宮城県高等学校放送コンテスト

新人大会〕十月二十四日～十一月十一日（多賀城

市文化センター、他）▲アナウンス及び朗読部門

予選はCD提出による非公開審査

○ダンス〔第二十八回宮城県高等学校ダンスフェス

ティバル〕十月十九日～二十一日（広瀬文化セン

ター) ▲無観客で実施

○工業〔第二十九回宮城県高等学校生徒徒活動成果発表会〕十一月十四日(白石工業高等学校)

○日本音楽〔第二十九回宮城県高等学校日本音楽定期演奏会〕十一月五日(多賀城市文化センター)

▲一般客を入れずに実施

○写真〔第二十七回宮城県高等学校写真展〕十一月四日～八日(宮城県美術館県民ギャラリー) ▲内容を一部変更して実施

○自然科学〔第七十三回宮城県高等学校生徒理科研究発表会〕十一月十日(東北大学大学院工学研究科) ▲物理、化学、生物、地学、四つの会場に分かれて、ポスター発表及び審査を実施

○軽音楽〔第十七回宮城県高等学校対抗バンド合戦新人大会〕十一月七日(デジタルアーツ仙台) ▲無観客、入れ替え制で実施

○将棋〔第三十七回宮城県高等学校将棋新人戦〕十一月一日(仙台第一高等学校) ▲個人戦のみ実施、男子は前年度新人戦A級上位四名及び各学校一名のみの参加、スイス式トーナメント戦からトーナメント戦に変更

○書道〔第六十九回宮城県高等学校書道展覧会〕

十二月八日～十三日(宮城県美術館県民ギャラリー) ▲一月十五日に作品集を発行し、誌上展として開催

○弁論〔第七回宮城県高等学校弁論大会兼第二回吉野作造記念高校生弁論大会〕十二月十一日(吉野作造記念館) ▲入場者を関係者に限定して実施

○商業(プログラミング研修会)十二月二十五日(東京IT会計専門学校仙台校)

○美術・工芸〔第七十三回宮城県高等学校美術展〕一月二十七日～三十一日(宮城県美術館県民ギャラリー) ▲一月二十八日から開催、入場制限あり、授賞式・講評会は中止

② 第四十四回全国高等学校総合文化祭高知大会

七月三十一日～八月六日(高知県十三市町村)

▲内容をオンラインによる開催「WEB S O U B U N」に変更し、七月三十一日～十月三十一日まで公開

本県からは次の十六部門に生徒二百十四名、作品二十八名が参加(演劇、吹奏楽、器楽・管弦楽、日本音楽、吟詠剣詩舞、郷土芸能、マーチング・パトントワリング、美術・工芸、書道、写真、放送、弁論、新

聞、文芸、自然科学、軽音楽)

③ 専門部事業

- ア 演劇〔第三十一回宮城県高等学校演劇リーダー研修会〕七月十八日～十九日(宮城野区文化センター) ▲中止、〔第二十九回宮城県高等学校演劇総合研修会〕七月二十三日～二十四日(宮城野区文化センター) ▲中止
- イ 合唱〔第七十二回宮城県合唱祭〕五月三十一日(多賀城市文化センター 中ホール) ▲中止、〔令和二年度第一回発声講習会〕五月二十三日(名取市文化会館) ▲中止、〔合唱講習会〕八月三日～五日(常盤木学園シユトラウスホール、若林区文化センター) ▲中止、〔第八十七回NHK全国学校音楽コンクール宮城県大会〕八月二十三日(多賀城市文化センター 大ホール) ▲中止、〔第七十二回全日本合唱コンクール宮城県大会〕八月二十九日(名取市文化会館 大ホール) ▲中止、〔令和二年度第二回発声講習会〕十月十一日(名取市文化会館 中ホール) ▲中止、〔第三十二回宮城県合唱アンサンブルコンテスト〕十二月十九日～二十日(若林区文化センター 大ホール) ▲無観客で実施、〔令和二年度パト別発声講習会〕一月十日(仙台三桜高等学校) ▲中止

ウ 吹奏楽〔全日本吹奏楽コンクール第六十三回宮城県大会〕七月三十日(仙台銀行ホールイブズミティ

- 21) ▲中止、〔第九回高校生のための吹奏楽部運営講座〕十一月一日(仙台第三高等学校) ▲中止、〔第四十二回東北吹奏楽の日演奏会〕十二月二十日(東京エレクトロンホール宮城) ▲中止、〔全日本アンサンブルコンテスト第五十四回宮城県大会〕一月十日(仙台銀行ホールイブズミティ21)

エ 器楽・管弦楽〔マンドリン合奏講習会〕九月二十六日(東松島市コミュニティセンター)、〔ギター合奏講習会〕十一月七日(聖和学園高等学校)、〔管弦楽楽器別講習会〕十月二十五日(尚綱学院中学高等学校)

オ 美術・工芸〔各地区美術展(仙南、仙台、泉、黒川、塩釜、大崎、登米・栗原、石巻、本吉)〕仙台地区七月十五日～十九日(宮城県美術館県民ギャラリー) カ 放送〔2020年度春季校内放送研修会〕▲中止、〔第六十七回NHK杯全国高校放送コンテスト宮城県大会〕六月十三日～十九日(日立システムズホール仙台 他) ▲中止、〔2020年度夏季校内放送研修会〕八月十一日(仙台商業高等学校)、〔2020年度冬季校内放送研修会〕一月二十三日(仙台二華

高等学校) ▲中止

キ 囲碁〔第四十四回文部科学大臣杯全国高校囲碁選手権大会宮城県大会〕七月二十三日～二十四日(仙台第二高等学校) ▲団体戦を除いて実施、〔第三十八回宮城県高校囲碁新人大会〕一月三十一日(仙台第二高等学校) ▲中止

ク 将棋〔第五十六回全国高校将棋選手権宮城県予選大会〕五月下旬(仙台第一高等学校) ▲中止、〔第三十三回全国高校将棋竜王戦宮城県予選〕七月上旬(仙台第一高等学校) ▲中止

ケ 自然科学〔第一回生徒研修会〕七月五日(太白区文化センター) ▲中止、〔第二回生徒研修会兼全国高総文祭最終選考会〕十二月二十五日(仙台銀行ホールイブミティ21)

コ 写真〔第二十九回写真技術講習会〕七月四日～五日(仙台工業高等学校) ▲中止、〔第十七回写真部夏季写真撮影大会〕八月十日～十二日(戦災復興記念館、仙台市民会館) ▲内容を一部変更して実施、〔写真部冬季写真撮影大会〕一月九日、二月二十七日(桜坂高等学校) ▲大会を研修会に変え、オンライン実施

サ 小倉百人一首かるた〔第四十四回全国高総文祭

小倉百人一首かるた部門宮城県予選) ▲中止、〔第四十二回全国高等学校小倉百人一首かるた選手権大会宮城県予選) ▲中止、〔第十三回東北・北海道高等学校かるた選手権大会〕七月四日(志波彦神社鹽竈神社) ▲中止、〔強化練習交流会〕七月中旬 ▲中止

シ 日本音楽(令和二年度日本音楽研修会)十一月五日(多賀城市文化センター) ▲一般客を入れずに実施

ス ダンス〔全日本高校・大学ダンスフェスティバル〕八月七日～十日(神戸文化ホール) ▲中止、〔ダンス技術リーダー講習会〕 ▲中止

セ 軽音楽〔第二十六回宮城県高等学校対抗バンド合戦〕七月二十三日(デジタルアーツ仙台) ▲中止、〔ハイスクールプレミアアマライブ2020〕八月五日(仙台PIT) ▲中止、〔第六回宮城県高等学校対抗バンド合戦一年生大会〕十二月二十日(デジタルアーツ仙台) ▲無観客、入替制で実施、〔北部地区技術講習会〕(古川黎明高等学校) ▲中止、〔生徒技術講習会〕一月 ▲中止、〔顧問技術講習会〕二月八日(ROCK ON Music School本町教室) ▲オンライン開催

ソ 文芸〔新人研修会〕一月三十日（各参加校）▲オンラインで参加校を中継、〔第十七回高校生文芸作品コンクール〕八月二十一日必着

タ マーチングバンド・バトントワリング〔基礎技能講習会〕▲中止、〔第三十三回全日本マーチングコンテスト宮城県大会〕九月十九日（カメイアリーナ仙台）▲中止、〔第三十九回マーチングバンド・バトントワリング宮城県大会〕九月二十六日（セキスイハイムスーパーアリーナ）▲中止、〔マーチング講習会〕▲中止

チ 新聞〔前期研修会〕七月十一日（工業高等学校）▲中止、〔後期研修会〕十二月二十五日（石巻高等学校※配信会場）▲オンライン実施

ツ 吟詠剣詩舞〔強化練習会〕九月十九日・二十日・三十日、十月三日・十日（古川黎明高等学校）

④ 支部事業

ア 仙台北・仙台南（合同）〔文化事業助成〕八月七日一次締切、〔広報誌『にしき木』第二十九号発行〕二月十八日

イ 仙南〔第二十六回仙南支部高等学校総合文化祭〕十月九日～二十五日（えずこホール、白石市中央公民館）▲音楽・郷土芸能は一般客を入れずに実施、

茶道は研修会に変更、軽音楽は中止、〔専門部研修会〕十月～冬季休業中（専門部毎各会場）▲写真はオンライン実施、美術・書道・軽音楽・演劇・郷土芸能は中止

ウ 大崎〔第四十九回古川管内高校演劇祭〕▲中止、〔令和二年度古川管内高等学校美術クラブ連合展〕▲中止、〔第二十八回大崎支部総合文化祭〕十月十日（美里町文化会館、美里町中央コミュニティセンター、美里町近代文学館）▲中止、〔令和二年度アンサンブルコンテスト大崎地区大会〕十二月十二日（大崎市岩出山文化会館）▲無観客で実施、〔第十六回大崎吹奏楽祭〕▲中止

エ 東部〔第三回東部地区高等学校美術展〕七月中旬（松島町文化観光交流館）▲中止、〔第三回東部支部総合文化祭〕十月十四日～十一月十二日（塩竈市民交流センター、こもれびの降る丘遊楽館）▲演劇は規模を縮小して実施、合同音楽会は一般客を入れずに実施、華道・美術・書道・写真・合同開会式は中止

オ 栗原・登米〔第二十七回栗原・登米支部総合文化祭〕六月二十七日～二十八日（栗原市若柳総合文化センタードリームパル）▲中止

カ 本吉〔第十五回本吉支部総合文化祭〕七月四日、

五日（気仙沼市はまなすホール、本吉公民館）▲中

止、〔第五十八回気仙沼・本吉地区高等学校美術展「け
せもい展」〕九月九日～十三日（リアス・アーク美

術館）、〔第二十八回気仙沼・本吉地区生徒科学発表

会〕十二月（本吉響高等学校）▲中止、〔本吉支部

写真展示会〕二月（気仙沼中央自動車学校）▲中止

⑤ 定通部事業

〔第四十八回宮城県高等学校定時制通信制生徒の

集い〕九月五日（各校）▲オンライン交流会に変更、

〔第六十七回全国高等学校定時制通信制生徒生活

体験発表宮城県大会〕九月二十六日（仙台大志高等

学校）▲事前に提出された作文を審査

⑥ その他

〔機関紙『高文連ニュース第三十号』発行〕十月

二日▲内容を変更して二月一日発行

〔宮城県高等学校文化連盟PR事業〕十月十二日

～二十三日（県庁一階ロビー・二階回廊）

〔令和二年度宮城県高等学校文化連盟賞表彰式〕

二月十日（ホテル白萩）

〔年間集録『みやぎ高文連年報二十九号』刊行〕

三月十二日

(3) 文化庁事業

① 文化芸術による子供育成総合事業（巡回公演事業）

七月 二日 利府町立しらかし台中学校（伝統芸能）

中止

九月 十七日 美里町立南郷小学校（演劇）

九月 十七日 名取市立高館小学校（大衆芸能）

十月 二十日 東松島市立鳴瀬桜華小学校（ミュージカル）

十月 二十一日 学校法人古川学園古川学園中学校（大衆芸能）

十月 二十二日 利府町立青山小学校（ミュージカル）

中止

十月 二十三日 登米市立佐沼小学校（演劇）

十月 二十七日 美里町立北浦小学校（演劇）

中止

十月 二十九日 気仙沼市立新月中学校（演劇）

中止

十月 三十日 村田町立村田第二中学校（演劇）

中止

十一月 五日 亘理町立亘理小学校（ミュージカル）

中止

十一月 十六日 気仙沼市立九条小学校（演劇）

中止

- 十一月 十七日 村田町立村田第一中学校 (伝統芸能)
- 十一月 十八日 気仙沼市立面瀬中学校 (伝統芸能)
- 十一月 十八日 美里町立小牛田小学校 (演劇)
- 中止
- 十一月 十九日 柴田町立西住小学校 (演劇)
- 中止
- 十一月 二十日 角田市立西根小学校 (演劇)
- 中止
- 十二月 一日 大崎市立古川西中学校 (オーケストラ)
- 中止
- 十二月 一日 塩竈市立第二中学校 (舞踊)
- 十二月 二日 大崎市立鹿島台中学校 (オーケストラ)
- 十二月 二日 大崎市立鳴子小学校 (舞踊)
- 十二月 十日 登米市立宝江小学校 (大衆芸能)
- ② 文化芸術による子供の育成事業(芸術家の派遣事業)
- 七月 十六日 宮城県田尻さくら高等学校 (大衆芸能)
- 九月 四日 宮城県白石高等学校七ヶ宿校 (洋楽)
- 十月 一日 気仙沼市立津谷中学校 (洋楽)
- 十月 八日 宮城県田尻さくら高等学校 (洋楽)
- 宮城県東松島高等学校 (演劇)
- 中止
- 十月 三十日 石巻市立須江小学校 (生活文化)
- 十一月 四日 宮城県立支援学校小牛田高等学校園 (邦楽)
- 中止
- 十一月 五日 大崎市立岩出山小学校 (邦楽)
- 十一月 六日 大崎市立敷玉小学校 (邦楽)
- 十二月 三日 宮城県田尻さくら高等学校 (演劇)
- 十二月 十七日 角田市立枝野小学校 (邦楽)
- 大崎市立大貫小学校
- 中止
- 十二月 十八日 塩竈市立玉川中学校 (書)
- 加美町立宮崎中学校
- 中止
- 塩竈市立浦戸小学校 (演劇)
- ③ 文化芸術による子供の育成事業(子供 夢・アート・アカデミー)
- 十二月十九日 宮城県名取高等学校
- 堤 剛 (音楽)
- ④ 文化芸術による子供の育成事業(芸術家の派遣事業)

〔東日本大震災復興支援対応〕

「次代を担う子どもの文化芸術体験事業」みやぎ実行委員会が委託を受けて、県内六十六会場（中止事業を含まず）に講師を派遣して事業を実施

(4) 宮城県巡回小劇場

① 音楽：宮城県教育委員会、開催市町村教育委員会、

（公財）日本青少年文化センターと共催

十月二十六日～三十日（七会場）

『LET'S Swing ～ブラックボトムプラスバンド』

鑑賞者数千人

新型コロナウイルス感染症の影響で二公演中止

② 演劇：宮城県教育委員会、開催市町村教育委員会、

（公社）日本児童演劇協会との共催

九月十四日～十月二十日（県内五会場）

プログラム

『角』

（小学生用）劇団 芸優座

鑑賞者数 五百十人

新型コロナウイルス感染症の影響で五公演中止

『ベニスの商人』

（中学生用）劇団 芸優座

鑑賞者数 二百六十三人

(5) 青少年劇場小公演

開催市町村教育委員会、（公財）日本青少年文化センターの共催により、地域の児童生徒に優れた生の芸術を鑑賞する機会を提供した。

五月二十八日～十月十六日（三十八公演）

『となりの国の打楽器と踊り』…イ・チュヒ、チャ・チャンボ

『三味線いろいろ』…上原潤之助、新田昌弘

『話の伝統芸能 落語』…桂 米多朗、柳家禽太夫

『ヴァイオリンとチェロのコンサート』…鍵富弦太郎

鑑賞者数 四千百三十七人

(6) 宮城県地方音楽会：開催市町村教育委員会と共催

① アンサンブル公演（令和二年度は無し）

② オーケストラ公演

二月七日 気仙沼市民会館

十二月十三日 大和町まほろばホール

令和三年二月六日 七ヶ浜国際村

(7) 優秀映画鑑賞推進事業：文化庁、国立映画アーカイブ、

開催町と共催

九月二十七日

加美町中新田文化会館 中新田バツハホール

(8) 国民文化祭派遣事業…宮崎県

令和三年度に延期し、わかやま大会と時期をずらして実施

(9) 地方青年文化祭

県内青年の文化活動の促進、青年相互の交流、地域文化の振興を目指すもの。(令和二年十一月～令和三年二月、各教育事務所毎、県内四地区、三地区中止)

(10) 第六十八回宮城県青年文化祭

令和三年二月二十八日(動画配信)

合唱一、舞台発表七、以上八団体二十六名の出場参加数であった。動画視聴回数は延べ七十六回であった。動画配信のみの開催としたため、受賞等は行わなかった。

生活文化展 優秀賞 「お皿」武田大地

(11) 第六十九回全国青年大会(中止)

(二) 宮城県図書館

情報拠点としての図書館の機能を強化し、県民のより充実した生涯学習を支援するため、各種の展示や講座、子どもの本の移動展示会等多様な活動を展開している。

1 展示

(1) 常設展

「本と人の文化史 ―アジア・日本を中心に―」

(2) 企画展

① 「東日本大震災文庫展X 1:17と3:11―ふたつの震災がもたらした変化とこれからのを考える―」

三月七日～七月十二日

② 「市町村図書館展 宮城県内の図書館・図書室の輪」

八月一日～十一月二十二日

③ 「公文書館企画展 空襲・占領・復興―太平洋戦争と戦災復興の記録―」

宮城県公文書館による展示

十一月二十八日～令和三年二月二十一日

④ 「東日本大震災文庫展XI あの日はいつもどおりのはずだった」

令和三年二月二十七日～五月三十日

⑤ 修復完了記念展示「仙台府学養賢堂図」

令和三年二月二十七日～三月二十六日

(3) 子どもの本展示会

新型コロナウイルス感染症の影響により開催せず

子どもの本移動展示会

・県内市町村図書館・公民館 十三会場

入場 四千百三人

・県内小中学校・特別支援学校 二十五会場

入場 六千四百七十一人

(4) 一般図書・児童視聴覚・資料情報・震災文庫各フロア

での季節・催事等に関する資料展示

四月～令和三年三月

開催回数 七十八回

(5) 情報エントランス(外部機関・団体によるパネル等展示)

四月～令和三年三月

開催回数 十機関・団体 十八回

2 講座・講演会等

(1) みやぎ県民大学専門施設開放講座

動画配信による開催

令和三年一月三十日～三月五日

「宮城と戦争の歴史を振り返る」

① 「古代蝦夷と律令国家の戦い」

講師 東北歴史博物館 技師(学芸員) 相澤 秀太郎

② 「戊辰戦争と仙台藩」

講師 仙台市博物館 学芸企画室 中武 敏彦

③ 「メディアから読み取る宮城と戦争」

講師 宮城県図書館 資料奉仕部長 根岸 一成

(2) ビブリオバトル

令和三年一月三十日

参加者 バトラー 四人

(3) ベガ号天体観望会

令和二年八月五日

参加者 二十二人

3 各種上映会(ビデオ・DVD・LD・16ミリ)

新型コロナウイルス感染症の影響により開催せず

(1) 上映会

新型コロナウイルス感染症の影響により開催せず

(2) こども映画会

新型コロナウイルス感染症の影響により開催せず

(3) 懐かしの16ミリ映画フィルム上映会

新型コロナウイルス感染症の影響により開催せず

(4) ボランティアによる16ミリ映画フィルム上映会

- (5) 新型コロナウイルス感染症の影響により開催せず
出前による16ミリ映画フィルム上映会
新型コロナウイルス感染症の影響により開催せず

4 おはなし会

九月～令和三年三月

第三木曜日、第一～第四金曜日、毎週土曜日・

日曜日 実施

実施団体 五団体

5 親子新聞スクラップ道場

令和二年十一月七日

参加組数 五組 十二名

6 複製資料貸出

栗原市立図書館、名取高等学校校外十一会場 二十九点

(三) 宮城県美術館

様々な美術文化活動に積極的に参加できる多角的機能を備えた場、また、美術と関わりの深い表現領域にも接することのできる施設として、展覧会（常設展・特別展）や、多くの講演会・各種の講座等多彩な鑑賞・創作普及活動を積極的に

展開している。

※は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、計画変更となったもの。

1 常設展

本館では、所蔵作品による展示を三ヶ月単位で入れ替え、特色ある展示を行い、収蔵作品等を用いて特集展示を開催した。また、毎月、美術館学芸員がギャラリー・トークを行った。佐藤忠良記念館では、佐藤忠良の彫刻・素描や他の作家の絵本原画などを三ヶ月単位で入れ替え、テーマ展示を行った。

(1) 特集「太田聴雨」

四月八日～七月五日

※四月十一日～五月十七日は臨時休館

(2) 特集「大宮政郎」

七月八日～九月十三日

(3) 特集「長谷川澁二郎」

九月十六日～一月十二日

(4) 特集「大泉茂基」

二月九日～四月十一日

◎地震の影響による設備点検のため二月十四日以降は臨時休館

2 特別展

- (1) 「ウィリアム・モリス 原風景でたどるデザインの軌跡」
五月十八日～六月二十八日
※会期を変更して開催
鑑賞者数 二万五千五百六十九人
講演会 四月十一日、五月二日 ※中止
まちなか美術講座 五月三十日 ※中止
展示解説 四月十八日、五月十六日、六月六日
※中止
- (2) 「ヨーロッパの宝石箱 リヒテンシュタイン侯爵家の至宝展」
七月十四日～九月六日
鑑賞者数 二万六千九百三人
講演会 七月十四日 ※中止
まちなか美術講座 八月二十二日 ※中止
展示解説 八月一日、二十二日、二十九日
「東日本大震災復興祈念 東山魁夷 唐招提寺御影堂障壁画展」
九月十九日～十一月一日
鑑賞者数 四万一千五百九十六人
まちなか美術講座 十月三日 ※中止
講演会 十月二十四日

展示解説 九月二十二日、十月三日、十月十七日

- (4) 「東日本大震災復興祈念 奈良・中宮寺の国宝展」
十一月十二日～一月十二日
鑑賞者数 三万五千五百四十一人
講演会 ※中止
展示解説 ※中止
- (5) 「百木繚乱 多様な近代木彫の魅力」
一月三十日～三月二十一日 ※開催延期
まちなか美術講座 二月六日 ※中止
- ## 3 教育普及活動
- 自由に創作活動を楽しめるオープンアトリエ、各種教育プログラム、一般の県民を対象にした実技と鑑賞の講座等、多彩な教育普及活動を実施した。
- (1) 通常活動
- ① 美術なんでも相談
開館中随時
 - ② オープンアトリエ
開館中随時
 - ③ 造形遊戯室
※四月十一日より閉室
 - ④ 教育プログラム

ア 概要説明「宮城県美術館の特色等の説明」

随時、団体の要望に応じて実施

イ 展示解説「常設展、特別展の解説」

随時、団体の要望に対して実施

ウ 美術館探検「美術館施設を使って鑑賞の練習」

※中止

エ 美術探検「鑑賞―常設展をめぐって」

※中止

オ ワークショップ「粘土などを用いた表現活動」

※中止

カ 建物見学「美術館施設の機能性を見学」

随時、団体の要望に応じて実施

キ 自主活動「自主的な鑑賞活動等」

随時、団体の要望に応じて実施

(2) 特別活動

① 公開講座

ア 実技ワークショップ

○ 「『画面』をあそぶ」

四月十八日、十九日 ※中止

○ 「素材からの想像／造・絵平面と支持体」

六月十三日、十四日

○ 「量塊からの想像／造・線材・面材・塊材から」

七月十八日、十九日

○ 「はじめての木工『おもちゃ』編」

A日程 八月七日・九月二十五日

B日程 八月九日・九月二十七日

○ 「写真再見並べてみる写真集へ」

九月十二日

○ 高校生対象ワークショップ

A 「粘土で立体をおこす」

十月四日、十一月八日

B 「アクリル絵具で描く」

十月十一日、十二月六日

C 「美術館の作品を見る」

十一月一日、十二月十三日

○ 「インスタレーションの空間・絵画の空間」

十月十七日、十八日

○ 「はじめての木工『寄木』編」

A日程 十一月二十日

◎地震の影響による臨時休館のため三月十九日

中止

B日程 十一月二十二日

◎地震の影響による臨時休館のため三月二十一日

は中止

○ 「絵画の実験 誠実なまなざしへ」

十二月十九日、二十日

○ 「絵の色 クレー」

二月二十日、二十一日

◎ 地震の影響による臨時休館のため中止

○ 「カラージュイメージ・物・空間」

三月二十七日、二十八日

◎ 地震の影響による臨時休館のため中止

イ どうようびキッズ・プログラム

毎月第一土曜日など

○ 四月「たんけんの日①」

※中止

○ 五月GW特別企画「紙とあそぶ」

※中止

○ 六月「たんけんの日②」

※中止

○ 七月「水とあそぶ日」

※中止

○ 八月「たんけんの日③」

※中止

○ 九月「色とあそぶ日」・雨天のため中止

○ 十月特別企画「紙とあそぶ」

○ 十一月「木とあそぶ日」

○ 十二月「光とあそぶ日」

○ 一月「形とあそぶ日」

○ 二月「色とあそぶ日」

○ 三月「光とあそぶ日」

◎ 地震の影響による臨時休館のため中止

② 美術講座

ア まちなか美術講座

会場 東北工業大学一番町ロビー

講師 美術館学芸員

※中止

イ 県民大学（美術館担当分）

講師 美術館学芸員

○ 第一回「装飾芸術からデザインへ

—モリス、アール・ヌーヴォー—

二月二十七日

◎ 地震の影響による臨時休館のため中止

○ 第二回「大正期のデザイン

—当館コレクションを中心に—

三月六日

◎ 地震の影響による臨時休館のため中止

○ 第三回「それぞれのモダンデザイン

アアルト、サンテリア、ミース」

三月十三日

◎地震の影響による臨時休館のため中止

◎第四回「プリントから建築まで

―パウハウスとモダンデザイン

三月二十日

◎地震の影響による臨時休館のため中止

ウ 美術館講座「scape 風景をめぐって」

◎第一回 西洋風景画の歴史から

「伝統への敬意と対抗心

コンスタブルとターナー」

十一月二十八日

講師 杉村浩哉（栃木県立美術館主任研究員）

◎第二回 音と人との関係を探る

「世界の聴診

―サウンドスケープというアイデア―

十二月五日

講師 永幡幸司（福島大学教授）

◎第三回 未来に残す「景观」とは

「ランドスケープ遺産 インベントリーをつくる

保存すべき風景とは何か、どう考えるのか」

十二月十二日

講師 温井 亨（東北公益文科大学教授）

◎第四回 写真を通して「日常」を見る

「コモンスケープ ありふれた風景」

十二月十九日

講師 和田浩一（美術館学芸員）

③ 学校との連携

ア アウトリーチ

※中止

イ 中学生招待事業

※中止

ウ 東北大学病院院内学級招待事業

※中止

エ 美術館を活用した鑑賞教育研修会

※中止

④ ハイビジョンギャラリー

上映内容「オルセー美術館」等

上映日 毎週土曜日、日曜日、祝日

※一部中止

⑤ 公演会

※中止

(3) 特別展

① 関連事業

ア 「ウィリアム・モリス 原風景をたどるデザイン

の軌跡」スペシャル・ギャラー・トーク

四月十一日

講師 織作峰子（大阪芸術大学教授）

※中止

イ 講演会「大坂芸術大学図書館所蔵

『ケルムスコット・プレス刊本コレクション』について」

五月二日

講師 藪亨（大坂芸術大学名誉教授）

※中止

ウ 開幕記念講演会

「ヨーロッパの宝石箱 リヒテンシュタイン侯爵家の美術コレクション」

七月十四日

講師 ヨハン・クレフトナー（本展監修者）

※中止

エ 講話「東日本大震災復興祈念 東山魁夷 障壁画

制作―画家の言葉から」

十月三日

講師 菅野仁美（美術館学芸員）

オ 講演会「東山魁夷をもう一度」

十月二十四日

講師 野地耕一郎（泉屋博古館分館長）

② 展示解説

ア ウィリアム・モリス展

四月十八日、五月十六日、六月六日

※中止

イ リヒテンシュタイン侯爵家の至宝展

八月一日、二十二日、二十九日

ウ 東山魁夷 唐招提寺御影堂障壁画展

九月二十二日、十月十七日

(4) コレクション展示ギャラリー・トーク

① ギャラリー・トーク

ア 特集 太田聴雨

四月十一日 ※中止

イ 石川舜

四月二十五日 ※中止

ウ 日本の近現代美術

五月九日 ※中止

エ 特集 太田聴雨

五月二十三日 ※中止

オ 特集 太田聴雨

六月十三日 ※中止

- カ 石川舜
六月二十七日 ※中止
- キ 特集 大宮政郎
七月十一日 ※中止
- ク 人を描く シーレほか
七月二十五日
- ケ 日本の近現代美術
八月八日
- コ 特集 大宮政郎
八月十五日
- サ 特集 大宮政郎
九月十二日
- シ 特集 長谷川湊二郎
九月二十六日
- ス 荘司福のスケッチ
十月十日
- セ 特集 長谷川湊二郎
十一月十四日
- ソ クレーとカンディンスキー
十一月二十八日
- タ 学芸員のおすすめ
十二月十二日

- チ 展示室内外の彫刻
一月九日
 - ツ 特集 大泉茂基
二月十三日
 - テ 「ネオ・ダダ」、その後
二月二十七日 ※地震による臨時休館のため中止
 - ト 特集 大泉茂基
三月十三日 ※地震による臨時休館のため中止
 - ナ 日本の近現代美術
三月二十七日 ※地震による臨時休館のため中止
- ② 絵本原画のギャラリー・トーク
- ア 寺島龍一「なんきよくへいつたしろ」ほか
六月十一日 ※中止
 - イ 寺島龍一「なんきよくへいつたしろ」ほか
六月二十五日 ※中止
 - ウ 太田大八「がらんぼーごろんぼーげろんぼ」ほか
七月九日 ※中止
 - エ 太田大八「がらんぼーごろんぼーげろんぼ」ほか
八月十三日
 - オ 太田大八「がらんぼーごろんぼーげろんぼ」ほか
九月十日
 - カ 矢吹申彦「きょうりゅうがすわっていた」ほか

十月八日

キ 矢吹申彦「きょうりゆうがすわっていた」ほか

十一月十二日

ク 矢吹申彦「きょうりゆうがすわっていた」ほか

十二月十日

ケ 中谷千代子「ジオジオのかんむり」ほか

二月十一日

コ 中谷千代子「ジオジオのかんむり」ほか

三月十一日 ※地震による臨時休館のため中止

5 県民ギャラリーの運営

県民の創作活動の発表及び鑑賞の場を提供するため、県民ギャラリーを運営した。

6 美術に関する調査研究

美術館の事業を充実するため、その基礎となる調査研究を行った。

7 美術作品の収集、保存

優れた美術作品や資料の散逸、損傷、亡失を防ぎ、これらの作品等を後世に伝えるため、正確な基礎調査に基づいて、美術作品・資料の収集、保存を行った。

8 広報

「2020年度の催し」「美術館ニュース」「宮城県美術館マップ&ガイド」「小中学生向けグループ学習用ガイド」等の広報資料や展覧会ごとにポスター・チラシ等を制作し、配布した。

また、美術館ホームページや共催メディア等の広報媒体を広く活用するとともに、ツイッターを利用し、広報活動の積極的な推進に努めた。

9 刊行物の出版

「美術館年報／研究報告」を発行し、美術館活動の成果を公表した。

(四) 文化財課

表彰関係

令和二年度地域文化功労者文部科学大臣表彰受賞者

○関谷 勝雄（大衡村）

令和二年文化の日（教育文化功労）表彰受賞者

○佐々木 勝典（塩竈市）

令和二年教育功績者表彰受賞者

○宮城 正年（白石市）

○鈴木 朝博（塩竈市）

(五) 東北歴史博物館

1 特別展

(1) 「みやぎの復興と発掘調査」展

期日 五月十九日～六月十四日

(当初予定：四月二十五日～六月十四日)

※新型コロナウイルス感染症の影響で会期短縮、関連
行事はすべて中止

(2) 「GIGA・MANGA 江戸戯画から近代漫画へ」

期日 七月四日～九月六日

・講演会

① 「葛飾北斎の画業と『北斎漫画』」

開催日 七月十二日

講師 すみだ北斎美術館学芸員 竹村 誠 氏

② 「時代で見る近代漫画のカタチ」

開催日 八月十六日

講師 川崎市市民ミュージアム学芸員

新美 琢真 氏

・ワークショップ

① 「多色刷りを体験しよう!」

開催日 ①七月十一日 ②七月二十五日

③八月八日 ④八月二十二日

講師 東北歴史博物館職員

② 「GIGA・MANGA の缶バッジを作ろう!」

開催日 ①七月十八日 ②八月一日

③八月十五日 ④八月二十九日

講師 東北歴史博物館職員

③ 「石ノ森萬画館コラボ企画

石ノ森マンガのミニ缶バッジを作ろう!」

開催日 七月十一日

講師 石ノ森萬画館職員

・ギャラリートーク

開催日 八月二日

講師 京都精華大学准教授 伊藤 遊 氏

・展示解説

開催日 会期中の毎週日曜日

解説者 東北歴史博物館職員

(3) 「伝わるかたち／伝えるわざ

——伝達と変容の日本建築」

期日 九月二十六日～十一月二十三日

・記念講演会

① 「建築の情報はどうのように伝わったのか」

開催日 九月二十七日

講師 東京藝術大学美術学部建築科教授

光井 渉 氏

② 「建築が伝わること／建築を伝えること」

開催日 十月十八日

講師 東北大学大学院工学研究科

都市・建築学専攻准教授 野村 俊一 氏

・ワークショップ

① 「起し絵図をつくろう！」

開催日 十一月三日

講師 東北工業大学建築学部准教授 中村 琢巳 氏

② 「超巨大！木組み模型を組み立て・解体しよう！」

開催日 十一月八日

講師 木組み博物館長 谷川 一雄 氏 他2名

宮大工棟梁 八田 広明 氏

・展示解説

開催日 会期中の毎週日曜日

解説者 東北歴史博物館職員

2 パネル展

(1) 「令和元年度宮城の発掘調査」

期日 五月十九日～六月十四日

主催 宮城県教育庁文化財課 共催 東北歴史博物館

(2) 「昭和初期にみる海図の世界」

期日 九月八日～九月二十二日

主催 海上保安庁第二管区海上保安本部

共催 東北歴史博物館

(3) 「記念物百年展」

期日 一月十九日～三月十四日

主催 文化庁 共催 宮城県教育委員会

3 館長講座

「明治維新とみやぎの芸能」

第一回 「江戸時代の宗教観と芸能の盛行」

期日 六月十三日

第二回 「江戸歌舞伎と仙台の田植踊」

期日 六月二十七日

第三回 「明治十八年・藩祖政宗公二百五十年祭の雀踊」

期日 七月二十五日

第四回 「法印神楽の変化」

期日 八月二十二日

第五回 「南部神楽の流行」

期日 九月十二日

第六回 「十二座神楽の拡大」

期日 九月二十六日

第七回 「大乘神楽の対応」

期日 十月二十四日

第八回 「鹿踊の定着」

期日 十一月二十一日

講師 東北歴史博物館長

4 博物館講座

(1) 古文書講座

入門編

期日 八月九日・九月六日・十月四日

中級編

期日 十月二十五日・十一月二十二日・一月二十四日・

二月二十八日

講師 東北歴史博物館職員

(入門編、中級編いずれも)

(2) 史料講読講座

期日 六月二十一日・七月五日・七月十九日

講師 東北歴史博物館職員

民俗芸能講座

「口承文芸の世界」

期日 一月十日・二月七日・三月十四日

講師 東北歴史博物館職員

(4) れきはく講座

第一回 「阿豆流為(アテルイ)と坂上田村麻呂」

期日 一月九日

第二回 「新「発見」！漆紙文書のミカタ」

期日 一月十六日

第三回 「多賀城碑建立と新羅侵攻計画」

期日 一月二十三日

第四回 「大崎市団子山西遺跡

——古代城柵につながる集落跡——

期日 一月三十日

第五回 「東北地方の埴輪」

期日 二月六日

第六回 「お殿様と絵画、藩士と絵画」

期日 二月二十七日 ※中止

第七回 「今こそ『医は仁術』！忘れていませんか？

くスペイン風邪と新型コロナウイルスをめぐって」

期日 三月六日

第八回 「貞観津波堆積層の構造と珪藻分析

——宮城県多賀城市山王遺跡東西大路南側溝

・山元町熊の作遺跡からの検討」

期日 三月十三日

講師 東北歴史博物館職員

(第一～第七回いずれも)

5 体験教室

第一回 「木簡で、おくれたー!？」

期日 八月二日

第二回 「災い飛んでいけ！」

期日 八月九日

第三回 「ガトールカワラを作ろう！」

期日 八月十六日

第四回 「昔の絵具を作ってみよう！」

期日 八月二十三日

第五回 「ミニ屏風を作ろう！」

期日 一月十日

第六回 「トンボ玉を作ろう！」

期日 一月十一日

第七回 「冬のお仕事！ワラを使って作ってみよう！」

期日 一月十七日

第八回 「篆刻(てんこく)にチャレンジしよう！」

期日 一月二十四日

講師 東北歴史博物館職員

7 多賀城跡巡り

期日 六・九・十月の主に第二・第四日曜日

講師 東北歴史博物館職員

8 民話を語ろう

(1) 民話にふれよう

期日 十月三日

語り 多賀城民話の会・利府民話の会

(2) 民話を語ろう

期日 十月二十五日・十一月一日・十一月八日・十一月十五日

十一月十五日

講師 利府民話の会

参加者 小学生

9 体験イベント

(1) 「秋の〴〵見」覚まるかじり博物館二〇二〇」

期日 十月十日

(2) 「冬も元気にはくぶつかん！二〇二一」

期日 二月十三日

6 展示解説

期日 随時

10 調査研究

歴史・文化に関する分野を対象とし、東北全体を視野に入れた調査研究活動を展開して、その成果を定期的に公開した。

三 (公財) 宮城県文化振興財団

(平成四年十月一日設立) 理事長 青木 直之

1 文化芸術に係る鑑賞及び参加の機会の提供並びに情報の発信

(1) 鑑賞機会の提供

イ 東京エレクトロンホール宮城における鑑賞及び参加の機会の提供

① みやぎ文化芸術応援事業「トモシビ・プロジェクト」

配信期間 十月二十三日

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に伴い、活動の自粛を余儀なくされたプロのアーティスト等が制作した動画作品をWeb上に掲載・発信する機会を設け、その活動を支援するとともに、県民が在宅でも文化芸術に触れられる機会を提供

分野 文化芸術全般
団体 体 taе-chu、熊谷駿 他

六十九作品、二百人

② 定禅寺フォトコンテスト展

期日 十二月七日～十三日

会場 東京エレクトロンホール宮城五階展示室

作品 宮城県文化振興財団賞「雪」山本正彦

宮城県芸術協会賞「僕はジャズマン」賞
麻さところ 全百十七点

ロ 地域文化会館との共催事業

① 声優朗読劇 フォアレーゼン 藤原実方

期日 九月二十七日

会場 名取市文化会館 大ホール

内容 若手人気声優による朗読劇（名取市にゆかりのある歌人で、光源氏のモデルの一人と言われている中将藤原朝臣実方を題材にしたオリジナル脚本）

出演 佐藤拓也、小野友樹、廣瀬大介 他

② 陸上自衛隊東北方面音楽隊コンサート2020

期日 十二月二十日

会場 多賀城市民会館 大ホール

曲目 ナイルの守り、カルメン協奏曲、鬼滅

の刃メドレー 他

出演 陸上自衛隊東北方面音楽隊

③ まほろばお好み演芸会「魅知国たいわ寄席」

期日 令和三年一月二十四日

会場 大和町ふれあい文化創造センター

④ 音楽の絵本 ダンディズム

期日 令和三年二月二十一日

会場 蔵王町ふるさと文化会館

出演 デイズニー名曲メドレー、こぎつね、ど
んぐりころこロックンロール 他

出演 オカピ（指揮）、ブルーシアンプラス（金
管五重奏）、弦うさぎ（ピアノ）、サキソ
フォックス（アルトサクソス）

(2) 参加する機会の提供

① 子どもが主役のワークショップタイム！みやぎア
トファミリアの日

期日 美術タイム 九月二十七日、十月四日、
十一月二十二日

演劇タイム 十月十八日、十一月七日、
二十九日

会場 東京エレクトロンホール宮城 会議室棟

講師 てんたん人形劇場、Botanical People、佐

野美里、仙台シアターラボ、横山真（劇団

丸福ボンバーズ)、西海石みかさ
対象 幼児から大人まで

(3) 文化芸術に係る情報の収集及び提供

① ホームページの管理運営

ホームページ等を活用し、県民に文化施設、文化団体の状況及びその催事等の情報を提供した。

(4) 文化芸術活動に係る人材の育成及び体験機会の提供

① 芸術銀河アウトリーチ市町村事業

期日 十月十二日～令和三年三月九日

会場 県内小中学校 他

講師 中川賢一(ピアノ)、荒川洋(フルート)、

山形交響楽団 弦楽三重奏 他

内容 生の芸術に触れる機会が少ない児童・生徒

に、鑑賞の機会を提供するいわゆる「アウトリーチ活動」として実施したものの。

② 芸術銀河アウトリーチ普及事業

期日 十一月二日～令和三年二月二十二日

会場 栗原市立高清水小学校 他、県内の小中学

校及び福祉施設十九校

出演 仙台チェンバーアンサンブル、櫻井希、田

原さえ、マリンピア 他

③ みやぎ心の復興「朗読講座」

期日 亘理 十月七日、二十一日、十一月四日、

十八日、十二月二日、九日、十六日、令和

三年一月六日、二十日

塩竈 十月二十日、十一月十七日、二十四

日、十二月八日、二十二日、令和三年一月

十二日、二十六日、二月二日、九日

会場 亘理町立図書館、塩竈市公民館

講師 渡辺祥子

内容 沿岸部の被災地市民の心のケアを目的に実

施。主に東北にゆかりのある作家の小説(昔

話)をテキストに使用。

(5) 文化芸術の振興及び支援

① 第五十七回宮城県芸術祭(九月二十五日～令和三年

三月二十一日、せんだいメディアテーク他、宮城県芸

術協会と共催)

② 第一回杜のみやこ工芸展(十一月五日～九日、東北

福祉大学仙台駅東口キャンパス「TFUギャラリー

Mini Mori」、河北文化事業団と共催)

③ 令和二年度宮城県写真展(審査のみ、宮城県写真連

盟と共催)

- ④ 第六十六回松島芭蕉祭並びに全国俳句大会（句集作成のみ）（松島町瑞巖寺本堂他、宮城県俳句協会と共催）
- ⑤ みやぎミュージックフェスタ2021 in しらいし（令和三年三月二十七日、白石市文化体育活動センター、みやぎミュージックフェスタ2021 in しらいし実行委員会と共催）

(6) 文化芸術活動支援事業

- ① 文化団体等支援事業 六件（上期五件、下期一件）
- ② 文化団体等震災復興支援事業 一件（上期一件）
- ③ 文化団体等人材育成支援事業 二件（上期一件、下期一件）
- ④ 名義後援事業

(7) 東京エレクトロンホール宮城管理運営業務

- ① 会館全体の管理運営。施設の使用許可申請の許可並びに利用料金の徴収・収納他
- ② (公社) 全国公立文化施設協会、同東北支部、宮城県公立文化施設協議会に関する業務

※令和二年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、当初の事業計画の一部（ジュニアジャズミーティング in みやぎ、松竹大歌舞伎、笑いの芸術野村万作・萬斎狂言公演等）を中止した。

四 (公財) 慶長遣欧使節船協会

(平成四年一月二十二日設立 代表理事 一力 雅彦)

1 ミュージアム管理事業

復元船サン・ファン・パウティスタを貴重な県民の財産として維持管理するため、適切な補修等を実施し、併せて船舶技術・船舶文化に関連する資料を展示するなど慶長使節の偉業と帆船文化に関する事業の充実に努め、新型コロナウイルス感染症防止対策を図りながら、企画事業等を実施した。

2 復元船管理事業

老朽化に直面している復元船については、令和三年三月末をもって展示公開を終了することが決定され、それまでの間、指定管理者として宮城県や復元船建造企業など専門知識を有する方々などと協議しながら、適切な維持管理方法などを検討し、展示を継続した。(乗船中止措置は平成二十八年三月より継続)

3 企画事業

サン・ファン友の会等の関係団体と積極的に連帯を図りながら、地域の再生・文化振興に歴史・文化の分野から貢献できるよう、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を図りなが

ら企画事業の充実に努めた。

(1) 企画展「帆船模型から見る世界の船〜Around The World〜」

期間 四月三日〜八月三十一日

会場 サン・ファン館 企画展示室・ロビー

内容 所蔵している様々な国の帆船模型を紹介する企画展を開催した。

※当初は四月三日から六月八日までの開催予定だったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止及びサン・ファン館臨時休館のため、開催を延長した。

(2) 「おうちでサン・ファン」プログラム

期 日 四月十六日

内容 新型コロナウイルスの影響で外出が困難な中、自宅でも楽しめる企画として、「ぬりえ」「ふくわらい」「クイズ」などをサン・ファン館ホームページ・Facebookで提供した。

(3) サン・ファン館GW関連イベント

期 間 五月二日〜六日(開催中止)

会 場 サン・ファン館

内 容 ゴールデンウィークに合わせて、家族連れなどが楽しめる様々なイベントを開催する予定

- (4) 第二十七回サン・ファン祭り(共催事業)
- 期日 五月二十四日(開催中止)
- 会場 サン・ファンパーク及びミュージアム内
- 内容 復元船の進水を祝い、地域活性化を目指す目的で毎年五月下旬に開催している。今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、一旦は秋季の開催に向けて延期となったが、その後来場者および参加者の健康と安全を第一に開催を検討した結果、中止となった。

- (5) 慶長遣欧使節帰国四〇〇年記念「サン・ファン号を未来へつなぐコンクール」
- 期間 八月上旬(令和三年一月十七日)
- 会場 サン・ファン館 展望棟エントランス・ロビー
- 内容 慶長遣欧使節帰国四〇〇年を記念し、宮城県内の小中学生を対象に「絵画部門」「デザインマーク部門」「作文部門」の三部門からそれぞれテーマに沿った作品を募集し、全応募作品を展示した。

※例年開催している絵画教室及び講師による

- (6) 絵画展は、新型コロナウイルス感染症の影響により開催を見送った。
- サン・ファン出前講座「希望の帆船サン・ファン・パウティスタ号について学ぼう」

- (7) 慶長遣欧使節帰国四〇〇年記念事業 記念式典・シンポジウム・レセプション
- 期日 九月二十二日
- 会場 仙台国際ホテル
- 内容 二〇二〇年は慶長遣欧使節帰国から四百年の節目となる。サン・ファン・パウティスタ号を取り巻く歴史と牡鹿半島の風土・自然の魅力を引き出し、地域に愛されるサン・ファン館の再生を期するとともに、本県が内外に誇る先人の歴史遺産を改めて顕彰するため開催した。

- (8) 慶長遣欧使節帰国四〇〇年記念 サン・ファン・パウティスタ出帆記念祭(共催事業)

期間 十一月一日～三日

会場 サン・ファン館内

内容 二十七年の間、震災をも超えて雄姿を見せ続けた復元船に感謝と労いを示すため、サン・ファン・パウテイスタの出帆日を記念して、慶長使節に関連する各種館内イベントを開催した。

(9) サン・ファン・イルミネーション2020—The Final—

期間 十一月六日～令和三年一月二十四日

会場 サン・ファン館

内容 復元船とサン・ファンパーク合わせて約四万球もの電飾を施し、ライトアップを実施した。復元船の展示が二〇二二年三月末までとなり、復元船のイルミネーションは今年度が最後の開催となった。

(10) サン・ファン館 夜間特別開館

期間 イルミネーション実施期間中の十二月中の土日(十二月二十六日・二十七日を除く)

会場 サン・ファン館

内容 今年で最後となる復元船「サン・ファン・パウテイスタ」のイルミネーションを、館内の

中段野外広場で鑑賞できる場を提供した。
※「ファンタジーフェスタ2020」は新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点より開催を見送った。

令和二年度 芸術選奨

●美術（日本画）



安住 英之
あずみ ひでゆき

昭和二十九年生まれ。

日本画家として、早くから河北美術展や春の院展で入選を重ね、昭和五十二年度宮城県芸術選奨新人賞を受賞している。

河北美術展では河北賞（最高賞）を受賞し、招待作家を務めた後、現在は顧問として活動している。また、自身の作品制作や発表だけでなく、高校や大学で教壇に立ち、日本画の普及・指導にも長年にわたって尽力してきた。

令和元年度は、河北美術展への顧問出品や、企画展「修竹展―篆刻と書と―」への特別出品等の活動が高く評価された。

今後も精力的な制作活動により、日本画界に刺激を与え続けるとともに、「楓の会」等において、若手日本画家の育成に努められ、本県の日本画界のけん引役としての役割が大いに期待される。

●美術（洋画）



森 敏美
もり としみ

昭和二十九年生まれ。

平成元年に国営みちのく湖畔公園アートフェスティバルでグランプリを受賞。その後、平成六年の福島県国定記念体育館壁画などと、多くの公共施設にパブリックアートとしての壁画作品を制作。近年は、ミクストメディア作品が評価され、平成二十八年にはリサイクルアート展2016準グランプリも受賞している。また、美術解剖学会理事、宮城県芸術協会運営委員としての活動のほか、長年におたつて学生の指導にも尽力してきた。

令和元年度は、特別展「交響のソロ」十一人の作家に見るみやぎの芸術のいまやモザイク展2019、宮城県芸術祭への委員出品等、意欲的な活動を行った。

氏の作品は、その豊かな発想により、平面や立体と、常に変遷を続けている。今後も、モザイク、プレスコ、ミクストメディア等の種々の技法を用いて、作品の幅は広がりを見せ、発展を続けていくことが期待できる。

●美術（工芸）



小川 和子
おがわ かずこ

昭和十八年生まれ。

近藤孝則氏に師事し、河北工芸展で初入選を果たすと、以後、河北工芸展や新工芸東北会展等での受賞を重ね、河北工芸展招待作家として活動するに至っている。また、全国でも、日展入選五回、新工芸展奨励賞受賞と、実績を重ねている。

また、仙台市太白区に築窯した香風窯において、香風会を主宰し、県内での指導・普及活動も続けてきた。

令和元年度は、改組新第六回日展で入選、河北工芸展招待作家特別賞を受賞するなど、高い評価を得た。

今後、絵画で培った色彩感覚を生かし、優れた作品を発表していくことはもとより、後進の指導や、陶芸の裾野を広げていくことが望まれる。

●音楽



佐藤 寿一
さとう しゅんいち

昭和三十五年生まれ。

平成十年から平成十六年まで、山形交響楽団指揮者を務め、実績を重ね、仙台フィルハーモニー管弦楽団をはじめ、国内のオーケストラの他、海外のオーケストラで客演指揮を務めている。

平成二十三年、震災後わずか十五日後に開催された仙台フィルハーモニー管弦楽団による第一回復興コンサートの指揮や、平成二十五年のニューヨーク・カーネギーホールで指揮を務めた「第九」公演は大好評を博した。

令和元年度は、パツハホール管弦楽団、石巻市民交響楽団の定期演奏会の指揮を務めたほか、かくだ田園ホールでの「第九」公演において、自身の編曲による室内管弦楽団編成による上演を試み、地方における「第九」公演の一つの演奏のあり方を示したと言える。

今後、オーケストラ指揮、オペラ指導など、幅広い分野で、県内はもちろん、広く国内外での活躍が期待される。

●メディア芸術



せんだいたんべんえいがさいじつこういんかい
仙台短編映画祭実行委員会

平成十三年発足。

仙台ムービーアクトプロジェクトを前身として、市民有志により発足。映画館等では上映される機会のない短編映画に着目し、全国でもユニークな映画を毎年開催している。せんだいメディアアテークを主会場とし、県内の高校生作品の上映機会の提供や、「新しい才能に出会う」という、表彰とは異なる形式の新人発掘のプログラムにより、若い映画人が仙台・宮城の地を訪れる機会を創出してきた。また、東日本大震災後の平成二十三年には、四十一名の作家によるオムニバス映画「明日」を制作・上映し、耳目を集めた。

令和元年度に開催した第十九回仙台短編映画祭は、上映・展示など十七のプログラムで構成され、三日間の会期に約千二百名が来場した。

今後も映画を通じた地域社会と国内外の人材の交流の中心となり、いづれ本県出身の映画人の輩出に結びつくことを期待する。

芸術選奨新人賞

●美術（洋画）



やまもと
泰士

昭和五十年生まれ。

これまで個展、グループ展への出品回数は五十回を超え、その制作手法も、版画、シルクスクリーン、CGなど、多岐にわたり、近年は造形作家としても活躍している。デザイナーとしてのパッケージデザインや、ロボットなどをモチーフとしたイラスト制作も手がけており、近年活躍の場を広げている。

令和元年度は、ライフワークテン20、新現美術協会展に出品したダンボールアートクラフトの立体造形作品が好評を博した。

平面作品、立体造形作品のユニークな作品は、教育現場での活用にも可能性が感じられる。今後は児童向けのワークショップなど、次世代の想像力を育む制作活動の一役を担い、活躍の場を広げていくことが期待される。

●美術(書)



千葉 四帆
ちば しほ

昭和四十三年生まれ。

河北書道展、宮城県芸術祭書道展でこれまで入賞を重ね、毎日書道展等の全国展でも活躍を続けている。前衛書を得意とし、独自の超長鋒を使い、白と黒が響き合う現代的な作風は中央でも評価を集め、近年は近代詩文書にも前衛書の用筆を取り入れるなど、意欲的な作品を発表している。

令和元年度は、前衛書作品を中心に、近代詩文書など多岐にわたって公募展、会員展への出品を行ったほか、河北書道展招待作家、宮城県芸術協会書道部運営委員に就任するなど、精力的に活動した。

今後も自身の研さんに努め、前衛書の表現の可能性を追求するとともに、前衛書の魅力を後進に伝え、若手の育成・けん引役としての活躍が期待される。

●美術(写真)



伊東 卓
いとう たく

昭和四十六年生まれ。

十代の頃から内装業を生業とする氏は、「Room」シリーズで、リフォーム前の壁面に残された、他者の生活の痕跡を撮影してきた。作品を読み進めると、そこに暮らした人との目線の共有は、感情の共有へと変容し、作品は、人のいた箱・空間であることを超え、棲む者の皮膚、その抜け殻として立ち現れる。

令和二年一月に開催した個展「光の穴」もその延長にあり、加計呂麻島の格納壕等の作品は、壕にいた者との目線・感情の共有、共鳴へと揺さぶられていくもので、言語化することが困難な領域を写真によって表出させた優れた作品として高く評価される。

今後も、継続して作品制作に真摯に向き合うとともに、作品集の出版を含め、新たな写真の可能性の領域を広げてほしい。

●文芸



佐藤 厚志
さとう あつし

昭和五十七年生まれ。

氏は、仙台市内の大手書店に勤務する傍ら、十余年にわたって執筆活動に取り組んできた。平成二十九年に「蛇沼」で新潮社主催の「新潮新人賞」を受賞。半世紀以上の歴史を持つ新人文学賞の受賞は、その創作物の評価が全国クラスであることを物語っている。

令和元年度は、令和二年三月に発表された第三回仙台短編文学賞において、応募総数四百七十七作の中から、大賞を受賞した。受賞作「境界の円居（まどい）」は、東日本大震災後の気仙沼市を舞台に描き、選考委員の柳美里氏をして「傑作である。」と言わしめた。なお、同賞における大賞受賞は、県内在住者として初の快挙でもある。前述した二作品は、いずれも県内を小説の舞台としており、文芸作品を通じて郷土を描く意思も感じ取れることから、創作活動への旺盛な意欲を継続されるとともに、新たな作品においてもその意思の継続を期待したい。

●演劇



芝原 弘
しばはら ひろし

昭和五十七年生まれ。

石巻市出身の氏は、東京を中心に活動を行っていたが、東日本大震災で被災した故郷を芝居で元気づけたいとの思いから、平成二十五年に演劇ユニット「コマイぬ」を立ち上げた。以後、コマイぬで、朗読劇や絵本の読み聞かせなどの「よみ芝居」の創作を展開するとともに、いしのみまき演劇祭の企画や、県内外の劇団の舞台公演に客演を続けてきた。

令和元年度は、毎月一回のペースで企画・開催した「コマイぬ月いちよみ芝居」や、東日本大震災の被災地を題材とする「よみ芝居」あの日からのみちのく怪談」での構成・演出が高く評価されたほか、ミュージカル「シシ」主演など、確かな実力に裏打ちされた活動を展開した。

今後、氏自身のより一層の活躍はもとより、高校生や市民らの「よみ芝居」の輪への参加を広げるなど、地域での演劇活動の普及に寄与していくことが期待できる。



クレールバレエアトリエ

無料体験レッスン受付中

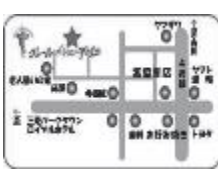
ワクワク楽しいバレエ☆あなたも一緒に始めませんか？

45年以上の歴史をもつバレエ教室です。可愛い3歳のお子様から大人のエクササイズまで、幅広いクラス構成で楽しくレッスンをしています。

初心者の方からプロを目指す方まで、丁寧に指導致します。



八木山南スタジオ



富谷スタジオ



☆お問い合わせ☆八木山南スタジオ本部

TEL/FAX 022-244-7547

仙台市太白区八木山南5丁目1の4 高橋厚子

ホームページも

見てね☆



clairballetatelier.com

宮城県芸術年鑑

第五十巻

令和三年四月一日発行

限定六六〇部

編集・発行

宮城県環境生活部消費生活・文化課

仙台市青葉区本町三丁目八番一号

〒九八〇-一八五七〇

電話 〇二二-二二二-二五二七(直通)

この芸術年鑑は六六〇部作成し、一部当たりの印刷単価は八三六円です。

プランニングから制作運営まで

舞台TV催物の企画・照明・音響・美術・映像・学術会議

LED・ポリカラー販売、録音からCD・DVD制作



株式会社 東北共立

〒982-0001仙台市太白区八本松二丁目10番11号

TEL 022 (246) 2591 FAX 022 (249) 5618

KYORITZ Group NETWORK

札幌・仙台・東京・千葉・神奈川・名古屋・大阪・金沢・福岡

東京エレクトロンホール宮城



施設の概要

大ホール (固定席1,590席)	1室
大会議室 (定員 200名)	2室
中会議室 (定員 100名)	1室
小会議室 (定員 40名)	1室
(定員 30名)	1室
(定員 15名)	1室
和室 (定員 20名 16畳)	3室
(定員 15名 12.5畳)	1室
教養室 (定員 20名)	2室
展示室 (184㎡、193㎡)	各1室
リハーサル室 (135㎡)	1室

公益財団法人 宮城県文化振興財団

〒980-0803

仙台市青葉区国分町三丁目3番7号

TEL 022 (225) 8641 FAX 022 (223) 8728

URL: <http://www.miyagi-hall.jp/>

e-mail: kenmin@miyagi-hall.jp

公益財団法人宮城県文化振興財団は、株式会社東北共立と陽光ビルサービス株式会社とともに指定管理者として、「東京エレクトロンホール宮城」の管理運営を行っております。

トロフィー・カップ・楯・メダル・バッジ・染め旗・優勝旗等



SENDAI
CUP

株式会社 **仙台カップ**

事務所 宮城県仙台市青葉区木町18-16

☎022-234-8510 FAX022-234-8566

メールアドレス sendaicup@coffee.ocn.ne.jp

ホームページ <http://www.sendaicup.co.jp>

パーティ・御宴会・受け賜ります

中国料理 **東龍門**

青葉区国分町 3-3-7

(東京エレクトロンホール宮城 2F)

TEL 022-215-8181

URL toryumon.act01.com

宮城県洋舞団体連合会

旬のダンスを52年
宮城の文化振興をささえ続けて半世紀



宮城県洋舞団体連合会

加盟団体紹介

石巻バレエ研究所 (古川バレエ教室) 佐東 悦子

Tel 0229-22-8488

Fax 0229-25-5480

【古川】【石巻】

Classical Ballet Arts SENDAI 沼倉 さつき

Tel 022-796-1199

【五橋】【東京】

さくらモダンバレエスクール 横田 百合子

Tel 022-373-5513 (Fax 兼)

【泉ヶ丘】【旭ヶ丘】【八幡】【長町】

佐取純子モダンバレエスタジオ 佐取 純子

Tel 022-712-1730 (Fax 兼)

Tel 022-262-0729

【一番町】【泉中央】【榴岡】【若林】【長町南】

仙台ノイエタンツ研究所

千尋 洋子 布山 さとみ

Tel 022-223-7640 (Fax 兼)

【五橋】【原町】【新田】【利府】【名取】【岩沼】【角田】

Soki Ballet International 左右木 健一

Tel 022-377-2055

【寺岡】

藤井サト子バレエ研究所

藤井 サト子

Tel 022-251-4917

Tel 022-225-8707

【定禅寺】【鶴ヶ谷】【松島】【多賀城】【七ヶ浜】

第17回 全国ダンスコンペティション in 仙台 2022

開催日時 / 2022.2.19(土) クラシック部門・アンサンブル部門
2.20(日) モダン部門

会場 / 日立システムズホール仙台・シアターホール

お問い合わせ / DCS実行委員会 070-1145-8011